

(様式第 10)

東医歯医医第
平成 26 年 10 月

厚生労働大臣

殿

開設者名 学長 吉澤 立

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
氏 名	国立大学法人 東京医科歯科大学医学部附属病院

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人 東京医科歯科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45	電話(03) 3813-6111
-----------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有)	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 神経内科	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無						
外科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
診療実績							

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)						
歯科と組み合わせた診療科名							
1	2	3	4	5	6	7	
歯科の診療体制 本院は東京医科歯科大学歯学部附属病院が隣接しており、密接な連携により歯科医療を提供する体制が整備されている。							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2呼吸器科	3病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	床	10床	床	712床	763床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	272人	354人	585.1人	看護補助者	27人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	14人	臨床検査技師	69人
薬 剤 師	49人	3人	51.5人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助 産 師	17人	4人	19.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	692人	33人	717.4人	臨床工学技士	24人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	148人
管理栄養士	11人	1人	11.5人	診療放射線技師	44人	その他の職員	39人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	12人
外科専門医	67人	耳鼻咽喉科専門医	17人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	10人	整形外科専門医	26人
泌尿器科専門医	15人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	12人
		合 計	285人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	622.2人	人	622.2人
1日当たり平均外来患者数	2344.4人	人	2344.4人
1日当たり平均調剤数	(入院) 945.2剤 (外来) 377.6剤		
必要医師数			195人
必要歯科医師数			人
必要薬剤師数			21人
必要(准)看護師数			391人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	285 m ²	鉄骨造	病床数	12床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	150m ²		病床数	9床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	41m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	533 m ²	鉄骨造	(主な設備) 検体検査システム一式			
細菌検査室	104 m ²	鉄骨造	(主な設備) 自動分析装置一式、細菌検査用情報システム一式			
病理検査室	310 m ²	鉄骨造	(主な設備) 病理標本作製システム一式			
病理解剖室	54 m ²	鉄骨造	(主な設備) 緩衝材マリン作成装置一式、病理解剖撮影システム一式			
研究室	902 m ²	鉄骨造	(主な設備) 高速液体クロマトグラフィー一式			
講義室	229 m ²	鉄骨造	室数	1室	収容定員	108人
図書室	20 m ²	鉄骨造	室数	1室	蔵書数	1,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	89.9%	逆紹介率	43.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	20,179人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,546人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	5,746人	
	D: 初診の患者の数	28,830人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 造血器腫瘍に対する移植治療			
医療技術名	放射線免疫治療(ゼバリン治療)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 悪性リンパ腫に対する免疫放射線療法			
医療技術名	難治性成人発症スティル病に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する生物学的製剤の使用	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ステロイド単独もしくは免疫抑制薬併用による治療に反応が不十分で、ステロイドの減量が困難な難治性病態を有する患者、または副作用のためにステロイドや免疫抑制薬による治療が十分に行えず、疾患の良好なコントロールが得られない患者に対して、生物学的製剤による治療を行った。			
医療技術名	難治性ANCA関連血管炎・全身性エリテマトーデス・関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 難治性の病態を有するリウマチ性疾患のうち、ANCA関連血管炎や全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)においては、リツキシマブの有効性が報告されている。 そこで、ANCA関連血管炎やSLE、RAなどのリウマチ性疾患患者のうち、本邦で現在承認されている既存治療では原疾患の良好なコントロールが得られない難治性病態を有する患者、または副作用のために既存治療が十分に使用できず、原疾患の良好なコントロールが得られない患者を対象にリツキシマブの投与を行った。			
医療技術名	持続血糖測定(CGM)システム	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要 腹部皮下にセンサーを挿入して皮下の組織間質液の糖濃度を24時間継続的に測定する。			
医療技術名	持続皮下インスリン注入療法(CSII)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 電動式携帯ポンプにより可変式かつ持続的に皮下にインスリン注入する治療法			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 原発性アルドステロン症の部位診断法。放射線科との協力の元、左右副腎静脈より採血し副腎静脈アルドステロン濃度を測定しアルドステロン過剰産生の責任病変を部位診断する			
医療技術名	腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 腎臓疾患および体液制御の異常に関わる危険遺伝子および遺伝子変異の同定として、腎性尿崩症・ギテルマン症候群・バーター症候群・多発性嚢胞腎そして偽性低アルドステロン症Ⅱ型を含む30例に対して、遺伝子解析をおこなった。			

医療技術名	重症心不全に対する対外設置型人工心臓植え込み後の長期管理	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 心臓外科で人工心臓を植え込んだ重症心不全患者の心臓移植待機期間中の内科管理を行っている。当施設は心臓移植実施施設以外では、都内で唯一の植え込み型人工心臓実施施設であり、心臓外科と共同して植え込み語の管理を行っている。治療成績も良好である。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する免疫抑制剤、生物学的製剤による治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 通常ステロイド治療が無効な難治例に対して、免疫抑制剤、生物学的製剤による治療を行い高い奏効率を認めている。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対するPET/CT、遺伝子による診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 保険診療の認められていない最新の知見に基づいた遺伝子(HLAおよびSNP)、PET/CTを用いた診断を行っている。他に行っている病院としては他に京大病院のみである			
医療技術名	冠動脈レーザー血管形成術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより冠動脈のアテロームプラーク、石灰等を蒸散させる治療方法。血栓性病変、ステント再狭窄に有効である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察する画像診断法。OCTを使用することで、冠動脈インターベンション術後の合併症、再狭窄率を低減させている。			
医療技術名	Cryoballoonを使用した肺静脈隔離術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 心房細動に対してCryoballoonを使用した肺静脈隔離術を施行した。欧米での報告から従来のカテーテルによる肺静脈隔離術と比べ治療成績が向上することが期待される。			
医療技術名	Non-contact mappingを使用したカテーテルアブレーション	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 Ensiteカテーテルを使用し心腔内の電位、解剖学的情報を多点記録する。不整脈の機序、回路の解析を行うことで治療成績の向上を目指している。			
医療技術名	閉塞性末梢動脈疾患にたいする末梢血単核球移植による治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症虚血肢患者にたいし、自己の末梢血より単核球を分離し虚血肢に投与することで、血管新生、創傷治癒を促進する。【高度先進医療】			
医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	210人
当該医療技術の概要 前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。 主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス静注療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ステロイド抵抗性/依存性の中等症から重症の難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス持続静注による治療。経口投与より迅速に効果の発現が得られる。			

医療技術名	IL28B遺伝子近傍の1遺伝子多型の測定	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 C型肝炎に対するインターフェロン療法の治療効果を規定する1遺伝子多型を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	C型肝炎ウイルスコア領域・ISDRの遺伝子変異測定	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 C型肝炎に対するインターフェロン療法の治療効果を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	C型肝炎ウイルスの遺伝子解析による薬剤耐性変異検査	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 C型肝炎に対する抗ウイルス療法への耐性を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	ダブルバルーン胆道内視鏡(DBERC)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う。			
医療技術名	シングルバルーン内視鏡による外来全小腸内視鏡検査	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 入院せず外来で、経肛門的にシングルバルーン内視鏡を挿入し、低侵襲に小腸全域を検査する。			
医療技術名	造血細胞移植	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 同種骨髄、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。原発性免疫不全症に対する移植は、白血病に対する移植と異なり、様々な合併所があり難易度の移植である。また家族内ドナーからのHLA半合致移植も行っている。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波同時記録	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 てんかん治療の進歩(外科治療など)に伴い、てんかん発作型の詳細な解析が重要性を増している。そのための最も標準的な方法はデジタル脳波計を用いて数時間～数日に及ぶ長時間ビデオ脳波同時記録を行うことであるが、小児においては記録・判読共に熟練を要し、施行可能な医療機関は限られている。			
医療技術名	小児に対する急性血液浄化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 急性血液浄化療法は、急性の機能不全、または慢性機能不全の急性増悪に陥った臓器に対する機能補助、もしくはサイトカインや抗体などの各種成分の除去を目的とした体外循環による治療である。小児ではその特性として、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく危険性が高いこと、そのために1ml単位の細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であること、から高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法は、血管拡張作用のある一酸化窒素ガスを直接肺に吸入することにより、肺血管抵抗を下げて、循環動態を改善させる治療法である。他の薬剤療法と比べ、体圧には影響を与えず肺動脈のみを選択的に拡張させることが利点であり、比較的安全に施行可能であるが、血小板機能障害やメトヘモグロビン血症などの副作用に注意して行う必要がある。			

医療技術名	肺高血圧症に対する持続プロスタグランジンI2投(PGI2)与療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺高血圧症を発症し、現在使用されている3種類の肺高血圧治療薬の内服(エンドセリン受容体拮抗薬、ホスホジエステラーゼ5阻害薬、プロスタグランジンI2作動薬)でも効果が不十分な症例に対し、導入している。中心静脈カテーテルを留置し、在宅でもPGI2持続静注療法を行っている。携帯用の輸液ポンプに、PGI2をつめて(すべて家人あるいは本人が実施)、毎日交換している。			
医療技術名	乳幼児の1型糖尿病に対する持続血糖モニタリングを利用した持続型インスリン皮下注射ポンプの導入	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 持続型インスリン皮下注射ポンプ(以下CSII)は欧米では一般化している糖尿病の治療方法であるが、日本ではその導入がおくれ、未だ少数の医療施設で導入されているに過ぎない。特にインスリン治療において低血糖のリスクと注射への拒否が強い乳幼児は、本治療による恩恵が最も大きいと考えられるものの、微細なインスリン量の設定や、迅速な低血糖への対応、また両親への細やかな指導など、特殊な技量を要求されることが多く、導入できている施設は限られている。本教室では3年前よりCSIIを導入している。特に幼児に対しては持続血糖モニターを用い、詳細に血糖を検討しながら、治療量を設定するという方法で、これまでに5名の5歳以下の患者への導入を行ない、いずれも良好なコントロールを得ている。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・代謝内分泌内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。当院は、平成22年度までに、この承認を得て実施中である。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	313人
当該医療技術の概要 薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス波通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			
医療技術名	腹腔鏡下噴門側胃切除術、ダブルトラクト再建	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 胃上部の胃癌に対して胃全摘術を回避して腹腔鏡下に噴門側胃切除を行う。この場合、逆流性食道炎が問題となるが、ダブルトラクトで再建することで、逆流性食道炎を抑え、胃に流れる生理的な経路を残すとともに、経口摂取料を増やすことも狙った超高齢化社会に適した術式			
医療技術名	空気圧駆動ロボットアームとヘッドマウントディスプレイによる立体内視鏡システムを用いた腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術において、3D映像の奥行き感により、詳細な解剖情報の下に、正確かつ直感的な手術を行えることが認知されてきた。我々はより自然な3Dと術者の思い通りのカメラ操作性の実現を目指し、空気圧駆動ロボットアームとジャイロセンサーを内蔵したヘッドマウントディスプレイを組み合わせた、立体内視鏡操作システムを用いた胃切除術を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	74人
当該医療技術の概要 従来の開腹手術と異なり、腹部の創を大きく切らずに腹部に1cm前後の穴を数カ所開けてその穴を通して腹部手術を行う。創が小さいため、痛みが少なく、整容性に優れた手術である。			
医療技術名	化学療法後大腸癌肝転移切除	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 切除不能な大腸癌肝転移に対し、化学療法によって転移巣を縮小させて切除を行う。また、切除可能な大腸癌肝転移症例に対しても、化学療法後に肝切除を行うことにより、再発率を低下させる。			

医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下腓体尾部切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に腓体尾部切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 迷走神経刺激による難治性てんかん手術			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティによるてんかん焦点切除	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 FMZ-PET・FDG-PETガイド、術中脳波等のマルチモダリティによるてんかん焦点切除術			
医療技術名	頭頸部・頭蓋底手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 頭頸部外科・形成外科・耳鼻咽喉科とのチームにて行う頭蓋底腫瘍摘出術			
医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 アミノ酸代謝PET結果をガイドに摘出			
医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 造影剤を用いない、MRIによる脳血流評価			
医療技術名	治療が困難な脳動脈瘤に対する頭蓋内血管ステントを用いた脳動脈瘤の血管内手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 これまで開頭術、血管内手術ともに治療が困難であった脳動脈瘤に対して、近年開発されたVascular reconstruction device(頭蓋内ステント)を用いて母血管の交通性を確保し、動脈瘤を閉塞させる技術である。極めて低侵襲的で患者に負担が少なく、画期的な高度医療技術である。			
医療技術名	内頸動脈完全閉塞(Carotid total occlusion)に対する経皮的血管形成再開通手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 これまで内頸動脈完全閉塞症に対する血行再建治療は、外科的な開頭術を用いた頭蓋内外の血管バイパス術が行われていた。本技術はこのような症例に対し、先進的な血管内手術手技及びデバイスを用いて、閉塞した内頸動脈を再開通させ、脳血流を回復させる技術である。逆行性の血行再建であるバイパス術に対して、生理的な順行性の血流が得られる点で画期的であり、極めて低侵襲的で患者に負担が少ない高度医療技術である。			
医療技術名	頭頸部腫瘍に対する内視鏡を併用した腫瘍塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 頭頸部領域の腫瘍は広範に進展し、血管成分に富むものが多い。外科治療はinterdisciplinaryなアプローチが必要で、血管内治療はその一翼を担っている。この腫瘍では従来のカテーテルを用いた塞栓術では十分な治療効果が得られないものがある。そのような症例でカテーテル塞栓術に加え、内視鏡観察下に3次元ロードマッピングを用いて鼻腔内で腫瘍を直接穿刺し、塞栓物質を注入して腫瘍を塞栓する外術である。先進的な血管撮影装置、高度な3次元シミュレーションシステム、高精細内視鏡システムを要する高度医療技術である。			

医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎や股関節手術をおこなう技術。			
医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 脊椎固定術をハイドロキシアパタイト人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	術中CTを併用した脊椎手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 脊椎手術中にCT撮影を行うことで、骨切除やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	表面筋電図を用いた脊椎後弯症患者の痛みの客観的評価	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 脊椎後弯症患者の疲労性腰痛を表面筋電図の波形を用いて客観的に分析評価する技術			
医療技術名	膝前十字靭帯2重束再建術	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 膝屈筋腱を2重束とし、関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-YVB療法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			

医療技術名	多汗症のボトックス注射	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 局所多汗で悩む患者さんは数多く、しかも確実な効果を見込める治療法に乏しい。そのような患者さんに対してボトックスの局所注射を行うことによって良好な効果を得ている。			
医療技術名	重症乾癬に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 乾癬は慢性に経過する炎症性皮膚疾患の代表的なものである。重症な本疾患に対して、生物学的製剤の投与が保険適応となった。当科においても重症例に対して使用しており、良好な効果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法をしようすることによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性皮膚疾患に対する大量ガンマグロブリン投与療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 水疱症や重症薬疹の症例において、免疫抑制療法のみではコントロール不良の症例に対して大量ガンマグロブリン投与を行い、良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性のアナフィラクトイド紫斑やアトピー性皮膚炎に対する根尖病巣治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 通常の治療でコントロール不良の症例において、歯性の根尖病巣の有無を検査し、存在する症例においてはこれを積極的に治療を行うことによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	難治性潰瘍に対する骨髓露出療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 特に末梢の潰瘍で、通常の治療でコントロール不良の症例において、骨髓を露出させることによって、幹細胞の遊走を促進し、治療する試みであり、良好な結果である。			
医療技術名	TEN型重症薬疹の血漿交換療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 進行が急速で、ステロイドパルス療法で反応不良な難治症例例では、進行が抑えられ、良好な結果である。			
医療技術名	皮膚T細胞リンパ腫に対する化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 ボリノスタット、モガムリズマブといった新規採用薬を使用した皮膚T細胞リンパ腫に対する化学療法を行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	231人
当該医療技術の概要 ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサージアン型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに完治可能であることが知られている。根治性を損なわずに膀胱温存が可能と判断される、転移のない浸潤性膀胱癌患者に対しては、低侵襲な集学的治療(低用量化学放射線療法+ミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清)による膀胱温存療法を行っている。			

医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下のリスクがある。術後の腎機能を良好に保つために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	MRI/超音波融合画像ガイド下前立腺標的針生検	取扱患者数	168人
当該医療技術の概要 前立腺癌疑いにおけるMRI画像、経直腸超音波画像、生検を組み合わせた最高質の生検方法。効率的な癌の検出、検出された癌に対するきめ細かな治療計画が可能となる。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺を部分的に治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。			
医療技術名	腎癌ICCA療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 インターフェロン α にシメチジン、COX-2阻害剤、アンギオテンシンII受容体拮抗剤を加えたI-CCA療法は、転移を有する、あるいは手術を行うことが困難な、進行した腎がんの患者が対象となる。本療法は、分子標的治療薬と同等の効果が期待でき、副作用はより軽度で、かつ低コストな治療である。			
医療技術名	エクスプレス インプラント 手術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 緑内障手術。2012年5月に保険適用となった直径は380 μ m(0.38mm)、全長2.6mmの新しいインプラント装置であるEX-PRESSを眼球内に挿入し、安定かつ合併症の少ない安全な術後眼圧管理が可能になる。			
医療技術名	網膜光凝固術 閾値下凝固	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 主に糖尿病網膜症における黄斑浮腫に対して行なっている。黄斑部の光凝固においては、従来の方法と比較して非侵襲的であり、効果的であるだけでなく安全性も高いものと考えられる。			
医療技術名	外リンパ瘻確定診断のためのCTP検査	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 外リンパ瘻は、内耳に生じる瘻孔であり、手術的治療により改善しうる急性感音難聴・めまいの原因となる。その術前診断に、内耳特異タンパクcochlinのアイソフォームであるcochlin-tomoprotein(CTP)が、有用な診断マーカーであることが明らかになっている。外リンパ瘻が疑われる症例の術前あるいは術中にCTPの検査を施行し、その有用性を検証している。			
医療技術名	内視鏡支援頭蓋底手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 前頭蓋底病変や側頭下窩腫瘍切除に際し、鼻内からの内視鏡操作により、備・副鼻腔の切離操作を先行して行い、腫瘍摘出に際しては鼻腔側からの観察と摘出操作を併用するもの。頭蓋内外から同時の観察、操作が可能であり、低侵襲で安全かつ確実な手術操作を可能としている。また病変によっては内視鏡単独での摘出を行っている。			
医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	咽頭癌の経口腔的切除術(ELPS)	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 咽頭の表在癌に対する経口腔的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			

医療技術名	聴器癌の手術治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 聴器癌の手術には耳科および頭頸部外科双方の専門的知識と手術技術が必要であり、治療可能施設は限られている。			
医療技術名	頭頸部癌化学放射線療法	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する化学放射線療法は、高い効果が得られるが、有害事象も多い。高度の治療管理技術と高度の管理体制の整備が必要である。			
医療技術名	前立腺癌の強度変調放射線治療	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 前立腺癌に対し、照射野の形状を変化させたビームを複数用いて、前立腺の形に適した放射線治療を行う。			
医療技術名	MRIガイド下乳房組織生検	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 MRIのみで描出される乳房腫瘤に対してMRI撮影下で穿刺針を確認しながら生検を行う			
医療技術名	MRエンテログラフィー	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 洗腸剤を飲用後、小腸内を液体で充満させた状態でMRIを撮像する			
医療技術名	NBCAを用いた血管塞栓術	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 出血性病変に対してNBCAを用いて血管内塞栓術を施行する			
医療技術名	静脈サンプリング(副腎静脈や海綿静脈洞など)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 標的臓器の静脈にカテーテルを進めて採血を行い、ホルモンなどを定量する			
医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断(厚生労働省 高度先進医療Aに該当)	取扱患者数	184人
当該医療技術の概要 当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、国内・海外からの依頼も受けており、2013年度は国内からの依頼検体のみで184名(一人につき最大6個の異なる疾患の遺伝子変異を検査)の患者、海外4名につき、1患者当たり6種類までの遺伝子診断を行うこともあるため、合計600件を超える件数の遺伝子診断を行った。			
医療技術名	多系統萎縮症に対する先進治療:リファンピシン療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 多系統萎縮症は厚生労働省が定める特定疾患で、有効な根本的治療法が全くない神経難病である。多系統萎縮症のモデルマウスにおいて、抗結核薬のリファンピシンが有効であるという知見が2008年に米国から報告されたのを受け、当施設では世界で初めて同薬を用いた臨床試験を開始し、これまでに30名の患者での投与と長期経過観察診療を行っている。			
医療技術名	球脊髄性筋萎縮症の長期予後に対する抗アンドロゲン療法(ゾラデックス)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 筋脊髄性筋萎縮症は、X染色体劣性遺伝型の運動ニューロン疾患であり、厚生労働省が定める特定疾患である。患者は脚や上肢、舌や喉の筋肉が衰え、徐々に動けなくなる。この疾患患者の初期にはある程度抗アンドロゲン療法が有効であることが知られているが、長期的な治療を行っている施設はない。当科では世界でも例を見ない数の本疾患患者について、抗アンドロゲン療法を長期間行い、経過観察を行っており、効果が得られている患者も多い。			

医療技術名	脳表シデローシスに対する硬膜瘻孔閉塞術、および鉄キレート剤デフェリ ブロン投与	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 脳表シデローシスは種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にヘモジデリン が沈着し、中枢神経障害を引き起こす難病である。これまで治療法が全く 無かったが、脊髄硬膜の欠損部を同定し瘻孔閉鎖術などの修復術を行うこ との有効性が報告され、当院でもすでに2例の患者で瘻孔閉鎖術を施行 し、1例は血管増強剤の内服治療を行っている。更に、脳内の酸化反応を 沈静化させるため、脳内に沈着した鉄を除去するとされている鉄キレート剤 による内服療法を開始している。			
医療技術名	体外型補助人工心臓	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 内科的な薬物治療や、大動脈バルーンパンピング(IABP)、経皮的心肺補 助装置(PCPS)等の補助循環を用いても、循環動態が維持できない重症心 不全症例もしくは心原性ショック症例に対し、体外型補助人工心臓が適応 となる。全身麻酔下、開胸操作により脱血管を左室心尖部に、送血管を上 行大動脈に装着する。心機能が回復した場合は離脱を検討するが、多くの 症例では離脱できず心臓移植を申請する。			
医療技術名	植込型補助人工心臓	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来の治療法では救命ないし延命の期待がもてない重症心不全に対して 心臓移植が適応となるが、本邦ではドナー不足により移植待機期間が1000 日を超えている。心臓移植適応患者に対して、移植までのつなぎとして植 込型補助人工心臓を使用することができる。植込型補助人工心臓は体外 型補助人工心臓と比べ、脳血管合併症や感染症の頻度が低く、術後は外 来通院をしながら自宅にて移植待機が可能となる。			
医療技術名	局所進行肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌の局所進行病変(cT3-4, cN2)に対して術前化療放射線併 用療法後の肺切除術			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術を含む集学的治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術・抗癌剤化学療法・放射線治療か らなる3者療法			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤 灌流療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤 灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対する気管・気管支形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 気道中枢に位置する胸部悪性腫瘍に対して、根治性と機能温存の両者を 追求する気管・気管支形成術を行うこと			
医療技術名	抗原吸入誘発試験	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 鳥関連過敏性肺炎の確定診断のため、入院下で鳥特異抗原を吸入し症 状、画像所見、臨床データの変化を評価する。抗原の精製や臨床所見悪 化に対する対応が専門的であり、他院では一般的に施行されていない。			
医療技術名	マイクロサージャリー	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合や神経吻合を行い、遊離皮弁移植 や、知覚再建を行う。			
医療技術名	顔面神経麻痺に対する動的再建	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 神経血管柄付き遊離筋弁移植、筋膜移植などを用いて笑いの再建、顔面 対称性獲得を行っている。			

医療技術名	一次乳房再建	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 <p>乳腺外科・放射線科と協力して乳がん切除と乳房再建を同時に行う。遊離腹部皮弁、広背筋皮弁や人工乳房で再建している。遊離腹部皮弁術前には放射線科協力のもと詳細なシミュレーションを行っている。</p>			
医療技術名	頭蓋底再建	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 <p>耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科とともに従来根治治療が困難であった部位に生じた腫瘍の切除・再建を行っている。</p>			
医療技術名	赤外線観察カメラシステムを用いた各種皮弁の血行評価、リンパ管走行評価	取扱患者数	43人
当該医療技術の概要 <p>より安全・確実に皮弁挙上、リンパ管走行確認ができるように上記システムを利用して手術を行っている。</p>			
医療技術名	虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	38人
当該医療技術の概要 <p>血管外科、放射線科、内科、皮膚科と協力して虚血のために通常であれば下肢を温存できない症例に対して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離皮弁の技術を用いて、下肢を温存する治療を行う。</p>			
医療技術名	センチネルリンパ節生検	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 <p>皮膚悪性腫瘍手術で不必要なリンパ節郭清手術を回避するために、センチネルリンパ節生検を行う。保険適応となった悪性黒色腫以外にも学内倫理委員会の承認を得て有棘細胞癌、乳房外ページェット病に対して行っている。</p>			
医療技術名	Qプローブ法を用いたMYD88遺伝子変異の検出法の開発	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 <p>悪性リンパ腫や原発性マクログロブリン血症で見られるMYD88遺伝子変異を検出するために、従来はコストのかかるシーケンス法が必要であったが、PCR法を応用した簡便なQプローブ法による検出方法を開発した。</p>			
医療技術名	スポーツ早期競技復帰に向けた軟部組織外傷に対する高気圧酸素治療の実施	取扱患者数	243人
当該医療技術の概要 <p>捻挫、肉離れ等の軟部組織外傷の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが複数あり、オリンピック選手やトップアスリートも含め、一日でも早期にスポーツ競技復帰を望む選手からの社会的要請は高い。本学では、土日祝日も含めた高気圧酸素治療の実施や急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供といえる。</p>			
医療技術名	難治性疾患である遅発性放射線障害に対する高気圧酸素治療の実施	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 <p>遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性であり、保存的治療に抵抗する。このため、例えば出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの外科的処置を要することも多いが、高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。しかしながら、全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。</p>			
医療技術名	アスリートに対する膝関節靭帯再建術後急性期から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションおよびリコンディショニング	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 <p>膝関節靭帯損傷は代表的なスポーツ傷害であり、元の競技レベルへの復帰には再建術を要するケースが多い。競技復帰には術後早期からの適切な診断と、専門的なリハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科と連携しながら術前および術当日からスポーツ復帰に至るまで、再損傷予防とパフォーマンスの向上に向けた科学的根拠に基づくアプローチを展開できる診療・研究体制を整えている。</p>			

医療技術名	血管再生(新生)療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 老年病内科が主たる診療科として取り組んでいる先進医療。輸血部では末梢血に動員された血管幹細胞の成分採血による採取と、濃縮を実施している。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞採取・移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 血液内科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄の採取・移植	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			
医療技術名	同種臍帯血移植	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血部では移植細胞の評価を担当している。			
医療技術名	FISH法による分子病理学的診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 XY染色体プローブ、SSXプローブ、JAZF1遺伝子プローブ、1q25プローブ/1p36プローブを用いて、性染色体異常、軟部腫瘍、脳腫瘍の診断を行っている。			
医療技術名	In situ hybridization法によるウイルス感染の分子病理学的診断	取扱患者数	124人
当該医療技術の概要 EBウイルスのRNA(EBER)を特異的プローブで検出し、悪性リンパ腫やEBウイルス関連癌の分子病理診断を行っている。			
医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX):エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の繊維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である。			
医療技術名	Percutaneous cardiopulmonary support system (PCPS):経皮的心肺補助あるいは v-a ECMO	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に沿う血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	Intraaortic balloon pumping (IABP):大動脈内バルーンパンピング	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下降大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍出を容易にする効果を有する。			

医療技術名	Continuous hemodiafiltration (CHDF): 持続血液濾過透析	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を除水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する。			
医療技術名	Extra corporeal membrane oxygenation (v-v ECMO): 体外膜型酸素化装置	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ARDSや重症肺炎(細菌性、ウイルス性)、肺外傷などの、低酸素血症や高二酸化炭素血症の重症呼吸不全が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を膜型人工肺を用いて酸素化し、中心静脈に返す補助循環である。長期体外循環による呼吸補助を行うことにより生体肺を休ませ、肺の回復を待つ治療法である。			
医療技術名	Plasma exchange (PE): 血漿交換	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 劇症肝炎、多発性骨髄腫、薬物中毒、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し血漿成分だけを分離し、その血漿成分は破棄する。その代替として新鮮凍結血漿あるいは5%アルブミン製剤で補う血液浄化療法である。血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させている物質を除去する治療法である。			
医療技術名	左心補助人工心臓 (LVAS)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	右心補助人工心臓 (RVAS)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 左心補助人工心臓駆動下において内科的治療に反応しない右心不全の場合に適応となる。右房から脱血し、血液ポンプを用いて肺動脈に送血することにより、右室ポンプ機能を100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	院外心肺停止患者の蘇生後脳症に対する脳低温療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 院外心肺停止で搬送される患者さんが蘇生に成功した際、ただちに体温を34度まで下げて24時間維持するもの。低酸素に暴露された脳のダメージを最小限できることが期待され、心肺蘇生の国際ガイドラインでもそのエビデンスが支持されている。当院ではER発足以来積極的に取り入れ、院外心肺停止患者さんの社会復帰に成果を上げている。			
医療技術名	経皮的人工心肺 (PCPS) を用いた院外心肺停止患者に対する心肺蘇生	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 院外心肺停止で搬送される患者さんに対し、経皮的人工心肺装置PCPSを用いて蘇生中の脳酸素灌流を維持する蘇生法。低酸素に暴露された脳のダメージを最小限できることが期待され、適応症例を十分に吟味して院外心肺停止患者さんの神経予後に一定の成果を上げている。			
医療技術名	重症多発外傷に対する集学的治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 交通外傷・転落外傷含む多くの多発外傷患者はその損傷臓器ごとに優先順位と有効な修復方法がある。当科では経験豊富なスタッフが各症例ごとに適切な止血順序、止血方法を選択し、IVRから外科的止血、輸液輸血管理を厳格に管理している。			
医療技術名	腹部コンパートメント症候群に対するOpen Abdominal Management	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 緊急開腹手術を要する患者さんのうち、一期的な閉腹により術後管理に困難が予想される症例に対してはOpen Abdominal Managementによる段階的閉腹を心がけている。1週間以上の集中治療管理を要するためにきめの細かい管理を要する。			

医療技術名	高感度迅速多項目ウイルス定性測定	取扱患者数	1819人
当該医療技術の概要 HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBVの12種類のウイルスを2時間以内に10 copy/sampleの感度で効率良く測定するウイルス定性検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			
医療技術名	高感度ウイルス定量システム	取扱患者数	1128人
当該医療技術の概要 HSV1, HSV2, VZV, EBV, CMV, HHV6, HHV7, HHV8, BKV, JCV, Parvovirus B19, HBV, AdenovirusなどのウイルスについてのPCRを用いた定量検査。院内における各種感染症に加えて、再生医療製剤の品質保証に使用している。			
医療技術名	Short tandem repeat法を用いた個人識別システム	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 Short tandem repeat法を用い高感度に移植後のキメリズム状態を測定する。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	178人
当該医療技術の概要 院内臨床各科との連携によって各種遺伝性疾患の遺伝リスクの説明、家族に対する遺伝リスクの説明を行っている。出生前診断の一環としての羊水染色体検査や乳癌・大腸癌に対する遺伝子検査の実施およびその説明を行っている。			
医療技術名	神経難病に対する発症前遺伝子診断	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 ハンチントン病・脊髄小脳変性症などの遺伝性神経難病は現在のところ確立した治療法がなく、発症者の家族の遺伝的リスクを有するクライアントに対する遺伝子診断は慎重に行う必要がある。しかし、遺伝的リスクを持つ患者のニーズは高く、当科では神経内科・精神神経科との連携のもと、倫理審査委員会の承認を得ながら発症前の遺伝子検査を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	188人	・膿疱性乾癬	1人
・多発性硬化症	119人	・広範脊柱管狭窄症	17人
・重症筋無力症	113人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・全身性エリテマトーデス	400人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	63人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	52人
・サルコイドーシス	248人	・原発性免疫不全症候群	104人
・筋萎縮性側索硬化症	53人	・特発性間質性肺炎	116人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	357人	・網膜色素変性症	35人
・特発性血小板減少性紫斑病	57人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	70人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	668人	・神経線維腫症	18人
・大動脈炎症候群	163人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	52人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	53人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	240人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	287人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2人
・悪性関節リウマチ	33人	・脊髄性筋萎縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	172人	・球脊髄性筋萎縮症	24人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	31人
・後縦靭帯骨化症	111人	・肥大型心筋症	6人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	249人	・ミトコンドリア病	14人
・ウェゲナー肉芽腫症	28人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	36人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	89人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	66人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
救命救急入院料1	退院調整加算
救命救急入院料2	総合評価加算
救急医療管理加算	臨床研修病院入院診療加算
妊産婦緊急搬送入院加算	超急性期脳卒上加算
特定機能病院入院基本料(精神)13:1	診療録管理体制加算1
ハイケアユニット入院医療管理料1	看護補助加算2
緩和ケア診療加算	療養環境加算
新生児特定集中治療室管理料2	呼吸ケアチーム加算
小児入院医療管理料2	病棟薬剤業務実施加算
重症者等療養環境特別加算	栄養サポートチーム加算
無菌治療室管理加算1	精神科リエゾンチーム加算
精神科身体合併症管理加算	特定集中治療室管理料1
医療安全対策加算1	看護職員夜間配置加算
感染防止対策加算1	特定機能病院入院基本料(一般)7:1
患者サポート充実加算	急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割未満)
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	データ提出加算2
ハイリスク妊婦管理加算	新生児特定集中治療室管理料2
ハイリスク分娩管理加算	感染防止対策加算1
救急搬送患者地域連携紹介加算	がん診療連携拠点病院加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
がん性疼痛緩和指導管理料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来緩和ケア管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植)	植込型心電図記録計移植術及び植型心電図記録計摘出術
院内トリアージ実施料	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
外来リハビリテーション診療料	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
地域連携診療計画管理料(脳卒中)	両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
地域連携診療計画管理料(大腿骨頸部)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
がん治療連携計画策定料	補助人工心臓
肝炎インターフェロン治療計画料	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
薬剤管理指導料	経皮的動脈遮断術
医療機器安全管理料1	ダメージコントロール手術
医療機器安全管理料2	腹腔鏡下肝切除術
造血器腫瘍遺伝子検査	生体部分肝移植術
HPV核酸検出	腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術
検体検査管理加算(I)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
遺伝カウンセリング加算	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
植込型心電図検査	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
時間内歩行試験	生体腎移植術
胎児心エコー法	膀胱水圧拡張術
ヘッドアップティルト試験	人工尿道括約筋植込・置換術
皮下連続式グルコース測定	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
長期継続頭蓋内脳波検査	組織拡張器(二次再建の場合)
神経学的検査	人工乳房(一次再建、二次再建、一次一期的再建、一次二期的再建)
補聴器適合検査	輸血管理料 I
小児食物アレルギー負荷検査	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

内服・点滴誘発試験	麻酔管理料(Ⅰ)
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	麻酔管理料(Ⅱ)
CT透視下気管支鏡検査加算	放射線治療専任加算
画像診断管理加算1	外来放射線治療加算
ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	高エネルギー放射線治療
CT撮影及びMRI撮影	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
冠動脈CT撮影加算	体外照射呼吸性移動対策加算
大腸CT撮影加算	定位放射線治療
心臓MRI撮影加算	定位放射線治療呼吸移動対策加算(その他)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	保険医療機関間の連携による病理診断
外来化学療法加算1	病理診断管理加算2
無菌製剤処理料	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	糖尿病透析予防指導管理料
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	強度変調放射線治療(IMRT)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	心臓ペースメーカー指導管理料の注4に掲げる植込型除細動器移行期加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	がん患者指導管理料3
がん患者リハビリテーション料	持続血糖測定器加算
集団コミュニケーション療法料	HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	網膜再建術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
医療保護入院等診療料	経皮的冠動脈形成術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	経皮的冠動脈ステント留置術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
透析液水質確保加算2	胎児胸腔・羊水腔シャント術
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(第10部手術の通則16に規定する届出に限る。)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算(注2に規定する届出に限る。)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	1回線量増加加算
人工内耳植込術	外来放射線照射診療料
植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	ニコチン依存症管理料
がん治療連携管理料	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
中枢性摂食異常症に関する調査研究	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	3,197	補 厚生労働省
前庭水管拡大症の臨床所見と遺伝子変異解析に基づく新診断基準作成	喜多村健	耳鼻咽喉科学分野	2,057	補 厚生労働省
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	宮坂信之	膠原病・リウマチ内科学分野	11,100	補 厚生労働省
肝臓に対する新規DDSを活用した経口遺伝子治療法の開発	横田隆徳	脳神経病態学分野	19,000	補 厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	渡辺守	消化器病態学分野	28,800	補 厚生労働省
原発性免疫不全症候群患者支援団体による患者レジストリの構築を通じた研究 支援体制の構築に関わる研究	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	4,501	補 厚生労働省
WNKキナーゼをターゲットとしたCKD進展阻止のための新規治療薬の開発と最 適降圧薬選択法の確立	内田信一	腎臓内科学分野	12,121	補 厚生労働省
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	望月學	眼科学分野	5,900	補 厚生労働省
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的 研究	横関博雄	皮膚科学分野	8,000	補 厚生労働省
アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイント な新規治療の開発	横関博雄	皮膚科学分野	4,693	補 厚生労働省
我が国の医療資源の必要量の定量とその適正な配分から見た医療評価のあり 方に関する研究	伏見清秀	医療政策情報学分野	17,000	補 厚生労働省
地域に求められる医療機能と医療提供体制の変化に対応した医療施設調査、 患者調査のあり方とその評価・分析手法に関する研究	伏見清秀	医療政策情報学分野	2,100	補 厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	11,000	補 厚生労働省
重症型扁平苔癬の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	井川健	皮膚科学分野	3,000	補 厚生労働省
CBRNE事態における公衆衛生対応に関する研究	大友康裕	救急災害医学分野	3,316	補 厚生労働省
臓器移植・造血細胞移植後日和見感染症に対する有効かつ安全な多ウイルス 特異的T細胞療法の開発と導入に関する研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	2,400	補 厚生労働省
エビデンスに基づいた診療報酬改定を行うためのレセプトデータ活用の手法 についての研究	伏見清秀	医療政策情報学分野	4,500	補 厚生労働省
薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究	安原真人	薬剤部	4,800	補 厚生労働省
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究-診療動向と 治療成績の変化-	杉原健一	腫瘍外科学分野	300	補 厚生労働省
慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構解明と新規治療法開発に関する研 究	新井文子	血液内科学分野	900	補 厚生労働省
神経変性疾患に関する調査研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	2,100	補 厚生労働省
希少疾患への治療応用を目指した臍帯および臍帯血由来細胞の系統的資源 化とその応用に関する研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,500	補 厚生労働省
適応拡大に向けた臍帯血移植の先進化による成績向上と普及に関する研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,200	補 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
治験活性化に資するGCPの運用等に関する研究	小池竜司	臨床試験管理センター	400	補 厚生労働省
生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療方針の策定	横関博雄	皮膚科学分野	500	補 厚生労働省
慢性活動性EBウイルス感染症の発症機構解明と新規治療法開発に関する研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	900	補 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	針谷正祥	薬害監視学講座	1,050	補 厚生労働省
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	田中真二	肝胆臓・総合外科学分野	3,000	補 厚生労働省
新評価方法を用いたフォールディング病の分子シャペロン療法の検討	石川欽也	脳神経病態学分野	1,000	補 厚生労働省
慢性疼痛の多面的評価システムの開発と客観的評価法の確立に対する研究	倉田二郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	500	補 厚生労働省
関節リウマチの関節破壊機序の解明と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法確立に関する研究	上阪等	膠原病・リウマチ内科学分野	2,000	補 厚生労働省
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	上阪等	膠原病・リウマチ内科学分野	1,000	補 厚生労働省
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,000	補 厚生労働省
成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験	福田哲也	血液内科学分野	2,000	補 厚生労働省
第七次看護職員需給見通し期間における看護職員受給数の推計手法と把握に関する研究	伏見清秀	医療政策情報学分野	150	補 厚生労働省
医療計画を踏まえた医療の連携体制構築に関する評価に関する研究	伏見清秀	医療政策情報学分野	650	補 厚生労働省
遺伝性難聴および外耳、中耳、内耳奇形に関する調査研究	喜多村健	耳鼻咽喉科学分野	1,000	補 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	磯部光章	循環制御内科学分野	800	補 厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	磯部光章	循環制御内科学分野	1,000	補 厚生労働省
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	2,000	補 厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	稲瀬直彦	統合呼吸器病学分野	500	補 厚生労働省
HTLV-1関連希少難治性疾患における臨床研究の全国展開と基盤整備	鴨居功樹	眼科学分野	1,400	補 厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	900	補 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	上阪等	膠原病・リウマチ内科学分野	7,000	補 厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	石原正一郎	神経内科	1,000	補 厚生労働省
血液免疫系細胞分化障害による疾患の診断と治療に関する調査研究	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	3,500	補 厚生労働省
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	2,000	補 厚生労働省
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立	森尾友宏	発生発達病態学分野	2,000	補 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	1,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,500	補	厚生労働省
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	杉原健一	腫瘍外科学分野	500	補	厚生労働省
急性高度難聴に関する調査研究	喜多村健	耳鼻咽喉科学分野	700	補	厚生労働省
肝硬変に対する細胞治療法の臨床的確立とそのメカニズムの解明	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	2,500	補	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	450	補	厚生労働省
小児がん拠点病院を活用した臨床研究基盤のあり方及び新規治療開発に関する研究	水谷修紀	発生発達病態学分野	4,000	補	厚生労働省
遺伝学的検査の実施拠点の在り方に関する研究	野口佳裕	耳鼻咽喉科	500	補	厚生労働省
異常タンパク伝播仮説に基づく神経疾患の画期的治療法の開発	横田隆徳	脳神経病態学分野	1,500	補	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	大野京子	眼科学分野	2,000	補	厚生労働省
国際共同治験に基づく小児希少難病に対する遺伝子・細胞治療の実施とその支援体制の整備	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	3,000	補	厚生労働省
多施設ヒト幹細胞臨床研究による3次元再生皮下軟骨の有効性確認	岡崎睦	形成外科学分野	1,500	補	厚生労働省
アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究	横関博雄	皮膚科学分野	800	補	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	1,500	補	厚生労働省
今後の難病対策のあり方に関する研究	宮坂信之	膠原病・リウマチ内科学分野	500	補	厚生労働省
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	岡本隆一	消化管先端治療学講座	500	補	厚生労働省
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	杉原健一	腫瘍外科学分野	500	補	厚生労働省
腸管希少難病群の疫学、病態、診断、治療の相同性と相違性から見た包括的研究	渡邊守	消化器病態学分野	9,250	補	厚生労働省
200ml献血由来の赤血球濃厚液の安全性と有効性の評価及び初回献血を含む学校献血の推進等に関する研究	梶原道子	輸血部	350	補	厚生労働省
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	針谷正祥	薬害監視学講座	2,500	補	厚生労働省
幹細胞による次世代の低侵襲軟骨再生治療の開発と臨床応用	宗田大	運動器外科学分野	8,000	補	厚生労働省
幹細胞による次世代の低侵襲軟骨再生治療の開発と臨床応用	森尾友宏	発生発達病態学分野	5,000	補	厚生労働省
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	佐々木成	腎臓内科学分野	1,000	補	厚生労働省
WNKキナーゼをターゲットとしたCKD進展阻止のための新規治療薬の開発と最適降圧薬選択法の確立	蘇原映誠	腎臓内科	5,000	補	厚生労働省
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	高瀬博	眼科学分野	1,000	補	厚生労働省
急性網膜壊死の診断基準に関する調査研究	富田誠	臨床試験管理センター	1,000	補	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	水澤英洋	脳神経病態学分野	1,000	補	厚生労働省
重症型扁平苔癬の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	横関博雄	皮膚科学分野	1,000	補	厚生労働省
重症型扁平苔癬の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	西澤綾	皮膚科学分野	500	補	厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	長堀正和	消化器内科	1,000	補	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	三條伸夫	神経内科	1,000	補	厚生労働省
滑膜幹細胞による半月板・関節軟骨の治癒促進・再生	宗田大	運動器外科学分野	6,556	補	厚生労働省
滑膜幹細胞による半月板・関節軟骨の治癒促進・再生	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,000	補	厚生労働省
視覚系の稀少難治性疾患群に関する症例データベース構築	大野京子	眼科学分野	2,000	補	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	大川淳	整形外科科学分野	1,000	補	厚生労働省
リアルタイムfMRIによるバイオフィードバック法を用いた統合失調症の認知リハビリテーション	松島英介	心療・緩和医療学分野	100	補	厚生労働省
プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発	水澤英洋	脳神経病態学分野	20,000	補	厚生労働省
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,500	補	厚生労働省
自己炎症疾患とその類縁疾患に対する新規診療基盤の確立	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	1,500	補	厚生労働省
メタボリックシンドロームにおける内因性リガンドと病原体センサーの機能的意義の解明	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	38,870	補	日本学術振興会
ヒト固形癌の休眠型癌幹細胞とそのニッチ特性の解明	田中真二	肝胆膵・総合外科学分野	35,620	補	日本学術振興会
生体センサー腸上皮によるバイオスクリーニング法の開発	岡本隆一	消化管先端治療学講座	9,750	補	日本学術振興会
多系統型脊髄小脳失調症の遺伝子同定	石川欽也	神経内科	5,200	補	日本学術振興会
独自の培養技術を用いた大腸上皮細胞機能解析と臨床応用技術開発	渡辺守	消化器病態学分野	18,590	補	日本学術振興会
WNKシグナルによる塩分ストレス応答の分子病態解明と治療法の開発	内田信一	腎臓内科学分野	44,070	補	日本学術振興会
新たな腎臓膜輸送体制御法の開発	佐々木成	腎臓内科学分野	11,440	補	日本学術振興会
WNKキナーゼの制御機構とその破綻病態の解明	内田信一	腎臓内科学分野	11,960	補	日本学術振興会
幹細胞可視化システムに基づいた難治性消化器癌の先端的治療開発	田中真二	肝胆膵・総合外科学分野	19,110	補	日本学術振興会
難聴症例のミトコンドリア遺伝子変異の網羅的解析法確立と内耳細胞内の変異定量解析	喜多村健	耳鼻咽喉科学分野	3,380	補	日本学術振興会
腎臓における新規の血圧調節機構WNK-NCCシグナル伝達系の解明	頼建光	血液浄化療法部	4,420	補	日本学術振興会
DNAメチル化に着目したメタボリックメモリーの分子機構の解明と医学応用	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	5,590	補	日本学術振興会
単一遺伝子異常による免疫学的寛容破綻の分子機構に関する研究	森尾友宏	発生発達病態学分野	4,290	補	日本学術振興会
DNA損傷応答機構を中心とした発がん制御機構の解析と、その応用による治療法の開発	水谷修紀	発生発達病態学分野	4,160	補	日本学術振興会
悪性脳腫瘍のDNA合成能の分子イメージングー新規PET薬剤の世界初の臨床試験	成相直	脳神経機能外科学分野	4,810	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
頭蓋底外科における低侵襲かつ安全な頭蓋顔面アプローチ法の確立に関する研究	岸本誠司	頭頸部外科学分野	1,430	補 日本学術振興会
急性肺傷害における肺組織幹細胞系細胞を用いた細胞治療開発への基礎研究	内田篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	2,080	補 日本学術振興会
食道扁平上皮癌の新たな治療体系の構築を目指した統合的ゲノム・エピゲノム解析	河野辰幸	食道・一般外科学分野	4,030	補 日本学術振興会
食道扁平上皮癌の新たな治療体系の構築を目指した統合的ゲノム・エピゲノム解析	河野辰幸	食道・一般外科学分野	1,560	補 日本学術振興会
グルタミン酸伝達調節による難治性抑うつ状態の治療法開発に関する研究	西川徹	精神行動医科学分野	3,640	補 日本学術振興会
グルタミン酸伝達調節による難治性抑うつ状態の治療法開発に関する研究	西川徹	精神行動医科学分野	1,430	補 日本学術振興会
ウェアラブルHRVセンサを用いたてんかん発作兆候検知システムの開発	宮島美穂	心療・緩和医療学分野	2,340	補 日本学術振興会
ウェアラブルHRVセンサを用いたてんかん発作兆候検知システムの開発	宮島美穂	心療・緩和医療学分野	3,640	補 日本学術振興会
再生腸上皮幹細胞ニッチの誘導・再構築による炎症腸管粘膜再生治療の確立	岡本隆一	消化管先端治療学講座	3,120	補 日本学術振興会
再生腸上皮幹細胞ニッチの誘導・再構築による炎症腸管粘膜再生治療の確立	岡本隆一	消化管先端治療学講座	4,680	補 日本学術振興会
急性腎障害における心房性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護作用メカニズムの研究 急性腎傷害における心房性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護作用メカニズムの研究	三高千恵子	救命救急医学分野	780	補 日本学術振興会
生物学的製剤及び分子標的薬投与下の重篤感染症、日和見感染症に関する薬剤疫学的研究	田中みち	膠原病・リウマチ内科学分野	1,300	補 日本学術振興会
症例に応じた分子標的治療を目指した急性白血球幹細胞の定量と特性の検査法の開発	東田修二	臨床検査医学分野	1,430	補 日本学術振興会
S1P受容体を標的としたIBD新規治療法の開発	藤井俊光	消化器内科	1,430	補 日本学術振興会
EBV陽性TおよびNK細胞リンパ増殖症発症機構の解明と治療法の開発	新井文子	血液内科学分野	1,430	補 日本学術振興会
カンナビノイドによる炎症抑制作用の解明と関節リウマチの新規治療開発	南木敏宏	薬害監視学分野	1,430	補 日本学術振興会
B細胞、NK細胞、樹状細胞欠損を伴う原発性免疫不全症の病態解析と原因遺伝子の同定	今井耕輔	小児・周産期地域医療学講座	1,300	補 日本学術振興会
中性アミノ酸のキラリティに着目した統合失調症の病態解明	山本直樹	精神科	1,560	補 日本学術振興会
高分解能MR内視鏡の開発とその臨床的有用性に関する研究	山田一郎	腫瘍放射線医学分野	1,560	補 日本学術振興会
神経栄養因子と上皮成長因子(EGF)受容体制御による末梢神経再生	若林良明	整形外科科学分野	1,560	補 日本学術振興会
変形性関節症の発症機構解明の為に新規動物モデルの確立と関節組織の初期病変の解析	神野哲也	整形外科	1,170	補 日本学術振興会
植物ホルモンによるヒト血管内皮機能制御に関する基礎的検討	尾林聡	生殖機能協働学分野	780	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
蝸牛外有毛細胞動毛形成の聴覚における影響の解析	戸叶尚史	耳鼻咽喉科学分野	1,430	補	日本学術振興会
多臓器不全の発症機序におけるカルシウム非依存性ホスホリパーゼA2の役割	相星淳一	救命救急センター	910	補	日本学術振興会
遺伝子多様性データを解明する統合的分析とその発展	富田誠	臨床試験管理センター	1,690	補	日本学術振興会
薬物による血糖値異常の速度論モデルの構築と評価	安原真人	薬剤部	1,690	補	日本学術振興会
大規模医療データベースを用いた国際比較可能な医療の質の評価指標の開発と検証	伏見清秀	医療政策情報学分野	1,950	補	日本学術振興会
腸管上皮リンパ球間クロストークによる免疫調節機構の解析	永石宇司	消化器内科	2,080	補	日本学術振興会
特異的NK細胞受容体・リガンドを標的としたクローン病新規治療法の開発	長堀正和	消化器内科	2,080	補	日本学術振興会
インターロイキン6を基軸としたC型慢性肝炎の治療抵抗性機序の解明	中川美奈	医歯学融合教育支援センター	2,080	補	日本学術振興会
人工肝細胞移植系を用いたHCV感染動物モデルの構築	東正新	消化器内科	2,080	補	日本学術振興会
アルドステロンにより血管内皮で発現誘導される新規遺伝子群の病態生理学的意義の解明	吉本貴宣	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,690	補	日本学術振興会
脊髄小脳失調症31型における異常RNA分子標的の同定	石川欽也	神経内科	650	補	日本学術振興会
恒常的活性化チロシンキナーゼを発現した造血器腫瘍に対する統合的分子標的療法の開発	三浦修	血液内科学分野	1,560	補	日本学術振興会
microRNAを標的とした関節リウマチの新規治療法開発と新病態機序解明への挑戦	宮坂信之	膠原病・リウマチ内科学分野	650	補	日本学術振興会
転写因子Sf1の卵巣における発現機構および機能の分子機構の解明	鹿島田健一	発生発達病態学分野	1,560	補	日本学術振興会
凝固異常および酸化ストレスの視点からGVHD・慢性炎症を捉えなおす基礎研究	長澤正之	発生発達病態学	1,560	補	日本学術振興会
iPS細胞を利用してアトピー性皮膚炎におけるフィラグリンの関わりを評価する試み	井川健	皮膚科	1,950	補	日本学術振興会
マクロベジクラー脂肪肝グラフトの脆弱性の原因究明とその対応策	工藤篤	肝胆膵外科	1,690	補	日本学術振興会
虚血肢における蛍光色素微小循環血流測定法の確立とアンギオサムの解明	工藤敏文	血管外科	780	補	日本学術振興会
NF- κ B活性化抑制の臨床応用(新規抗癌剤療法と手術侵襲の軽減)	落合高德	肝胆膵外科	1,040	補	日本学術振興会
水透過性の変化を考慮した無侵襲ASL-MRI脳循環計測法の確立	田中洋次	脳神経外科	1,690	補	日本学術振興会
PETおよび光学計測を用いた、再生医療における神経回路再生過程の生体内評価	稲次基希	脳神経外科	1,950	補	日本学術振興会
慢性期損傷脊髄への細胞移植治療の確立とリハビリテーションの併用効果	榎本光裕	高気圧治療部	1,690	補	日本学術振興会
骨格筋損傷に対する高気圧酸素治療の作用機序の解明	柳下和慶	高気圧治療部	1,820	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
非創傷部位への陰圧療法の可能性を探る 末梢神経再生・移植脂肪生着増加を目指して	森弘樹	形成・再建外科学分野	1,040	補	日本学術振興会
ナノスペクトCTを用いた、筋弁・脂肪弁における血流と体積の経時的変化の定量	岡崎睦	形成・再建外科学分野	1,040	補	日本学術振興会
日本発の新しい外傷重症度スコアの開発	白石淳	救命救急センター	1,040	補	日本学術振興会
ホスファチジルイノシトールの蛍光イメージングを用いた肺癌細胞の浸潤機構の研究	明石巧	病理部	1,690	補	日本学術振興会
本邦の診療事情に合わせた支持的抗菌薬管理プログラムの有用性と経済性の検討	小池竜司	臨床試験管理センター	910	補	日本学術振興会
クローン病全小腸内環境解析によるバイオマーカー探索	荒木昭博	消化器内科	2,990	補	日本学術振興会
炎症性腸疾患における自己抗体産生機構の解明	大島茂	消化器病態学分野	2,990	補	日本学術振興会
生検検体を用いた小腸上皮性腫瘍の網羅的遺伝子解析	大塚和朗	光学医療診療部	1,950	補	日本学術振興会
過敏性肺炎の新たな治療標的としてのスフィンゴシン1-リン酸シグナル伝達系の解析	土屋公威	呼吸器内科	1,560	補	日本学術振興会
PHAIにおけるKLHL3/Cullin3の役割の検討	太田哲人	腎臓内科学分野	1,820	補	日本学術振興会
発汗異常に伴う掌蹠の難治性皮膚疾患のOCTを用いた3次元的病態の解析	西澤綾	皮膚科学分野	1,430	補	日本学術振興会
難治性皮膚アレルギー疾患の病態に基づいた好塩基球を標的とした新規治療の開発	横関博雄	皮膚科学分野	1,950	補	日本学術振興会
画像情報解析による肝癌バイオマーカーの検索と肝機能評価方法の確立	伴大輔	低侵襲医学研究センター	2,600	補	日本学術振興会
補助人工心臓離脱率向上を目指した心筋再生医療導入に関する実験的検討	水野友裕	心臓血管外科学分野	3,640	補	日本学術振興会
巨大脳動脈瘤動物実験モデルの作成と治療法の開発	吉野義一	血管内治療学分野	2,080	補	日本学術振興会
シリコン血管モデルによる脳血管内治療トレーニングシステムの開発	根本繁	血管内治療学分野	2,470	補	日本学術振興会
骨細胞レニン・アンジオテンシン系をターゲットとした新規骨粗鬆症治療薬の開発	森田定雄	理学療法部	1,820	補	日本学術振興会
天然高分子化合物による軟骨アンチエイジングへの挑戦	古賀大介	整形外科	1,560	補	日本学術振興会
食道癌手術における保護的一側肺換気による術後肺合併症および急性腎傷害予防の試み	石川晴士	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1,820	補	日本学術振興会
周術期急性肺傷害におけるバイオマーカープロファイルの検討	山本衛	集中治療部	1,170	補	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた新規切迫早産治療法の開発	久保田俊郎	生殖機能協働学分野	2,730	補	日本学術振興会
老人性難聴発症の分子機構を規定するmiRNA・標的遺伝子群の同定	野口佳裕	耳鼻咽喉科	1,300	補	日本学術振興会
ヒトと実験動物におけるPMP22遺伝子の難聴発症に関与する分子機構の解明	高橋正時	耳鼻咽喉科	1,950	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
ヘルペスウイルス性ぶどう膜炎におけるウイルス遺伝子型と病態・疾病予後に関する研究	高瀬博	眼科学分野	1,950	補 日本学術振興会
敗血症性ショックの凝固能調節による治療法開発の検討	原口剛	集中治療部	650	補 日本学術振興会
分泌発現系cDNAライブラリを用いた細胞性免疫責任抗原同定への新しいアプローチ法	江石義信	人体病理学分野	1,690	補 日本学術振興会
蛋白相互作用阻害による新規高血圧治療薬の開発	頼建光	血液浄化療法部	1,170	補 日本学術振興会
小胞体水チャネルの病態生理学的役割の解明	佐々木成	腎臓内科学分野	1,820	補 日本学術振興会
抗好中球細胞質抗体関連血管炎のNETs形成を標的とする新規治療法の開発	針谷正祥	薬害監視学講座	1,820	補 日本学術振興会
子宮内感染症に起因する脳室周囲白質軟化症・肺損傷に対する間葉系幹細胞治療法の開発	滝敦子	小児科	1,560	補 日本学術振興会
ヒト腸上皮マウスを用いた疾患モデルの開発	渡辺守	消化器病態学分野	2,210	補 日本学術振興会
SPAKキナーゼ阻害薬の開発	内田信一	腎臓内科学分野	1,950	補 日本学術振興会
組織線維化の分子機構の解明と革新的な抗線維化医療の開発	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	3,770	補 日本学術振興会
新規好中球解析手法による病態解明と革新的好中球制御法の開発	森尾友宏	発生発達病態学分野	1,820	補 日本学術振興会
骨と脳のネットワーク成長を促進する骨由来因子の同定	大川淳	整形外科学分野	2,210	補 日本学術振興会
幼弱脳への麻酔薬の毒性:iPS細胞による毒性評価系の確立及び予防・治療法の開発	横田浩史	心肺統御麻酔学分野	2,600	補 日本学術振興会
異種画像融合を用いた強膜形状の可視化と視覚障害の発生機序の解明	大野京子	眼科学分野	2,600	補 日本学術振興会
急性肺傷害におけるMUSE細胞(ストレス耐性多能性幹細胞)投与による治療法の開発	内田篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	1,170	補 日本学術振興会
ALS霊長類モデルによる経シナプス逆行性伝播機序の解明	大久保卓哉	脳神経病態学分野	9,750	補 日本学術振興会
ALS霊長類モデルによる経シナプス逆行性伝播機序の解明	大久保卓哉	脳神経病態学分野	2,340	補 日本学術振興会
多発性筋炎における筋傷害機序の解析ー新たな細胞傷害メカニズムー	高村聡人	膠原病・リウマチ内科	2,080	補 日本学術振興会
インスリンと塩分感受性高血圧をつなぐWNKキナーゼ	蘇原映誠	腎臓内科	2,080	補 日本学術振興会
生体の栄養センサー・レプチンによる炎症免疫調節の分子機構	田中都	分子内分泌代謝学分野	1,690	補 日本学術振興会
抗癌剤による造血器腫瘍の活性化チロシンキナーゼ変異体分解誘導機構と治療応用	長尾俊景	血液内科	1,820	補 日本学術振興会
関節リウマチにおける病的滑膜線維芽細胞の起源の同定と治療応用の検討	溝口史高	膠原病・リウマチ内科学分野	1,820	補 日本学術振興会
精神異常発現薬応答性非翻訳RNAとそのターゲット遺伝子に着目した統合失調症の解明	治徳大介	精神行動医科学分野	1,690	補 日本学術振興会
緻密質、多孔質ポリウレタンを組み合わせた新しい骨欠損補填材料の開発	吉井俊貴	整形外科学分野	2,080	補 日本学術振興会
軟部肉腫治療の国際比較と再発を防ぐ治療戦略	澤村千草	整形外科学分野	910	補 日本学術振興会
再生療法を利用したリンパ浮腫に対する新規治療開発	須藤乃里子	生殖機能協働学分野	1,040	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
アレルギー性鼻炎の発症・増悪における骨髄環境の関連性の解明	鈴木康弘	耳鼻咽喉科学分野	1,560	補 日本学術振興会
耳石欠損マウスによる耳石形成・吸収メカニズムの解明	本田圭司	耳鼻咽喉科	780	補 日本学術振興会
ミトコンドリア局在型熱ショックタンパク質90の機能調節による癌治療戦略	吉田宗一郎	泌尿器科	3,510	補 日本学術振興会
関節リウマチ患者登録システムと保険データベースによる分子標的治療薬の薬剤学研究	酒井良子	薬害監視学講座	2,080	補 日本学術振興会
代謝異常進行過程での脂肪組織の炎症と異所性脂肪蓄積の関連に関する臨床研究	南勲	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,690	補 日本学術振興会
骨髄ニッチを再現した低酸素環境での白血病幹細胞の病態解析に基づく分子標的治療	伊藤真以	臨床検査医学分野	1,430	補 日本学術振興会
脂質メディエーターを標的とした血管炎の新規治療法開発	宮部斉重	膠原病・リウマチ内科	2,080	補 日本学術振興会
乳児ALLにおけるKIR不一致ドナーを用いた造血幹細胞移植の意義についての検討	富澤大輔	小児科	1,170	補 日本学術振興会
エクリン汗腺の免疫機能と掌蹠限局性皮膚アレルギー疾患の病態の解析	宗次太吉	皮膚科	2,470	補 日本学術振興会
発達依存的に発現応答を示す遺伝子に関する精神疾患発症年齢に着目した死後脳解析	上里彰仁	精神行動医学分野	2,080	補 日本学術振興会
分子生物学的手法を用いた脳腫瘍発生機序の基礎的研究	工藤琢巳	脳神経外科	2,210	補 日本学術振興会
悪性脳腫瘍治療抵抗性克服の為の、microRNAと幹細胞を用いた新規治療法の開発	田村郁	脳神経外科	1,950	補 日本学術振興会
骨粗鬆症及び骨折の新規治療標的としてのマイクロRNAに関する検討	猪瀬弘之	整形外科	2,080	補 日本学術振興会
幼若ラット脳へのセボフルランの毒性に対する間葉系幹細胞の予防・治療的効果の検討	里元麻衣子	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	2,080	補 日本学術振興会
HTLV-1ぶどう膜炎における分子標的治療の開発	鴨居功樹	眼科	1,690	補 日本学術振興会
ヒト爪組織の細胞学的特性の研究～ヒト爪再生を目指して～	宇佐美聡	形成・美容外科	1,560	補 日本学術振興会
ウイルス性肝炎治療抵抗性に関わる新たな宿主因子の解析	井津井康浩	総合診療部	1,430	補 日本学術振興会
FoxOに調節される内皮細胞由来分泌因子の探索と新規動脈硬化マーカーへの臨床応用	土屋恭一郎	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,040	補 日本学術振興会
メタボリックシンドロームにおける内因性リガンドと病原体センサーの機能的意義の解明	小川佳宏	分子内分泌代謝学分野	2,600	補 日本学術振興会
加齢黄斑変性発症の四次元時空的解明と分子標的治療の確立	大野京子	眼科学分野	520	補 日本学術振興会
脳内に核酸医薬を送達する高分子ミセルの創製と脳神経系難病の標的治療への展開	横田隆徳	認知行動医学講座脳神経病態学分野	52,416	補 日本学術振興会
癌幹細胞を標的とする腫瘍根絶技術の新構築の総括班	田中真二	先端医療開発学講座肝胆膵・総合外科学分野	130	補 日本学術振興会
天然物ケミカルバイオロジーの研究	岡木隆一	消化管先端治療学講座	104	補 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
ヒト加齢性難聴モデルマウスの遺伝的発症要因の網羅的スクリーニングとヒトへの応用	野口佳裕	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	195	補	日本学術振興会
加齢グラフト部分肝移植における機能不全の解明と新たな治療法の開発	田中真二	先端医療開発学講座肝胆膵・総合外科学分野	650	補	日本学術振興会
聴覚受容体遺伝子の機能解析および難聴モデルマウスの作成	野口佳裕	感覚・皮膚・運動機能診療科耳鼻咽喉科	130	補	日本学術振興会
聴覚受容体遺伝子の機能解析および難聴モデルマウスの作成	喜多村健	認知行動医学講座耳鼻咽喉科学分野	130	補	日本学術振興会
関節可動域の制限によって障害される日常生活動作を予測する技術の開発	森田定雄	理学療法部	156	補	日本学術振興会
細いヘンレの上行脚における細胞間隙ナトリウムイオン輸送の解析	内田信一	器官システム制御学講座腎臓内科学分野	260	補	日本学術振興会
せん妄の治療、予防、医療安全に関する実証研究	竹内崇	認知行動医学講座精神行動医科学分野	13	補	日本学術振興会
ポジトロン断層法脳血流計測を用いた運動負荷時の脳循環調節機構の解明	成相直	認知行動医学講座脳神経機能外科学分野	260	補	日本学術振興会
OCTダイナミック解析による手掌部発汗量精密測定と発汗異常症診断への応用	横関博雄	生体環境応答学講座皮膚科学分野	390	補	日本学術振興会
顎口腔領域における蛍光血管造影法を用いたナビゲーションサージャリーの確立	工藤敏文	外科系診療科血管外科	130	補	日本学術振興会
顎口腔領域における蛍光血管造影法を用いたナビゲーションサージャリーの確立	井上芳徳	器官システム制御学講座食道一般外科学分野	130	補	日本学術振興会
出血性ショックモデルラットを用いた魚油脂肪乳剤投与の抗炎症作用の解析	相星淳一	救命救急センター	780	補	日本学術振興会
歯科医師のうつ病対策における情報提供システムの確立	松島英介	全人的医療開発学講座心療・緩和医療学分野	130	補	日本学術振興会
手術手技の最適化による標準治療確立のための多施設共同研究(頭蓋底手術後の再建法の標準化)	岡崎 陸	形成・再建外科学	300	委	国立がん研究センター
超高齢化社会における治療困難な後期高齢がん患者に対する標準治療の確立	植竹 宏之	応用腫瘍学講座	100	委	国立がん研究センター
KTN光偏向器を用いたEnface-OCTシステムの開発	横関 博雄	皮膚科学分野	3,900	委	国立大学法人大阪大学
分子構造指標を用いた生体関連分子の細胞内動態監察装置の開発	寺田純雄	神経機能形態学	39,487	委	国立大学法人東京農工大学
Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究 第Ⅲ相臨床試験	杉原 健一	腫瘍外科学	525	委	財団法人先端医療振興財団
Stage III 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのUFT/Leucovorin療法とTS-1療法の第Ⅲ相比較臨床試験および遺伝子発現に基づく効果予測因子の探索的研究	杉原 健一	腫瘍外科学	525	委	財団法人先端医療振興財団
シナプスグリアーD-セリン系の分子機構解明と統合失調症における病態解析および修復法創出	西川 徹	精神行動医科学	37,988	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
プルキンエ細胞変性の分子病態に基づく診断・治療の開発	水澤 英洋	脳神経病態学	32,825	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
関節リウマチほか膠原病における線維芽細胞活性化機序に関する研究	上阪 等	膠原病・リウマチ内科学	8,645	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
滑膜幹細胞による膝半月板再生	森尾 友宏	発生発達病態学	8,000	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
キメラ2本鎖核酸の臨床応用のための分子技術の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	72,800	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
代謝ストレスによる炎症の慢性化機構の解明	菅波 孝祥	分子代謝医学分野	18,200	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
滑膜幹細胞による膝半月板再生	宗田 大	運動器外科学分野	20,000	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
転写障害・DNA損傷修復障害を標的とした治療開発	岡澤 均	神経病理学	22,217	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)
滑膜幹細胞による膝半月板再生	関矢 一郎	再生医療研究センター	49,540	委	独立行政法人科学技術振興機構(IST)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
iPS細胞・体性幹細胞由来再生医療製剤の 新規品質評価技術法の開発	森尾 友宏	発生発達病態学分野	59,100	委	独立行政法人科学技術振興機 構(IST)
培養腸上皮幹細胞を用いた炎症腸疾患に対する粘膜再生治療の開発拠点	渡辺 守	消化器病態学分野	78,000	委	独立行政法人科学技術振興機 構(IST)
スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠 点	横田 隆徳	脳神経病態学	2,000	委	独立行政法人科学技術振興機 構(IST)
消化器内科学分野に関する学術研究動向調査研究	渡辺守	消化器病態学	2,171	委	独立行政法人日本学術振興会
「社会的行動の基盤となる脳機能の計測・支援のための先端的研究開発」 (統合失調症の分子異常に対する発達神経科学的解析法の構築と評価技術 の開発)	西川 徹	精神行動医科学	34,334	委	文部科学省
生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明	水澤 英洋	脳神経病態学	286,304	委	文部科学省
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発 (肝がんの多施設検体コホートに基づく難治性規定分子の同定と分子標的治療 の開発)	田中 真二	肝胆膵・総合外科	23,000	委	文部科学省
脳科学研究における倫理的問題の解決に関する研究(カウンセリング手法を用 いた脳研究倫理課題の解決支援)	藍 真澄	生命倫理研究センター	12,350	委	文部科学省
生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明	岡澤 均	神経病理学	79,872	委	文部科学省

計256件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、
高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
1	Cho SK, Sakai R, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamezaki H, et al.	膠原病・リウマチ内科	A comparison of incidence and risk factors for serious adverse events in rheumatoid arthritis patients with etanercept or adalimumab in Korea and Japan.	Mod Rheumatol. 2013 Dec 9.
2	Mizoguchi F, Murakami Y, Saito T, Miyasaka N, Kohsaka H.	膠原病・リウマチ内科	mR-31 controls osteoclast formation and bone resorption by targeting RhoA.	Arthritis Res Ther. 2013;15(5):R102.
3	Takayasu A, Miyabe Y, Yokoyama W, Kaneko K, Fukuda S, Miyasaka N, et al.	膠原病・リウマチ内科	OCL18 activates fibroblast-like synoviocytes in patients with rheumatoid arthritis.	J Rheumatol. [Letter]. 2013 Jun;40(6):1026-8.
4	Miyabe Y, Miyabe C, Iwai Y, Takayasu A, Fukuda S, Yokoyama W, et al.	膠原病・リウマチ内科	Necessity of lysophosphatidic acid receptor 1 for development of arthritis. Arthritis Rheum.	[Research Support, Non-U.S. Gov']. 2013 Aug;65(8):2037-47.
5	Nanki T, Onoue I, Nagasaka K, Takayasu A, Ebisawa M, Hosoya T, et al.	膠原病・リウマチ内科	Suppression of elevations in serum C reactive protein levels by anti-IL-6 autoantibodies in two patients with severe bacterial infections.	Ann Rheum Dis. 2013 Jun;72(6):1100-2.
6	Watanabe K, Sakai R, Koike R, Sakai F, Sugiyama H, Tanaka M, et al.	膠原病・リウマチ内科	Clinical characteristics and risk factors for Pneumocystis jirovecii pneumonia in patients with rheumatoid arthritis receiving adalimumab: a retrospective review and case-control study of 17 patients.	Mod Rheumatol. 2013 Nov;23(6):1085-93.
7	Miyabe C, Miyabe Y, Mura NN, Takahashi K, Terashima Y.	膠原病・リウマチ内科	Toda E, et al. Am80, a retinoic acid receptor agonist, ameliorates murine vasculitis through the suppression of neutrophil migration and activation.	Arthritis Rheum. 2013 Feb;65(2):503-12.
8	Hanagai M, Takamura A, Atsumi T, Ochi M, Hirata S, Kameda H, et al.	膠原病・リウマチ内科	Elevation of KL-6 serum levels in clinical trials of tumor necrosis factor inhibitors in patients with rheumatoid arthritis: a report from the Japan College of Rheumatology Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs.	Mod Rheumatol. 2013 Mar;23(2):284-96.
9	Takamura A, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Seto Y, Atsumi T, et al.	膠原病・リウマチ内科	A retrospective study of serum KL-6 levels during treatment with biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis patients: a report from the Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs of the Japan College of Rheumatology.	Mod Rheumatol. 2013 Mar;23(2):297-303.
10	Ishimoto I, Sohara E, Ito E, Okada E, Rai T, Uchida S.	腎臓内科	Fibronectin glomerulopathy.	Clin Kidney J. 6: 513-515, 2013.
11	Isobe K, Mori T, Asano T, Kawaguchi H, Nonoyama S, Kumagai N, Kameda F, Morimoto T, Hayashi M, Sohara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	Development of enzyme-linked immunosorbent assays for urinary thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter (NCC) measurement.	Am J Physiol Renal Physiol. 305: F1374-81, 2013.
12	Mori T, Kikuchi E, Watanabe Y, Fujii S, Ishigami-Yuasa M, Kagechika H, Sohara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	Chemical library screening for WNK signalling inhibitors using fluorescence correlation spectroscopy.	Biochem J. 455: 339-45, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
13	Nomura N, Kamiya K, Ikeda K, Yui N, Chiga M, Sahara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	Treatment with 17-allylamino-17-demethyl-goldenamyne ameliorated symptoms of Bartter syndrome type caused by mutated Bsm1 in mice.	Biochem Biophys Res Commun. 441: 544-49, 2013.
14	Ohta A, Schumacher FR, Mehellou Y, Johnson C, Knebel A, Macartney TJ, Wood NT, Alessi DR, Kurz T.	腎臓内科	The CUL3-KLHL3 E3 ligase complex mutated in Gordon's hypertension syndrome interacts with and ubiquitylates WNK isoforms; disease-causing mutations in KLHL3 and WNK4 disrupt interaction.	Biochem J. 451: 111-22, 2013.
15	Osawa M, Ogura Y, Isobe K, Uchida S, Nonoyama S, Kawaguchi H.	腎臓内科	CUL3 gene analysis enables early intervention for pediatric pseudohypaldosteronism type II in infancy.	Pediatr Nephrol. 9: 1681-4, 2013.
16	Sasaki S, Chiga M, Kikuchi E, Rai T, Uchida S.	腎臓内科	Hereditary nephrogenic diabetes insipidus in Japanese patients: analysis of 78 families and report of 22 new mutations in AVPR2 and AQP2.	Clin Exp Nephrol. 17: 338-344, 2013.
17	Takahashi D, Mori T, Wakabayashi M, Mori Y, Sasa K, Zeniya M, Sahara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	KLHL2 interacts with and ubiquitinates WNK kinases.	Biochem Biophys Res Commun. 437: 457-62, 2013.
18	Tsujii S, Yamashita M, Urishi G, Takawa R, Kimata T, Isobe K, Chiga M, Uchida S, Kaneko K.	腎臓内科	A young child with pseudohypaldosteronism type II by a mutation of Cullin 3.	BMC Nephrol. 14: 166, 2013.
19	Wakabayashi M, Mori T, Isobe K, Sahara E, Sasa K, Araki Y, Chiga M, Kikuchi E, Nomura N, Mori Y, Matsuo H, Murata T, Nonara S, Asano T, Kawaguchi H, Nonoyama S, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	Impaired KLHL3-mediated ubiquitination of WNK4 causes human hypertension.	Cell Rep. 3: 858-68, 2013.
20	Zeniya M, Sahara E, Kita S, Iwamoto T, Sasa K, Mori T, Oi K, Chiga M, Takahashi D, Yang SS, Lin SH, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	腎臓内科	Dietary salt intake regulates WNK3-SPAK-NKCC1 phosphorylation cascade in mouse aorta through angiotensin II.	Hypertension. 62: 872-878, 2013.
21	Shehei Shinozaki, Tsuyoshi Dhiba, Koichi Kokame, Toshiyuki Miyata, Eiji Kaneko, Kentaro Shimokado.	老年病内科	A Deficiency of Herp, an Endoplasmic Reticulum Stress Protein, Suppresses Atherosclerosis in ApoE Knockout Mice by Attenuating Inflammatory Responses.	PloS One 2013 ; 8 : e75249
22	Asahina Y, Tsuchiya K, Nishimura T, Muraoka M, Suzuki Y, Tanaka N, Yashi Y, Fllioshawa T, Ueda K, Nakarishi I, Itakura J, Takahashi Y, Kuroseki M, Enomoto N, FNakagawa M, Kakinuma S, Watanabe M, Izumi N	消化器内科	α -fetoprotein levels after interferon therapy and risk of hepatocarcinogenesis in chronic hepatitis C.	Hepatology. 56(4):1253-1262, 2013
23	Ito G, Okamoto R, Murano T, Shimizu H, Fujii S, Nakata T, Mizutani T, Yui S, Akoyama-Morio J, Hanoto Y, Okada E, Araki A, Ohtsuka K, Tsuchiya K, Nakamura T, and Watanabe M	消化器内科	Lineage-specific expression of Bestrophin-2 and Bestrophin-4 in human intestinal epithelial cells.	PloS One. 8(11):e79893, 2013
24	Izumi N, Asahina Y, Kuroseki M, Yamada G, Kawai T, Kajiwara E, Okamura Y, Takauchi T, Yokosuka O, Keniyama K, Toyoda J, Inao M, Tanaka E, Morikawa H, Adachi K, Katsushima S, Kido M, Takaguchi K, Hiasa Y, Chayama K, Yatsuhashi H, Okatani M, Kumada H	消化器内科	Inhibition of hepatocellular carcinoma by PegFN α -2a in patients with chronic hepatitis C: a nationwide multicenter cooperative study.	J Gastroenterol. 46(3):382-390, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
25	Kano Y, Tsuchiya K, Zheng X, Horita N, Fukushima K, Hibiya S, Yamauchi Y, Nishimura T, Hinohara K, Gotoh N, Suzuki S, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科	The acquisition of malignant potential in colon cancer is regulated by the stabilization of Atonal homolog 1 protein.	Biochem Biophys Res Commun. 1:432(1):175-181, 2013
26	Kiyohashi K, Kakimura S, Kaniya A, Sakamoto N, Nitta S, Yamanaka H, Yoshino K, Fujiki J, Murakawa M, Kusano-Kitazume A, Shinzui H, Okamoto R, Azuma S, Nakagawa M, Asahina Y, Tanimizu N, Kikuchi A, Nakachi H, Watanabe M	消化器内科	Wnt5a signaling mediates biliary differentiation of fetal hepatic stem/progenitor cells in mice.	Hepatology. 57(6):2502-2513, 2013
27	Nagayama M, Fujii T, Kunisaki R, Yoshimura N, Takazoe M, Takeuchi Y, Saito E, Nagahori M, Asakura K, Takebayashi T, Watanabe M	消化器内科	Incidence and characteristics of the 2009 influenza (H1N1) infections in inflammatory bowel disease patients.	Journal of Crohn's & colitis. 7(4):308-318, 2013
28	Nagayama M, Kunisaki R, Yoshimura N, Takeuchi Y, Watanabe M	消化器内科	A prospective analysis of the incidence of and risk factors for opportunistic infections in patients with inflammatory bowel disease.	J Gastroenterol. 48(5):595-560, 2013
29	Nakagawa M, Sakamoto N, Watanabe T, Nishimura-Sakurai Y, Onozuka I, Azuma S, Kakimura S, Nitta S, Kiyohashi K, Kusano-Kitazume A, Murakawa M, Yoshino K, Tsui Y, Tanaka Y, Mizokami M, Watanabe M, Oshonomizu Liver Conference Study Group	消化器内科	Association of ITPA gene variant and serum ribavirin concentration with blood cells decline in pegylated interferon-alfa plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Hepatal Int. 7(1):153-161, 2013.
30	Nemoto Y, Kanai T, Takahara M, Oshima S, Nakamura T, Okamoto R, Kiichiro T, Watanabe M	消化器内科	Bone marrow-mesenchymal stem cells are a major source of interleukin-7 and sustain colitis by forming the niche for colitogenic CD4 memory T cells.	Gut. 62(9):1142-1152, 2013
31	Nemoto Y, Kanai T, Takahara M, Oshima S, Okamoto R, Tsuchiya K, Matsumoto S, Watanabe M	消化器内科	Th1/Th17-Mediated Interstitial Pneumonia in Chronic Colitis Mice Independent of Intestinal Microbiota.	J Immunol. 190:8818-8825, 2013
32	Ohada E, Araki A, Suzuki S, Watanabe H, Ikeda T, Watanabe T, Kurata M, Eishi M, Watanabe M	消化器内科	Histological diagnosis of follicular lymphoma by biopsy of small intestinal normal mucosa.	Digestive Endoscopy. 39(5):544-546, 2013
33	Okamoto R, Nagahori M, Watanabe M	消化器内科	Perspectives for IBD in Japan.	AGA Perspectives. 9(2):18-19 2013
34	Takahara M, Nemoto Y, Oshima S, Matsuzawa Y, Kanai T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Yamamoto K, Watanabe M	消化器内科	IL-7 promotes long-term in vitro survival of unique long-lived memory subset generated from mucosal effector memory CD4+ T cells in chronic colitis mice.	Immunity Lett. 156:89-93, 2013
35	Watanabe M, Hanai H, Nishino H, Yokoyama T, Terada T, Suzuki Y	消化器内科	Comparison of QD and TID oral mesalazine for maintenance of remission in quiescent ulcerative colitis: a double-blind, double-dummy, randomized multicenter study.	Inflamm Bowel Dis. 19(8):1681-1690, 2013
36	Watanabe M, Nishino H, Sameshima Y, Ota A, Nakamura S, Hibi T	消化器内科	Randomised clinical trial: evaluation of the efficacy of mesalazine (mesalamine) suppositories in patients with ulcerative colitis and active rectal inflammation-a placebo-controlled study.	Aliment Pharmacol Ther. 38(3):264-273, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
37	Ezaki M, Matsumoto T, Watanabe K, Arakawa T, Naito Y, Matsuura M, Nakase H, Hibi T, Matsumoto T, Nouda S, Higuchi K, Ohnishi N, Goto H, Kurokawa S, Motoya S, Watanabe M.	消化器内科	Use of capsule endoscopy in patients with Crohn's disease in Japan: a multicenter survey.	J Gastroenterol Hepatol. 29(1):98-101,2014
38	Fujii T, Naganuma M, Kitazume Y, Saito E, Nagahori M, Ohtsuka K, Watanabe M	消化器内科	Advancing magnetic resonance imaging in Crohn's disease.	Digestion. 89(1):24-30, 2014
39	Hisabe T, Hirai F, Matsui T, Watanabe M	消化器内科	Evaluation of diagnostic criteria for Crohn's disease in Japan.	J Gastroenterol. 49(1):93-9, 2014
40	Murano T, Okamoto R, Ito O, Nakata T, Hibiya S, Shimizu H, Fujii S, Kano Y, Mizutani T, Yui S, Akiyama-Morio J, Nemoto Y, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科	Hes1 promotes the IL-22-mediated antimicrobial response by enhancing STAT3-dependent transcription in human intestinal epithelial cells.	Biochem Biophys Res Commun 2013; 443(3):840-846, 2014
41	Saito E, Nagahori M, Fujii T, Otsuka K, Watanabe M	消化器内科	Efficacy of salvage therapy and its effect on operative outcomes in patients with ulcerative colitis.	Digestion JGA Special Issue. 89(1):55-60, 2014
42	Suzuki M, Nagaiishi T, Yamazaki M, Onizawa M, Watanabe T, Sakamaki Y, Ichinose S, Totsuka M, Oshima S, Okamoto R, Shinonaka M, Yagita H, Nakamura T, Watanabe M	消化器内科	Myosin light chain kinase expression induced via tumor necrosis factor receptor 2 signaling in the epithelial cells regulates the development of colitis-associated carcinogenesis.	PLoS One. 9(2):e88389, 2014
43	Suzuki Y, Motoya S, Hanai H, Matsumoto T, Hibi T, Robinson AM, Mostafa NM, Chao J, Arora V, Camez A, Thakkar RB, Watanabe M.	消化器内科	Efficacy and safety of adalimumab in Japanese patients with moderately to severely active ulcerative colitis.	J Gastroenterol. 49(2):283-94, 2014
44	Tsuchiya K, Asahina Y, Matsuda S, Munook M, Nakata T, Suzuki Y, Tamaki N, Yesui Y, Suzuki S, Hosokawa T, Nishimura T, Ueda K, Kuzuya T, Nakanishi H, Rakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Enomoto N, Izumi N	消化器内科	Changes in plasma vascular endothelial growth factor at 8 weeks after sorafenib administration as predictors of survival for advanced hepatocellular carcinoma.	Cancer.120(2):229-37, 2014
45	Watanabe K, Sasaki I, Fukushima K, Futami K, Ikeuchi H, Sugita A, Nezu R, Mizushima T, Kamoka S, Kusonoki M, Yoshioka K, Funayama Y, Watanabe T, Fujii H, Watanabe M	消化器内科	Long-term incidence and characteristics of intestinal failure in Crohn's disease: a multicenter study.	J Gastroenterol.49(2):231-8, 2014
46	Watanabe M	消化器内科	Adult tissue stem cell therapy for gastrointestinal diseases.(Epub ahead of print)	J Gastroenterol Hepatol 2014 Feb 18. doi: 10.1111/jgh.12555. [Epub ahead of print]. 2014
47	Hosokawa S, Haraguchi G, Sasaki A, Arai H, Muto S, Itai A, Doi S, Isoeda M.	発生発達病理学	Pathophysiological roles of nuclear factor kappa B (NF- κ B) in pulmonary arterial hypertension: effects of synthetic selective NF- κ B inhibitor BMD-0354.	Cardiovasc Res. 2013; 99(1): 35-43.
48	Matsubara Y, Ono M, Miyai K, Takizawa F, Takasawa K, Onishi T, Kashiwada K, Mizutani S.	発生発達病理学	Longitudinal analysis of growth and body composition of Japanese 21-OHD patients in childhood.	Endocr J. 2013; 60(2):149-54.

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
49	Takasawa K, Ono M, Hjikata A, Matsubara Y, Katsumata N, Takegi M, Morio T, Ohara O, Kashimada K, Mizutani S.	発生発達生物学	Two novel HSD9B2 missense mutations with diverse residual enzymatic activities for $\Delta 5$ steroids.	Clin Endocrinol (Oxf). 2013 Dec 27.
50	Takizawa F, Mizutani S, Ogawa Y, Sawada H.	発生発達生物学	Glucose-independent persistence of PAI-1 gene expression and H3K4 tri-methylation in type II diabetic mouse endothelium; implication in metabolic memory.	Biochem Biophys Res Commun. 2013;433(1):66-72
51	Udagawa T, Notoyoshi Y, Matsumura Y, Takei A, Ajii S, Ito E, Ohga M, Nagasawa M, Morio T, Mizutani S.	発生発達生物学	Effect of eculizumab and recombinant human soluble thrombomodulin combination therapy in a 7-year-old girl with atypical hemolytic uremic syndrome due to anti-factor H autoantibodies.	GEN Case Reports 2013 Sep
52	Piao J, Sakurai N, Iwamoto S, Nishioka J, Nakatani K, Komada Y, Mizutani S, Takegi M.	発生発達生物学	Functional studies of a novel germline p53 splicing mutation identified in a patient with Li-Fraumeni-like syndrome.	Mol Carcinog. 2013; 52 (10): 770-6.
53	Takegi M, Piao J, Lin L, Kawaguchi H, Imai C, Ogawa A, Watanabe A, Akiyama K, Kobayashi C, Mori M, Ko K, Sugimoto M, Mizutani S.	発生発達生物学	Autoimmunity and persistent RAS-mutated clones long after the spontaneous regression of JMML.	Leukemia. 2013; 27 (8): 1926-8.
54	Takegi M, Sato M, Piao J, Miyamoto S, Isoda T, Kitagawa M, Honda H, Mizutani S.	発生発達生物学	ATM-dependent DNA damage-response pathway as a determinant in chronic myelogenous leukemia.	DNA Repair (Amst). 2013; 12 (7): 500-7.
55	Tomizawa D, Tawa A, Watanabe T, Moriya Saito A, Kudo K, Taga T, Iwamoto S, Shimada A, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K, Kigasawa H, Kosaka Y, Miyachi H, Honbe K, Nakahata T, Adachi S.	発生発達生物学	Excess treatment reduction including anthracyclines results in higher incidence of relapse in core binding factor acute myeloid leukemia in children.	Leukemia. 2013; 27(12): 2413-6
56	31. Tomizawa D, Tawa A, Watanabe T, Moriya Saito A, Kudo K, Taga T, Iwamoto S, Shimada A, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Kiyokawa H, Isoyama K, Mizutani S, Hara J, Honbe K, Nakahata T, Adachi S.	発生発達生物学	Appropriate dose reduction in induction therapy is essential for the treatment of infants with acute myeloid leukemia: A report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group.	Int J Hematol. 2013; 98(5): 578-588
57	Ishiwata S, Ozgata S, Umino A, Shiraku H, Ohashi Y, Kajii Y, Nishikawa T.	東京医科大学大学院 医学総合研究科 精神行動医学分科	Increasing effects of S-methyl-L-cysteine on the extracellular D-serine concentrations in the rat medial frontal cortex.	Amino Acids. 44(5):1391-1395,2013.
58	Ishiwata S, Umino A, Umino M, Yorita K, Fukui K, Nishikawa T.	東京医科大学大学院 医学総合研究科 精神行動医学分科	Modulation of extracellular d-serine content by calcium permeable AMPA receptors in rat medial prefrontal cortex as revealed by in vivo microdialysis.	Int J Neuropsychopharmacol. 16(6):1395-1406,2013.
59	Sasaki T, Kodaka F, Taniguchi G, Nishikawa T, Watanabe M.	東京医科大学大学院 医学総合研究科 精神行動医学分科	Experiential auditory hallucinations due to chronic epileptic discharges after radiotherapy for oligoastrocytoma.	Epileptic Disorder. 15(2):188-192, 2013.
60	Takataano Y, Kimori K, Yamamoto K, Sato T, Hoshida A, Inoue H, Ueno S, Kawano S, Yamaguchi R, Toh H, Imura H, Shimizu S, Jishi H, Suzuki S, Tokudome S, Watanabe M, Tanaka J, Kudo S, Mochizuki H, Kusunoki M, Yamada K, Shinoda Y, Moriya Y, Miyama S, Sugihara K, Mori M.	大腸・肛門外科	The rs883167 SNP is associated with MYC transcription efficacy, which promotes progression and worsens prognosis of colorectal cancer.	Ann Surg Oncol 2013; 20(4):1395-1402

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
61	Miyazaki K, Inokuchi M, Takagi Y, Kato K, Kojima K, Sugihara K.	大腸・肛門外科	EphA4 is a prognostic factor in gastric cancer.	BMJ Clinical Pathology 2013;13:18
62	Ishiguro M, Kotake K, Nishimura G, Tomita H, Ichikawa W, Takahashi K, Watanabe T, Furuhata T, Kondo K, Mori M, Kaiji Y, Kanazawa A, Kobayashi M, Kajima M, Hyodo I, Miyakubo K, Suzuhara K.	大腸・肛門外科	Study protocol of the B-CAST study: a multicenter, prospective cohort study investigating the tumor biomarkers in adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer.	BMJ Cancer 2013; 13:149
63	Inokuchi M, Kojima K, Kato K, Motoyama K, Sugita H, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Feasibility of laparoscopic-assisted gastrectomy for patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Surg Endosc. 2013; 27:2102-2109
64	Kobayashi H, Kotake K, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Prognostic significance of peritoneal lavage cytology in patients with colorectal cancer.	Int J Clin Oncol 2013; 18:411-417
65	Ogawa H, Saki H, Teraozaki H, Jayashi M, Baba H, Matsuyama T, Jitake H, Sugihara K.	大腸・肛門外科	An intra-abdominal desmoid tumor difficult to distinguish from a gastrointestinal stromal tumor: report of two cases.	Surg Today. 2013; in print
66	Kobayashi H, Kotake K, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Prognostic scoring system for stage IV colorectal cancer: is the AJCC sub-classification of stage IV colorectal cancer appropriate?	Int J Clin Oncol 2013; 18:698-703
67	Kobayashi H, Miyata H, Gotoh M, Baba H, Kimura W, Kazama Y, Nakagawa T, Shinoda M, Tomita H, Sugihara K, Mori M.	大腸・肛門外科	Risk model for right hemicolectomy based on 18,070 Japanese patients in the National Clinical Database.	J Gastroenterol 2013; in print
68	Watanabe T, Yoshino T, Jitake H, Yamazaki K, Ishiguro M, Kurokawa T, Sajo K, Onishi Y, Sugihara K.	大腸・肛門外科	KRAS Mutational Status in Japanese Patients with Colorectal Cancer: Results from a Nationwide Multicenter, Cross-sectional Study.	Jpn J Clin Oncol 2013; 43(7):706-712
69	Yamada Y, Takahashi D, Matsumoto H, Baba H, Nakamura M, Yoshida K, Yoshida M, Iemoto S, Shinoda K, Komatsu Y, Sasaki Y, Satoh T, Takahashi K, Mochimaru H, Hiro K, Watanabe M, Sakata Y, Morita S, Shinoda Y, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Leucovorin, fluorouracil, and oxaliplatin plus bevacizumab versus S-1 and oxaliplatin plus bevacizumab in patients with metastatic colorectal cancer (SOFT): an open-label, non-inferiority, randomised phase 3 trial.	Lancet Oncol 2013; 14(10):1278-1286
70	Kinugasa Y, Arakawa T, Murakami G, Fujimura H, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Mucosa supply to the internal anal sphincter differs from that to the distal rectum: an immunohistochemical study of cadavers.	Int J Colorectal Dis 2013; in print
71	Yamauchi S, Jida S, Ishiguro M, Ichikawa T, Jitake H, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Clinical significance of platelet-derived growth factor- α expression in colorectal cancer.	J Cancer therapy 2013; in print
72	Kinugasa Y, Arakawa T, Abe H, Jose Francisco Rodriguez-Vazquez, Murakami G, Sugihara K.	大腸・肛門外科	Female Longitudinal Anal Muscles or Conjoint Longitudinal Coats Extend into the Subcutaneous Tissue along the Vaginal Vestibule: A Histological Study Using Human Fetuses.	A Histological Study Using Human Fetuses.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
73	Shiomi A, Kinugasa Y, Yamaguchi T, Tezuka M, S. Tomioka H, Kagawa H.	大腸・肛門科	Feasibility of Laparoscopic Intoraphoretic Resection for Patients with cT1-T2 Low Rectal Cancer.	Digestive Surgery 2012;30: 272-277
74	Kumagai Y, Nagata K, Ishiguro T, Haga N, Kuwabara K, Sobajima J, Kumamoto K, Ishibashi K, Baba H, Shimizu M, Tamura J, Kawano T, Takubo K, Ishida H.	食道外科	Clinicopathological characteristics and clinical outcomes of esophageal basaloid squamous carcinoma: Experience at a single institution.	Int. Surg 2013; 98: 450-454.
75	Kumagai Y, Ishiguro T, Haga N, Kuwabara K, Kawano T, Ishida H.	食道外科	Hemodynamics of the reconstructed gastric tube during esophagectomy; assessment of outcomes using indocyanine green fluorescence.	World J Surg 2014; 38: 138-143.
76	Kumagai Y, Kawada K, Takubo K.	食道外科	Endocytoscopic observation of the esophageal mucosa: A trial to examine the feasibility of omitting biopsy histology.	Annals of the New York Academy of Sciences
77	Kumagai Y, Kawada K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Baba H, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H, Takubo K.	食道外科	Endocytoscopic observation of various esophageal lesions at x600: can nuclear abnormality be recognized?	Dis Esophagus
78	Kawada K, Kawano T, Sugimoto T.	食道外科	Key points and Techniques for Trans-nasal Endoscopic Screening for superficial Hypopharyngeal cancer.	Treatment Strategies 2013; 2: 42.
79	Okada T, Kawada K, Nakajima Y, Tokairin Y, Nagai K, Kawano T.	食道外科	Internal pressure of the conduit during endoscopy on the day after esophagectomy.	Dig Surg. 2013; 30(3): 183-189.
80	Swanson J, Nakajima Y, Kawada K, Tokairin Y, Suzuki T, Miyawaki Y, Hoshino A, Okada T, Ohta S, Ryotokuji T, Fujiwara N, Nishikage T, Nagai K, Kawachi H, Kawano T.	食道外科	Changes in the microvascular structure of mucosal squamous cell carcinoma of the esophagus and their significance in tumor progression.	J Med Dent Sci. 2014; 60: 83-91
81	Hoshino A, Kawada K, Nakajima Y, Nagai K, Sugimoto T, Kawano T.	食道外科	Vocal cord assessment with transnasal endoscopy in intubated patients after esophagectomy.	J Med Dent Sci. 2014; 61: 17-22
82	Nakajima Y, Kawada K, Tokairin Y, Miyawaki Y, Okada T, Ryotokuji T, Fujiwara N, Saito K, Fujiwara H, Ogo T, Okuda M, Nagai K, Miyake S, Kawano T.	食道外科	Salvage chemoradiotherapy for locally advanced esophageal carcinomas.	Dis Esophagus (accepted in press)
83	Sato K, Tanaka S, Mitsuonori Y, Mogushi K, Yasen M, Ahara A, Ban D, Ochiai T, Irie T, Kudo A, Nakamura N, Tanaka H, Arai S.	肝胆腸外科	Contrast-enhanced intraoperative ultrasonography for vascular imaging of hepatocellular carcinoma: clinical and biological significance.	Hepatology. 2013;57(4):1438-1447
84	Furuta M, Kozaki KI, Tanimoto K, Tanaka S, Arai S, Shimamura T, Niida A, Miyano S, Inazawa J.	肝胆腸外科	The Tumor-suppressive miR-497-195 cluster targets multiple cell-cycle regulators in hepatocellular carcinoma.	PLoS One. 2013;8(3):e60155.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
85	Obulhasim G, Yason M, Kajino K, Megushi K, Tanaka S, Mizushima H, Tanaka H, Arai S, Hino O.	肝胆腫外科	Up-regulation of dbpA mRNA in hepatocellular carcinoma associated with metabolic syndrome.	Hepatology International, in press
86	Kudo A, Igei T, Kumagai J, Ban D, Tanaka S, Arai S.	肝胆腫外科	A simple index to predict liver functional reserve after hepatectomy.	Hepato-Gastroenterology, in press
87	Kudo A, Mogushi K, Takayama T, Matsumura S, Ban D, Irie T, Ochiai T, Tanaka H, Anzai N, Sakamoto M, Tanaka S, Arai S.	肝胆腫外科	Mitochondrial metabolism in the Noncancerous Liver Determine the Occurrence of Hepatocellular Carcinoma: A Prospective Study.	Journal of gastroenterology, 2014; 49(3): 502-510.
88	Ochiai T, Igei K, Furuyama T, Ito H, Mitsunori Y, Aihara A, Kamagai Y, Eide M, Odajima H, Tanaka S, Arai S, Yamazaki S.	肝胆腫外科	Favorable response after gemcitabine-radiotherapy for invasive pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasm: a case report.	International Surgery, 2013;98(4):340-345.
89	Ochiai T, Ohta K, Eide M, Kumagai Y, Mitsunori Y, Aihara A, Noguchi N, Arai S, Yamazaki S.	肝胆腫外科	High resectability of colorectal liver metastases with aggressive chemotherapy in the era of molecular target-based agents.	Hepato-Gastroenterology, 2013;60(12):955-960.
90	Yasui Y, Kudo A, Kurosaki M, Matsuda S, Murooka M, Tameki N, Suzuki S, Hosokawa T, Ueda K, Matsunaga K, Nakarishi H, Tshuchiya K, Itakura J, Takahashi Y, Tanaka S, Asahira Y, Enomoto N, Arai S, Izumi N.	肝胆腫外科	Reduced organic anion transporter expression is a risk factor for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C patients.	Oncology, 2013;86(1):50-62.
91	Igei K, Ochiai T, Yamazaki S.	肝胆腫外科	POSSUM and P-POSSUM for risk assessment in general surgery in the elderly.	Hepato-Gastroenterology, 2013;60(12):1320-1327.
92	Machida Y, Takemoto A, Ban D, Yoshimoto T, Mihara M, Shibuya H.	肝胆腫外科	Adrenal cortical adenoma arising from an adenohypophyseal union.	Japanese Journal of Radiology, 2013;31(9):623-626.
93	Ito H, Kudo A, Matsumura S, Ban D, Irie T, Ochiai T, Nakamura N, Tanaka S, Tanabe M.	肝胆腫外科	Mixed adenoneuroendocrine carcinoma of the colon progressed rapidly after hepatic rupture: report of a case.	International Surgery, 2014;99(1):40-44.
94	Jibiki M, Inoue Y, Kudo T, Toyofuku T, Saito K, Kihara K, Kudo A, Ban D, Arai S.	肝胆腫外科	Combined resection of a tumor and the inferior vena cava: report of two cases.	Surgery Today, 2014; 44(12):166-170
95	Hirano Y, Takeuchi H, Suda K, Nakamura R, Takahashi T, Kawakubo H, Wada N, Saikawa Y, Obara H, Jinno H, Hasegawa H, Tanabe M, Kitagawa Y.	肝胆腫外科	Clinical utility of the Revised Cardiac Risk Index in non-cardiac surgery for elderly patients: a prospective cohort study.	Surgery Today, 2014; 44(2): 277-284
96	Kano Y, Konno M, Kawamoto K, Tamari K, Hayashi K, Fukusumi T, Satoh T, Tanaka S, Ogawa K, Mori M, Doki Y, Ishii H.	肝胆腫外科	Novel drug discovery system for cancer stem cells in human squamous cell carcinoma of the esophagus.	Oncology Report, 2014; 31(3): 1133-1138

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
97	Aoyagi M, Kawano Y, Tamaki M, Yamura K, Ohno K	脳神経外科	Combined extradural subtemporal and anterior transpetrosal approach to tumors located in the interpeduncular fossa and the upper clivus.	Acta Neurochir (Wien) 155:1401-1407, 2013
98	Habib ERMS, Komuro R, Yan P, Hayashi S, Inaji M, Monose-Sato Y, et al	脳神経外科	Evaluation of voltage-sensitive fluorescence dyes for monitoring neuronal activity in the embryonic central nervous system.	J Membr Biol 246:679-688, 2013
99	Hara K, Maehara T, Miyajima M, Ohta K, Ino H, Inaji M, et al	脳神経外科	Post-operative mismatch negativity recovery in a temporal lobe epilepsy patient with cavernous angioma.	Clin Neurol Neurosurg 115:756-759, 2013
100	Hosoda C, Tanaka K, Nariai T, Honda M, Harakawa T	脳神経外科	Dynamic Neural Network Reorganization Associated with Second Language Vocabulary Acquisition: A Multimodal Imaging Study.	J Neurosci 33:13663-13672, 2013
101	Hiura M, Nariai T, Ishii K, Sakata M, Oda K, Toyohara J, Ishiwata K	脳神経外科	Changes in cerebral blood flow during steady-state cycling exercise: a study using oxygen-15-labeled water with PET.	J Cereb Blood Flow Metab, Dec 4, 2013
102	Imai H, Tanaka Y, Nomura N, Tautsumi Y, Doi H, Kanno Z, et al	脳神経外科	Three-dimensional quantification of susceptibility artifacts from various metals in magnetic resonance images.	Acta Biomater 9:8433-8439, 2013
103	Ishii Y, Nariai T, Tanaka Y, Mukawa M, Inaji M, Maehara T, Ohno K	脳神経外科	Practical Clinical Use of Dynamic Susceptibility Contrast Magnetic Resonance Imaging (DSC-MRI) for the Surgical Treatment of Moyamoya Disease.	Neurosurgery, Dec 12, 2013
104	Maehara T, Inaji M, Matsuura M	脳神経外科	Surgical effects of focus resection for patients with intractable epilepsy.	Neurol Med Chir (Tokyo) 53:281-286, 2013
105	Mukawa M, Nariai T, Matsushima Y, Ohno K	脳神経外科	Clinical features of familial juvenile cases of moyamoya disease: analysis of patients treated in a single institute over a 28-year period.	J Neurosurg Pediatr 12:175-180, 2013
106	Mullah SH, Inaji M, Nariai T, Ishibashi S, Ohno K	脳神経外科	A selective adenosine A2A receptor antagonist ameliorated hyperlocomotion in an animal model of lateral fluid percussion brain injury.	Acta Neurochir Suppl 118:89-92, 2013
107	Nariai T, Inaji M, Tanaka Y, Hiura M, Hosoda C, Ishii K, et al	脳神経外科	PET molecular imaging to investigate higher brain dysfunction in patients with neurotrauma.	Acta Neurochir Suppl 118:251-254, 2013
108	Hirose Y, Hara K, Miyajima M, Matsuda A, Maehara T, Hara M, Matsushima E, Ohta K, Matsuura M	脳神経外科	Changes in the duration and frequency of deviant stimuli engender different mismatch negativity patterns in temporal lobe epilepsy.	Epilepsy Behav 31:136-142, 2014

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
109	Tamura K, Aoyagi M, Ando H, Ogasawara T, Wakimoto H, Yamamoto M, et al	脳神経外科	Expansion of CD133-positive glioma cells in recurrent de novo glioblastomas after radiotherapy and chemotherapy.	J Neurosurg 118:1145-1155, 2013
110	Yamamoto M, Kawabe T, Sato Y, Higuchi Y, Nariai T, Barford BE, Kasuya H, Urakawa Y	脳神経外科	A case-matched study of stereotactic radiosurgery for patients with multiple brain metastases: comparing treatment results for 1-4 vs >= 5 tumors: clinical article.	J Neurosurg 118:1258-1268, 2013
111	Namba K, Nemoto S:Swine hybrid aneurysm model for endovascular surgery training.	血管内治療科	:Swine hybrid aneurysm model for endovascular surgery training.	Interventional Neuroradiology 2013 Jun 25;19(2):153-8, Epub 2013 May 21
112	Namba K, Kawamura Y, Higaki A, Nemoto S	血管内治療科	Percutaneous medial saphenous artery approach for swine central artery access.	Journal of Investigative Surgery 2013 Dec;26(6):360-3.
113	K.Namba, S.Nemoto	血管内治療科	Double Ophthalmic Artery Visualized with New Technology.	The Neuroradiology Journal 26: 371-372, 2013
114	Ishijo M, Miki K, Ishibashi S.	神経内科、血管内治療科	Response to letter by Gomez-Choco and Valdeusa regarding article, "Posterior cerebral artery laterality on magnetic resonance angiography predicts long-term functional outcome in middle cerebral artery occlusion".	Stroke. 2013 Aug;44(8):e101.
115	Iwasawa E, Ishibashi S, Miki K, Yoshino Y, Nemoto S, Mizusawa H.	神経内科、血管内治療科	Teaching NeuroImages: Reversible cognitive impairment with bihemispheric lesions caused by a dural arteriovenous fistula.	Neurology. 2013 Aug 6;81(6):e38-9.
116	Hayashi S, Mashara T, Mukawa M, Aoyagi M, Yoshino Y, Nemoto S, Ono T, Ohno K.	脳神経外科、血管内治療科	Successful coil embolization of a ruptured basilar artery aneurysm in a child with leukemic: a case report.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2014;54(2):150-4, Epub 2013 Nov 20.
117	S. Yoshii T, Yuasa M, Setome S, Yamada T, Sakaki K, Hirai T, Taniyama T, Inose H, Kato T, Arai Y, Kawabata S, Tomizawa S, Enomoto M, Shinomiya K, Okawa A.	整形外科	Porous/Dense Composite Hydroxyapatite for Anterior Cervical Discectomy and Fusion.	Spine (Phila Pa 1976). 2013 May 13;38(10):833-40.
118	T. Utagawa D, Kawabata S, Sakaki K, Ishii S, Tomizawa S, Inose H, Yoshii T, Kato T, Enomoto M, Okawa A.	整形外科	Efficacy of biphasic transcranial electric stimulation in intraoperative motor evoked potential monitoring for cervical compression myelopathy.	Spine (Phila Pa 1976). (in press)
119	Nakagawa Y, Muneta T, Tsuji K, Ishinose S, Nakamatsuka Y, Koga H, Sekiya I	運動器外科学	β -Tricalcium Phosphate Micron Particles Enhance Calcification of Human Mesenchymal Stem Cells In Vitro	Journal of Nanomaterials
120	Ozeki N, Muneta T, Koga H, Katagiri H, Otake K, Okuno M, Tsuji K, Kobayashi E, Matsumoto K, Saito H, Saito T, Sekiya I	運動器外科学	Transplantation of Achilles tendon treated with BMP-7 promotes meniscus regeneration in a rat massive meniscus defect model.	Arthritis Rheum

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
121	Katagiri H, Muneta T, Tsuji K, Horie M, Koga H, Ozeki N, Kobayashi E, Sekiya I	運動器外科学	Transplantation of aggregates of synovial mesenchymal stem cells regenerates meniscus more effectively in a rat massive meniscal defect.	Biochem Biophys Res Commun
122	Hatazushima D, Muneta T, Horie M, Koga H, Tsuji K, Sekiya I	運動器外科学	Intraarticular Injection of Synovial Stem Cells Promotes Meniscal Regeneration in a Rabbit Massive Meniscal Defect Model.	J Orthop Res
123	Atsok K, Dorai MN, Bilge O, Sekiya I	運動器外科学	Synovial stem cells in musculoskeletal regeneration.	J Am Acad Orthop Surg
124	Utsunomiya H, Uchida S, Sekiya I, Sakai A, Moridera K, Nakamura T.	運動器外科学	Isolation and characterization of human mesenchymal stem cells derived from shoulder tissues involved in rotator cuff tears.	Am J Sports Med
125	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Ju YJ, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Okawa A, Sekiya I	運動器外科学	Effect of Posterolateral Bundle Graft Fixation Angles on Graft Tension Curves and Load Sharing in Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using a Trans tibial Drilling Technique.	Arthroscopy
126	Yamazaki J, Muneta T, Ju YJ, Koga H, Morito T, Sekiya I	運動器外科学	The kinematic analysis of female subjects after double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction during single-leg squatting.	J Orthop Sci
127	Ichinose S, Tagami M, Muneta T, Mukohyama H, Sekiya I	運動器外科学	Comparative sequential morphological analyses during in vitro chondrogenesis and osteogenesis of mesenchymal stem cells embedded in collagen gels.	Med Mol Morphol
128	Miyatake K, Tsuji K, Yamaga M, Yamada J, Matsukura Y, Abuta K, Sekiya I, Muneta T.	運動器外科学	Human YKL39 (chitinase 3-like protein 2), an osteoarthritis-associated gene, enhances proliferation and type II collagen expression in ATDC5 cells.	Biochem Biophys Res Commun
129	Watanabe T, Muneta T, Sekiya I, Banks SA	運動器外科学	Intraoperative Joint Gaps Affect Postoperative Range of Motion in TKAs With Posterior-stabilized Prostheses.	Clin Orthop Relat Res
130	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Okawa A, Sekiya I	運動器外科学	Effect of femoral tunnel position on graft tension curves and knee stability in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc
131	Matsukura Y, Muneta T, Tsuji K, Koga H, Sekiya I	運動器外科学	Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase after meniscus injury.	Clin Orthop Relat Res
132	Horie M, Muneta T, Yamazaki J, Nakamura T, Koga H, Watanabe T, Sekiya I	運動器外科学	A modified quadrant method for describing the femoral tunnel aperture positions in ACL reconstruction using two-view plain radiographs	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
133	Ozeki N, Muneta T, Koga H, Katagiri H, Otsuka K, Okuno M, Tsuji K, Kobayashi E, Matsumoto K, Saito H, Saito T, Sekiya I	運動器外科学	Transplantation of Achilles tendon treated with bone morphogenetic protein 7 promotes meniscus regeneration in a rat model of massive meniscal defect.	Arthritis Rheum.
134	Koga H, Muneta T, Yagishita K, Watanabe T, Mochizuki T, Horie M, Nakamura T, Sekiya I	運動器外科学	Effect of femoral tunnel position on graft tension curves and knee stability in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.
135	Horie M, Muneta T, Yamazaki J, Nakamura T, Koga H, Watanabe T, Sekiya I	運動器外科学	A modified quadrant method for describing the femoral tunnel aperture positions in ACL reconstruction using two-view plain radiographs.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.
136	Matsukura Y, Muneta T, Tsuji K, Koga H, Sekiya I	運動器外科学	Mesenchymal Stem Cells in Synovial Fluid Increase After Meniscus Injury.	Clin Orthop Relat Res.
137	Ali Z, Abbasi, Michael Condit, Jennifer Christopher, Stefan Krauzer, Jason K, Otta, Scott A Banks	運動器外科学	In vivo kinematics of a robot-assisted uni- and multi-compartmental knee arthroplasty	J Orthop Sci.
138	1. Bee H, Yoshida S, Matsuoka Y, Nakajima H, Ito E, Tanaka H, Oya M, Nakayama T, Takeshita H, Kijima T, Ishioka J, Numao N, Koga F, Saito K, Akashi T, Fujii Y, Kihara K.	1. Department of Urology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan. 2. Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan. 3. Department of Radiology, Ochanomizu Sunagadai Clinic, Tokyo, Japan	Apparent diffusion coefficient value as a biomarker reflecting morphological and biological features of prostate cancer.	Int Urol Nephrol. 46(3):555-61, 2014
139	2. Fukushima H, Masuda H, Yokoyama M, Tatokoro M, Yoshida S, Ishioka J, Matsuoka Y, Numao N, Koga F, Saito K, Fujii Y, Kihara K.	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Diabetes mellitus with obesity is a predictor of recurrence in patients with non-metastatic renal cell carcinoma.	Jon J Clin Oncol. 43:740-6, 2013.
140	3. Ito M, Masuda H, Kawakami S, Fujii Y, Koga F, Saito K, Yamamoto S, Yonese J, Fukui I, Kihara K.	Department of Urology, Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan	Impact of lower urinary tract symptoms on prostate cancer risk among Japanese men with prostate-specific antigen <10ng/mL and non-suspicious digital rectal examination.	Int J Urol. 20:1163-8, 2013.
141	4. Kijima T, Koga F, Fujii Y, Yoshida S, Tatokoro M, Kihara K.	Graduate School of the Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan	Zoledronic acid sensitizes renal cell carcinoma cells to radiation by downregulating STAT1.	PLoS One. 8:e64615, 2013.
142	5. Kobayashi S*, Fujii Y* (equally contributed), Koga F, Yokeyama M, Ishioka J, Matsuoka Y, Numao N, Saito K, Masuda H, Kihara K.	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Impact of bladder neck involvement on progression in patients with primary non-muscle invasive bladder cancer: a prospective validation study.	Urol Oncol. 32(1):38 e29-36, 2014.
143	6. Kobayashi S, Koga F, Kajino K, Yoshida S, Ishii C, Tanaka H, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Yamada T, Kihara K.	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan	Apparent diffusion coefficient value reflects invasive and proliferative potential of bladder cancer.	J Magn Reson Imaging. 39(1):172-8, 2014.
144	7. Koga F, Numao N, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kawakami S, Kihara K.	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Sensitivity to chemoradiation predicts development of metastasis in muscle-invasive bladder cancer patients.	Urol Oncol. 7: 1270-5, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
145	8. Komei Y, Numao N, Yoshida S, Matsuoka Y, Nakanishi Y, Ishii C, Koga F, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kawakami S, Kihara K	1. Department of Urology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan, 2. Department of Radiology, Ochanomizu Surugadai Clinic, Tokyo, Japan	High diagnostic ability of multiparametric magnetic resonance imaging to detect anterior prostate cancer missed by transrectal 12-core biopsy.	J Urol. 190(3):867-73, 2013.
146	9. Masuda H, Fukushima H, Kawakami S, Numao N, Fujii Y, Saito K, Koga F, Ishioka J, Yokoyama M, Kihara K	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Impact of advanced age on biochemical recurrence after radical prostatectomy in Japanese men according to pathological stage.	Jpn J Clin Oncol. 43:410-6, 2013.
147	10. Masuda H, Kagawa M, Kawakami S, Numao N, Matsuoka Y, Yokoyama M, Yamamoto S, Yonese J, Fukui I, Kihara K	Department of Urology, Graduate School of Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan	Body mass index influences prostate cancer risk at biopsy in Japanese men.	Int J Urol. 20:701-7, 2013.
148	11. Numao N, Yoshida S, Komei Y, Ishii C, Kagawa M, Kijima T, Yokoyama M, Ishioka J, Matsuoka Y, Koga F, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kawakami S, Kihara K	1. Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan, 2. Department of Radiology, Ochanomizu Surugadai Clinic, Tokyo, Japan	Usefulness of pre-biopsy multiparametric magnetic resonance imaging and clinical variables to reduce initial prostate biopsy in men with suspected clinically localized prostate cancer.	J Urol. 190:502-8, 2013.
149	12. Takeshita H, Numao N, Kijima T, Yokoyama M, Ishioka J, Matsuoka Y, Koga F, Saito K, Masuda H, Kawakami S, Yamamoto S, Yonese J, Fujii Y, Kihara K	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Diagnostic performance of initial transperineal 14-core prostate biopsy to detect significant cancer.	Int Urol Nephrol. 45:545-52, 2013.
150	13. Tatokoro M, Kihara K, Masuda H, Ito M, Yoshida S, Kijima T, Yokoyama M, Saito K, Koga F, Kawakami S, Fujii Y	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Successful reduction of hospital-acquired methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> in a urology ward: a 10-year study.	BMC Urol. 13(1):35, 2013.
151	14. Yoshida S, Kobayashi S, Koga F, Ishioka J, Ishii C, Tanaka H, Nakanishi Y, Matsuoka Y, Numao N, Saito K, Masuda H, Fujii Y, Kihara K	Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Apparent diffusion coefficient as a prognostic biomarker of upper urinary tract cancer: a preliminary report.	Eur Radiol. 23:2206-14, 2013.
152	15. Fujii Y, Yamamoto S, Yonese J, Masuda H, Urakami S, Kitakawa S, Sakura M, Yuzera T, Kihara K, Fukui I	1. Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan, 2. Department of Urology, Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan	The processus vaginalis transection method to prevent post-radical prostatectomy inguinal hernia: long-term results.	Urology. 83(1):247-52, 2014.
153	16. Nakayama T, Saito K, Ishioka J, Kawano K, Morimoto S, Matsuyoka Y, Okuno T, Moriama S, Takeshita H, Hono A, Fujii Y, Kihara K	1. Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan, 2. Department of Urology, Teishiro Kyodo General Hospital, Teishiro, Japan, 3. Department of Urology, Teishiro Kyodo General Hospital, Toride, Japan, 4. Department of Urology, Satama Red Cross Hospital, Satama, Japan	External validation of TNM-C score in three community hospital cohorts for clear cell renal cell carcinoma.	Anticancer Res. 34(2):921-6, 2014.
154	17. Yokoyama M, Fujii Y, Takeshita H, Kawamura M, Nakayama T, Imura Y, Sakura M, Ishioka J, Saito K, Koga F, Masuda H, Hono A, Arisawa C, Kitahara S, Kihara K	1. Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan, 2. Department of Urology, Satama Red Cross Hospital, Satama, Japan, 3. Department of Urology, Teishiro Kyodo General Hospital, Toride, Japan, 4. Department of Urology, Tama-Nambu Chikai Hospital, Tama, Japan	Renal function after radical nephrectomy: development and validation of predictive models in Japanese patients.	Int J Urol. 21(3):238-42, 2014.
155	18. Matsuoka Y, Numao N, Saito K, Tanaka H, Kumagai J, Yoshida S, Koga F, Masuda H, Kawakami S, Fujii Y, Kihara K	1. Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan, 2. Department of Radiology, Ochanomizu Surugadai Clinic, Tokyo, Japan, 3. Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, Japan	Combination of diffusion-weighted magnetic resonance imaging and extended prostate biopsy predicts lobes without significant cancer: application in patient selection for hemiblative focal therapy	Eur Urol. 65(1):186-92, 2014.
156	Kimura Y, Kubo S, Koda H, Shigemoto K, Sawabe M, Kitamura K	耳鼻咽喉科	RNA analysis of inner ear cells from formalin fixed paraffin embedded (FFPE) archival human temporal bone section using laser microdissection-	A technical report. Hear Res 302: 26-31, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
157	Nishio A, Noguchi Y, Sato T, Naruse T, Kimura A, Takagi A, Kitamura K	耳鼻咽喉科	A DFNB5 mutation identified in Japanese families with autosomal dominant hereditary hearing loss.	Ann Hum Genet 78: 83-91, 2014
158	Noguchi Y, Nishio A, Takase H, Miyagawa M, Takahashi H, Mochizuki M, Kitamura K	耳鼻咽喉科	Audiovestibular findings in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease	Acta Otolaryngol 134: 333-344, 2014
159	Okada R, Suzuki M, Takachi K, Horikashi H, Tsunoda A	耳鼻咽喉科	Measurement of shear wave velocities coupled with an evaluation of elasticity using ARF elastography in diagnosis of papillary thyroid carcinoma.	OJCD 3: 178-182, 2013.
160	Suzuki M, Tsunoda A, Kudo T, Okada R, Toyoda M	耳鼻咽喉科	: Successful management of hypoparathyroidism following total thyroidectomy with vitamin D3 alone.	Auris Nasus Larynx 41: 53-55, 2013.
161	Maruyama A, Tsunoda A, Takahashi M, Kishimoto S, Suzuki M	耳鼻咽喉科	Nasopharyngeal pleomorphic adenoma presenting as otitis media with effusion: Case report and literature review.	Am J Otolaryngol 35: 73-6, 2014.
162	Yanada M, Tsunoda A, Tokumaru T, Aoyagi M, Kawano Y, Yano O, Kishimoto S.	耳鼻咽喉科	Surgery for juvenile nasopharyngeal angiofibroma with lateral extension to the infratemporal fossa: Analysis of 11 cases	Auris Nasus Larynx 42, March 2014. [Epub ahead of print]
163	Kishikawa M, Tsunoda A, Tanaka Y, Kishimoto S.	耳鼻咽喉科	Large nasopharyngeal inverted papilloma presenting with rustling tinnitus	Am J Otolaryngol 36, March 2014. [Epub ahead of print]
164	Yanada M, Hishikawa K, Miyasaka N, Teshima Y, Kawano T, Ito E, Kobayashi D, Eishi Y, Okano H, Shibuya H.	放射線科	Diffusion-tensor MRI and tractography of the esophageal wall <i>ex vivo</i> .	J Magn Reson Imaging 2013, doi:10.1002/jmri.24411.
165	Uchida T, Ohno H, Azahara M, Yamada Y, Yamaguchi O, Tomita M, Makita K.	高齢者生ベインクリニック	Soluble Isoform of the Receptor for Advanced Glycation End Products as a Biomarker for Postoperative Respiratory Failure after Cardiac Surgery	Plos One 2013; 8: e70200
166	Hiraguchi T, Sakai K, Noguchi Shinohara M, Nozaki I, Takami I, Sanjo N, Sadakane A, Nakamura Y, Kitamoto T, Saito N, Mizusawa H, Yanada M.	神経内科	Insight into the frequent occurrence of dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease in Japan.	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2013; 84: 1171-1175.
167	Higuma M, Sanjo N, Satoh K, Shiga Y, Sakai K, Nozaki I, Hiraguchi T, Nakamura Y, Kitamoto T, Shirabe S, Murayama S, Yamada M, Tateishi J, Mizusawa H.	神経内科	Relationships between Clinicopathological Features and Cerebrospinal Fluid Biomarkers in Japanese Patients with Genetic Prion Diseases.	PLoS ONE 2013; 8: e60003.
168	Hori T, Sanjo N, Tomita M, Mizusawa H.	神経内科	Visual Reproduction on the Wechsler Memory Scale-Revised as a Predictor of Alzheimer's Disease in Japanese Patients with Mild Cognitive Impairments.	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders 2013; 35: 165-178.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
169	Iwasawa E, Ishizashi S, Miki K, Yuzufino Y, Neriwa S, Mizusawa H.	神経内科	Reversible cognitive impairment with bilateral lesions caused by a dural arteriovenous fistula.	Neurology. 2018; 81(6): 88-90.
170	Kobayashi Z, Arai T, Yokota O, Tsuchiya K, Hosokawa M, Oshimi K, Niizato K, Akiyama H, Mizusawa H.	神経内科	Atypical FTLD-FUS associated with ALS-TDP. A case report.	Neuropathology 2013; 33(1): 83-86.
171	Kobayashi Z, Akaza M, Numasawa Y, Ishihara S, Tomimitsu H, Nakaneichi K, Sajo M, Morio T, Shintzu N, Sano N, Shintani S, Mizusawa H.	神経内科	Failure of meloquine therapy in progressive multifocal leukoencephalopathy; Report of two Japanese patients without human immunodeficiency virus infection.	J Neurol Sci. 2013; 324: 190-194.
172	Kobayashi Z, Akaza M, Ishihara S, Tomimitsu H, Inadome Y, Arai T, Shintani S.	神経内科	Thalamic hypoperfusion in early stage of progressive supranuclear palsy (Richardson's syndrome): report of an autopsy-confirmed case.	J Neurol Sci 2013; 335: 224-227.
173	Kobayashi Z, Kawakami I, Arai T, Yokota O, Tsuchiya K, Kondo H, Shimomura Y, Hagi G, Aoki N, Hasegawa M, Hosokawa M, Oshimi K, Niizato K, Ishizu H, Terada S, Onaya M, Ikeda M, Oyama K, Nakano I, Murayama S, Akiyama H, Mizusawa H.	神経内科	Pathological features of FTLD-FUS in Japanese population: analyses of nine cases.	J Neurol Sci 2013; 335: 89-95.
174	Kuwahara H, Matsumura K, Watanabe M, Fujigasaki H.	神経内科	Intravenous t-PA for the occlusion of an accessory MCA.	Intern Med 2013; 52: 163.
175	Kuwahara H.	神経内科	Persistent hemichorea.	N Engl J Med 2013; 368: e26.
176	Kuwahara H, Suzuki S, Matsumura K, Watanabe M, Yekahiji F, Fujigasaki H.	神経内科	Ocular flutter, generalized myoclonus, and truncal ataxia in a patient with Graves' ophthalmopathy.	J Neurol 2013; 260: 2906-2907.
177	Kuwahara H, Tsuchiya K, Kobayashi Z, Inaba A, Akiyama H, Mizusawa H.	神経内科	Cryptococcal meningitis accompanying lymphocytic inflammation predominantly in cerebral deep white matter: A possible manifestation of immune reconstitution inflammatory syndrome.	Neuropathology 2014; 34: 45-48.
178	Machida A, Kuwahara H, Mayra A, Kobdera T, Hirai T, Sunaga F, Tajiri M, Hirai Y, Shimada Y, Mizusawa H, Yokota T.	神経内科	Intraperitoneal administration of AAV9-shRNA inhibits target gene expression in the dorsal root ganglia of neonatal mice.	Molecular Pain 2013; 9: 36.
179	Mitoma H, Hamri K, Mizusawa H.	神経内科	Is anti-gliadin antibody pathogenic in gluten ataxia? Analysis using rat cerebellar slices and patch-clamp recording.	Brain Disord Ther 2013; 2: 105.
180	Mizui J, Matsukawa T, Ishiura H, Fukuda Y, Ichikawa Y, Date H, Ahsan B, Nakahara Y, Morose Y, Takahashi Y, Iwata A, Goto J, Yamamoto Y, Komata M, Shirahige K, Hara K, Kakita A, Yamada M, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M, Takashima H, Kumano R, Watanabe H, Ito M, Sobue O, Sumi H, Yabe T, Sasaki H, Aoki M, Ishikawa K, Mizusawa H, Kanai K, Hattori T, Kuwabara S, Arai K, Koyano S, Kuriowa Y, Hasegawa K, Yusa T, Yasui K, Nakashima K, Ito H, Izumi Y, Kaji R, Kato T, Kususaki S, Oaki Y, Horuchi M, Kondo T, Murayama S, Hattori N, Yamamoto M, Murata M, Satoh W, Toda T, Durr A, Brice A, Filla A, Klöckner T, Wiltner U, Nicholson G, Gilman S, Shults CW, Tanner GM, Kukull WA, Lee VM, Masliah E, Low PA, Sandroni P, Trojanowski JQ, Ozols L, Foroud T, Tsuji S.	神経内科	Multiple-System Atrophy Research Collaboration. Mutations in COQ2 in familial and sporadic multiple-system atrophy.	N Engl J of Med 2013; 369: 233-244.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
181	Narai K, Niwa IJ, Mitoma II, Takai A, Ikeda J, Harada T, Okita M, Takaguchi M, Taguchi T, Mizusawa H.	神経内科	Low-Titer Anti-GAD-Antibody-Positive Cerebellar Ataxia.	The Cerebellum 2013; 12(2): 171-175.
182	Niimi Y, Takahashi M, Sugawara E, Umeda S, Obayashi M, Sato N, Ishiguro T, Higashi M, Eishi Y, Mizusawa H, Ishikawa K.	神経内科	Abnormal RNA structures (RNA foci) containing a penta-nucleotide repeat (UGCAA)n in the Purkinje cell nucleus is associated with spinocerebellar ataxia type 31 pathogenesis.	Neuropathology 2013; 33: 600-611.
183	Nomoto N, Orimo S, Uchiyama T, Takahashi K, Fujioka T.	神経内科	Lewy pathology in an autopsy case of FTLD-MND with reduced cardiac MBG uptake and depletion of cardiac sympathetic fibers.	Parkinsonism Relat Disord 2013; 19: 472-473.
184	Ohta A, Nagai M, Nishina M, Tomimatsu H, Kohsaka H.	神経内科	Age at onset and gender distribution of systemic lupus erythematosus, polymyositis/dermatomyositis, and systemic sclerosis in Japan.	Mod Rheumatol. 2013; 23(4): 759-764.
185	Ohyaï M, Tao O, Mizutani T, Takahashi M, Mizusawa H.	神経内科	Progression of bilateral internal carotid artery dissection during antiplatelet therapy.	Intern Med. 2013; 52: 2821-2823.
186	Sano K, Satoh K, Abarashi R, Takashima H, Iwasaki Y, Yoshida M, Sanjo N, Murai H, Mizusawa H, Schmitz M, Zerr I, Kim YS, Nishida N.	神経内科	Early Detection of Abnormal Prion Protein in Genetic Human Prion Diseases Now Possible Using Real-Time QUIC Assay.	PLoS One. 2013; 8: e54915.
187	Saito K, Shimizu F, Koga M, Sano Y, Tasaki A, Abe M, Haruki H, Maeda T, Suzuki S, Kusunoki S, Mizusawa H, Kanda T.	神経内科	Blood-brain barrier destruction determines Fisher/Bickerstaff clinical phenotypes: an in vitro study.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2013; 84: 756-765.
188	Shintani S.	神経内科	Efficacy and ethics of artificial nutrition in patients with Neurologic impairments in home care.	Journal of Clinical Neuroscience 2013; 20: 220-223.
189	Seliguchi T, Kanouchi T, Shibuya K, Noto YI, Yagi Y, Inaba A, Abe K, Misawa S, Orimo S, Kobayashi T, Kamata T, Nakagawa M, Kuwabara S, Mizusawa H, Yokota T.	神経内科	Spreading of amyotrophic lateral sclerosis lesions-multi-focal hits and local propagation?	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2014; 85(1): 85-91.
190	Takahashi M, Obayashi M, Ishiguro Y, Sato N, Niimi Y, Ozaki K, Mogashi K, Mahmut Y, Tanaka H, Tsuruta F, Dolmetosh R, Yamada M, Takahashi H, Kato T, Mori O, Eishi Y, Mizusawa H, Ishikawa K.	神経内科	Dytoplasmic location of α 1A voltage-gated calcium channel C-terminal fragment (Cav2.1-CTF) aggregate is sufficient to cause cell death.	PLoS ONE 2013; 8: e50121.
191	Toru S, Murata T, Ohara M, Ishiguro T, Kobayashi T.	神経内科	Paradoxical cerebral embolism with patent foramen ovale and deep venous thrombosis caused by a massive myoma uteri.	Clin Neurol Neurosurg 2013; 115: 760-761.
192	Yagi Y, Sanjo N, Yokota T, Mizusawa H.	神経内科	Tacrolimus monotherapy, a promising option for ocular myasthenia gravis.	European Neurology 2012; 69: 344-345.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
193	Yagi Y, Watanabe Y, Yokota H, Amino T, Kamata T.	神経内科	Lacunar thalamic infarction with isolated dysesthesia in contralateral fingers.	Acta Neurol Belg. 2013; 113: 199-200.
194	Yokota H, Yagi Y, Watanabe Y, Amino T, Kamata T, Mizusawa H.	神経内科	Serum amyloid A level is increased in neuromyelitis optica and atypical multiple sclerosis with smaller T2 lesion volume in brain MRI.	J Neuroimmunol 2013; 259: 92-95.
195	Yoshioka K, Ishibashi S, Shiraiishi A, Yokota T, Mizusawa H.	神経内科	Distal hyperintense vessels on FLAIR images predict large-artery stenosis in patients with transient ischemic attack.	Neuroradiology 2013; 55: 165-169.
196	Sakai K, Hamaguchi T, Noguchi-Shinohara M, Nozaki I, Takumi I, Sanjo N, Nakamura Y, Kitamoto T, Saito N, Mizusawa H, Yameda M.	神経内科	Graft-related disease progression in dura mater graft-associated Creutzfeldt-Jakob disease: a cross-sectional study.	BMJ Open 2013; 3(6): e0034000.
197	Wenyang Piao, Nishina K, Yoshida-Tanaka K, Kuwahara H, Nishina T, Sakata M, Mizusawa H and Yokota T.	神経内科	Efficient in vivo delivery of antisense oligonucleotide to choroid plexus.	J Med Dent Sci 2013; 60: 9-16.
198	Sakiguchi T, Nishida Y, Inaba A, Toyota S.	神経内科	Mesothelioma-mimicking multiple myeloma with dumbbell-type progression.	Intern Med. 2013; 52: 1287-1288.
199	Sagara AP, Ball FD, Srivastava A, Sangillo JD, Singh L, Nishida Y, Chow H, Zlokovic BV.	神経内科	A lipoprotein receptor cluster IV mutant preferentially binds amyloid- β and regulates its clearance from the mouse brain.	J Biol Chem. 2013; 288: 15154-15166.
200	Yamashita C, Toriyama H, Funayama M, Iramizu S, Ando M, Li Y, Yoshino H, Araki T, Ichikawa T, Ehara Y, Ishikawa K, Mizusawa H, Hattori N.	神経内科	The evaluation of polyglutamine repeats in autosomal dominant Parkinson's disease.	Neurobiol Aging. 2014 Jul;35(7):1779.e17-21. doi: 10.1016/j.neurobiolaging.2014.01.022. Epub 2014 Jan 23.
201	Mizoguchi F, Takada K, Ishikawa K, Mizusawa H, Kohsaka H, Miyazaki N.	神経内科	A case of dermatomyositis with rhabdomyolysis, rescued by intravenous immunoglobulin.	Mod Rheumatol. 2013 Nov 5. [Epub ahead of print]
202	Fujizawa T, Hagoaka E, Watanabe T, Miyagi N, Kitao T, Sakata D, Mamiya T, Shinshi T, Arai H, Takatani S.	Departments of Cardiovascular Surgery and Artificial Organs, Tokyo Medical and Dental University Precision and Intelligence Laboratory, Tokyo Institute of Technology	New Generation Extracorporeal Membrane Oxygenation With MedTech Mag-Lev, a Single-Use, Magnetically Levitated, Centrifugal Blood Pump: Preclinical Evaluation in Calves.	Artif Organs. 2013 May; 37(5): 447-58.
203	Tanaka K, Mori H, Okazaki M, Nishizawa A, Yokozaki H	形成・再建外科学(形成・美容外科)、皮膚科	Long-term treatment outcome after only popliteal lymph node dissection for nodal metastasis in malignant melanoma of the heel; the only "interval node" dissection can be an adequate surgical treatment.	Case Reports in Oncological Medicine 2013; 259326, 2013
204	Rodotseou P, Wang W, Itoh S, Okazaki M, Takahada K	形成・再建外科学(形成・美容外科)、医歯工学連携応用化施設	Laser-perforated porous nonwoven chitosan nerve conduit.	Journal of Biomechanical Science Engineering 8: 139-151, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
205	Yano T, Okazaki M, Kawaguchi R, Suezade N, Tanaka K, Kishimoto S	形成・再建外科(形成・美容外科)、頭頸部外科	Tongue reconstruction with minimal donor site morbidity using a deep inferior epigastric perforator (DEP) free flap in a 6-year-old girl.	Microsurgery 33:487-90, 2013
206	Igari K, Kudo T, Toyofuku T, Jibiki M, Inoue Y, Tanaka K, Okazaki M	形成・再建外科(形成・美容外科)、血管外科	Combined arterial reconstruction and free tissue transfer for patients with critical limb ischemia.	Ann Vasc Dis. 6:709-10, 2013
207	Ishiwata Y, Takahashi Y, Nagata M, Yasuhara M	薬劑部	Effects of moxifloxacin on serum glucose concentrations in rats	Biol. Pharm. Bull., 36, 686-690 (2013).
208	Isobe K, Mori T, Asano T, Kawaguchi H, Nonoyama S, Kumagai H, Kanada F, Morimoto T, Hayashi M, Sahara E, Rai T, Sasaki S, Uchida S.	血液浄化療法部	Development of enzyme-linked immunosorbent assays for urinary thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter (NCC) measurement.	Am J Physiol Renal Physiol. 306: F1374-81, 2013.
209	Ohiubo A, Kurashina H, Nakamura A, Miyamoto S, Emori S, Rai T.	血液浄化療法部	Solute Removal Capacity of High Cut-Off Membrane Plasma Separators.	Ther Apher Dial. 17: 484-9, 2013.
210	Piao J, Tsuji K, Ochi H, Iwata M, Koga D, Okawa A, Morita S, Takeda S, Asou Y.	リハビリテーション医学、整形外科	Sirt6 regulates postnatal growth plate differentiation and proliferation via Ihh signaling.	Sci Rep, Oct 23:3:3022, 2013.
211	Aizawa J, Masuda T, Hyodo K, Jinno T, Yegishita K, Nakamaru K, Koyama T, Morita S.	リハビリテーション医学、整形外科、アスレチックリハビリテーション	Ranges of active joint motion for the shoulder, elbow, and wrist in healthy adults.	Disabil Rehabil. 2013 Aug; 35(16):1342-9.
212	Inoue K, Uematsu M, Maruoka H, Iara K, Kanemura N, Masuda T, Morita S.	リハビリテーション医学	Influence of Lower Limb Muscle Fatigue on Balance Function.	Journal of Physical Therapy Science Vol.25 No.3 331-335, 2013.
213	Enomoto M, Bunge MB, Tsoufas P.	高気圧治療部	A multifunctional neurotrophin with reduced affinity to p75NTR enhances transplanted Schwann cell survival and axon growth after spinal cord injury.	Exp Neurol. 2013, 248:170-182
214	Horie M, Enomoto M, Shimoda M, Okawa A, Miyakawa S, Yegishita K.	高気圧治療部	Enhancement of satellite cell differentiation and functional recovery in injured skeletal muscle by hyperbaric oxygen treatment.	J Appl Physiol. 2014, 115(116):149-55.
215	Aizawa J, Masuda T, Hyodo K, Jinno T, Yegishita K, Nakamaru K, Koyama T, Morita S.	スポーツ医学診療センター	Ranges of active joint motion for the shoulder, elbow, and wrist in healthy adults.	Disability & Rehabilitation 2013, 35(16):1342-1349
216	S. Nagasawa M, Ohkawa T, Endo A, Mitsuaki N, Ono T, Aoki Y, Isoda T, Tomizawa D, Takagi M, Kajiwara M, Morio T, Mizutani S.	小児科輸血部	Early coagulation disorder after allogeneic stem cell transplantation is a strong prognostic factor for transplantation-related mortality, and intervention with recombinant human thrombomodulin improves the outcome: a single-center experience.	Int J Hematol 98:533-542, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
217	2. Isoda T, Mizuki N, Ohkawa T, Kaneko S, Endo A, Ono T, Aoki Y, Tomizawa D, Kajiwara M, Arai S, Nagasawa M, Morio T, Takagi M, Mizutani S.	小児科輸血部	Irreversible leukoencephalopathy after reduced-intensity, stem cell transplantation in a dyskeratosis congenita patient with TINF2 mutation.	J Pediatr Hematol Oncol 35:178-182, 2013.
218	Kato M, Koh H, Macabe A, Saito M, Hasegawa D, Itoyama K, Kinoshita A, Maeda M, Ohimoto Y, Kajiwara M, Kaneko T, Sugita Y, Kikuchi A, Tsuchida M, Ohara A	輸血部	No Impact of high-dose cytarabine and asparaginase as early intensification with intermediate-risk paediatric acute lymphoblastic leukemia: results of randomized trial TCCSG study L99-15.	Br J Haematol 166:378-373, 2014.
219	Kiyohara N, Ejima K, Tomita O, Mihar M, Hasegawa D, Kobayashi K, Okita H, Kajiwara M, Shimada H, Inukai T, Makimoto A, Fukushima T, Nanmoku T, Koh K, Manabe A, Kikuchi A, Sugita K, Fujimoto J, Hayashi Y, Ohara A	輸血部	Significance of CD88c expression in childhood acute lymphoblastic leukemia.	Leuk Res 38:42-48, 2014.
220	9. Asahina A, Miura K, Saito I, Oshikata C, Ishii N, Eishi Y.	病理部	Cutaneous sarcoidosis with livedoid lesions; evidence of the involvement of Propionibacterium acnes.	J Dermatol. 40(8):501-2,2013
221	10. Ueno H, Shirouzu K, Shimazaki H, Kawachi H, Eishi Y, Ajioka Y, Okuno K, Yamada K, Sato T, Kusumi T, Kushima R, Ikegami M, Kojima M, Ochiai A, Murata A, Akagi Y, Nakamura T, Sugihara K	病理部	: Study Group for Perineural Invasion projected by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR). Histogenesis and prognostic value of myenteric spread in colorectal cancer: a Japanese multi-institutional study.	J Gastroenterol. 2013 May 18. [Epub ahead of print]
222	11. Ueno H, Shirouzu K, Eishi Y, Yamada K, Kusumi T, Kushima R, Ikegami M, Murata A, Okuno K, Sato T, Ajioka Y, Ochiai A, Shimazaki H, Nakamura T, Kawachi H, Kojima M, Akagi Y, Sugihara K	病理部	: Study Group for Perineural Invasion projected by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR). Characterization of perineural invasion as a component of colorectal cancer staging.	Am J Surg Pathol. 37(10):1542-9,2013
223	13. Satoh F, Morita H, Tayama H, Inoue Y, Eishi Y, Yoshimura A.	病理部	Renal Sarcoidosis With Limited Lung Manifestations Expressing Propionibacterium acnes Antigens in the Affected Tubulointerstitium.	Am J Med Sci. 346(3):250-2,2013
224	17. Fukumachi H, Seol HS, Shimada S, Furusawa C, Baba K, Kim JH, Park YS, Kim MJ, Kato K, Inokuchi M, Kawachi H, Yook JH, Eishi Y, Kojima K, Kim WH, Jang SJ, Yuasa Y.	病理部	CD49(+) cells retain sphere-forming and tumor-initiating activities in human gastric tumors.	PLoS One. 8(8):e72438,2013
225	18. Okada E, Arai A, Suzuki S, Watanabe H, Ikeda T, Watanabe T, Kurata M, Eishi Y, Watanabe M.	病理部	Histological diagnosis of follicular lymphoma by biopsy of small intestinal normal mucosa.	Dig Endosc. 25(5):544-6,2013
226	22. Li H, Abe S, Kurata M, Abe-Suzuki S, Onishi I, Kirimura S, Murayama T, Hidaka M, Kawano F, Kitagawa M.	病理部	Over-Expression of Cancerous Inhibitor of PP2A (CIP2A) in Bone Marrow Cells from Patients with a Group of High-Risk Myelodysplastic Syndromes.	Pathol Oncol Res. 2013 Oct 28.
227	24. Miwa Y, Tomohito H, Suzuki S, Abe S, Onishi I, Kirimura S, Kitagawa M, Kurata M	病理部	Up-regulated expression of CXCL12 in spleen with extramedullary hematopoiesis.	Pathology. 45(4): 408-416,2013
228	Hnin Si MK, Mzaka O, Tulefu S, Abe S, Kitagawa M, Ikeda S, Eishi Y, Kurata S, Tomita M.	集中治療部	Inhibition of poly (adenosine diphosphate-ribose) polymerase attenuates lung-kidney cross-talk induced by intratracheal lipopolysaccharide instillation in rats.	Respir Res 2013;14:128

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
229	Tulafa M, Mitake O, Hsin Si-MH, Aho S, Kitagawa M, Doda S, Eishi Y, Kurata S, Tomita M.	集中治療部	Atrial natriuretic peptide attenuates kidney-lung crosstalk in kidney injury.	J Surg Res 2014;166:217-225
230	Susumu Hosokawa, Go Haraguchi, Akhito Sasaki, Hirokuni Arai, Susumu Muto, Akiko Irai, Shozaburo Doi, Shuki Mizutani, and Mitsunori Inoue.	集中治療部	Pathophysiological roles of nuclear factor kappaB (NF- κ B) in pulmonary arterial hypertension: effects of synthetic selective NF- κ B inhibitor BMD-0354.	Cardiovascular Research 2013; 89: 35-43
231	Shinogaki S, Ito S, Komatsu S, Koike R, Miyasaka N, Umezawa K, Kubota T	臨床試験管理センター	Inhibition of the NF- κ B pathway as a candidate therapeutic strategy for cryopyrin-associated periodic syndrome.	Mod Rheumatol. DOI 10.3109/14397595.2013.844298. 2013.
232	Nakagawa K, Gonzalez-Roca E, Souto A, Kawai T, Uneyayashi H, Campistol JM, Canellas J, Takei S, Kobayashi N, Callejas-Rubio JL, Ortega-Centano N, Ruiz-Ortiz E, Rius F, Anton J, Iglesias E, Jimenez-Trevino S, Vargas G, Fernandez-Martin J, Calvo I, Hernandez-Rodriguez J, Mendez M, Dordal MT, Basagana M, Bujan S, Yashiro M, Kubota T, Koike R, Akita N, Shimoyama K, Iwata N, Saito MK, Ohara O, Kamba N, Yasumi T, Izawa K, Kawai T, Heike T, Yagui J, Nishikomori R, Arostegui JI	臨床試験管理センター	Somatic NLRP3 mosaicism in Muckle-Wells syndrome. A genetic mechanism shared by different phenotypes of cryopyrin-associated periodic syndromes.	Ann Rheum Dis. Doi: 10.1136/annrheumdis-2013-204361. 2013.
233	Cho S-K, Sakai R, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Tanaka Y, Nakajima A, Yasuda S, Iwata A, Ezawa K, Won S, Choi C-B, Sung Y-K, Kim T-H, Jun J-B, Yoo D-H, Miyasaka N, Bae S-G, Harigai M for the RESEARCH investigators	臨床試験管理センター	A comparison of incidence and risk factors for serious adverse events in rheumatoid arthritis patients with etanercept or adalimumab in Korea and Japan.	Mod Rheumatol. DOI 10.3109/14397595.2013.860695. 2013.
234	Fukuda S, Nanki T, Morio T, Hasegawa H, Koike R, Miyasaka N	臨床試験管理センター	Recurrent mitral valve regurgitation with neutrophil infiltration in a patient with multiple aseptic abscesses.	Mod Rheumatol. DOI 10.3109/14397595.2013.852853. 2014
235	Watanabe K, Sakai R, Koike R, Sakai F, Sugiyama H, Tanaka M, Komajo Y, Akoyama Y, Minura T, Kaneko M, Tokuda H, Ito T, Motegi M, Ikeda K, Nakajima H, Taki H, Kubota T, Kodama H, Sugi S, Kuroiwa T, Nawata Y, Shiozawa K, Ogata A, Sawada S, Matsuoka Y, Okazaki T, Mukai M, Iwahashi M, Saito K, Tanaka Y, Nanki T, Miyasaka N, Harigai M.	臨床試験管理センター	Clinical characteristics and risk factors for Pneumocystis jirovecii pneumonia in patients with rheumatoid arthritis receiving adalimumab: a retrospective review and case-control study of 17 patients.	Mod Rheumatol. 2013; 23:1085-93
236	Saito R, Takahashi R, Sawabe E, Koyano S, Takahashi Y, Shima M, Ushizawa M, Fujie T, Tosaka N, Kato Y, Moriya K, Tahda S, Tojo N, Koike R, Kubota T	臨床試験管理センター	First report of KPC-2 carbapenemase-producing Klebsiella pneumoniae in Japan.	Antimicrob Agents Chemother 2014; 58: 2861-3
237	Yoshiharu RYU, Katsuya YOSHIDA, Yoshihumi SUZUKI, Masashi NAKADATE, Iseo UMEHARA, Makoto TOMITA, Hitoshi SHIBUYA	臨床試験管理センター	Long-term changes of aortic 18F-FDG uptake and calcification in health-screening subjects	Annals of Nuclear Medicine, 27(3), 239-246, (2013, 4)
238	Takase OKAMOTO, Yezunari MIYAZAKI, Makoto TOMITA, Majo TAMAOKA, Naohiko INASE	臨床試験管理センター	A familial history of pulmonary fibrosis in patients with chronic hypersensitivity pneumonitis	Respiration, 85(5), 384-390, (2013, 4)
239	Yasunari Miyazaki, Koji Unoura, Tomoya Tateishi, Takumi Akashi, Tamiko Takemura, Makoto TOMITA, Naohiko Inase and Yasuyuki Yoshizawa	臨床試験管理センター	Higher serum CCL17 may be a promising predictor of acute exacerbations in chronic hypersensitivity pneumonitis	Respiratory Research, 14(1), 57, (2013, 5)
240	Shuhei FUJITA, Makoto TOMITA, Sunghe MOON and Hirokuni ARAI	臨床試験管理センター	Proposal for a Concise Method to Explore Reasonable Cutoffs from Clinical Databases by Exploiting Serial Testing	Journal of the Korean Data Analysis Society, 15(3), 1139Ó1149, (2013, 8)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
241	Yuko IWASAKI, Narumichi YAMAMOTO, Tetsushi KAWAGUCHI, Noriko OZAKI, Makoto TOMITA, Atsushi AJISAWA, Manabu MOCHIZUKI and Kimio MURAKAMI	臨床試験管理センター	Human immunodeficiency virus-related retinal microangiopathy and systemic cytomegalovirus disease association	Japanese Journal of Ophthalmology, 57(4), 372-378, (2013, 7)
242	Tokujiro UCHIDA, Negara OHNO, Miho ASAHARA, Yoshitsugu YAMADA, Osamu YAMAGUCHI, Makoto TOMITA and Koshi MAKITA	臨床試験管理センター	Soluble isoform of the receptor for advanced glycation end products as a biomarker for postoperative respiratory failure after cardiac surgery	PLoS ONE, 8(7), e70200, (2013, 7)
243	Shuhei FUJITA, Hirokuni ARAI, Makoto TOMITA, Tetsuhiro MIZUNO, Satomi KAWAGUCHI, Susumu MANABE, Tetsuyoshi HACHIMARU and Naoto MIYAGI	臨床試験管理センター	Proposal of a novel index for selection of optimal annuloplasty ring size for tricuspid annuloplasty	Circulation Journal, 77(10), 2505–2513, (2013, 9)
244	May K Hnin SI, Chioko MITAKA, Mitsuhiro TULAFU, Shinya ABE, Masanobu KITAGAWA, Satoshi IKEDA, Yoshinobu EISHI, Shunichi KURATA and Makoto TOMITA	臨床試験管理センター	Inhibition of poly (adenosine diphosphate-ribose) polymerase attenuates lung-kidney crosstalk induced by intratracheal lipopolysaccharide instillation in rats	Respiratory Research, 14(1), 126, (2013, 11)
245	Mitsuhiro TULAFU, Chioko MITAKA, May K Hnin SI, Shinya ABE, Masanobu KITAGAWA, Satoshi IKEDA, Yoshinobu EISHI, Shunichi KURATA and Makoto TOMITA	臨床試験管理センター	Atrial natriuretic peptide attenuates kidney-lung crosstalk in kidney injury	Journal of Surgical Research, 186(1), 217–225, (2013, 12)
246	Tokujiro Uchida, Hirotsuki Ito, Hiroto Yamamoto, Negara Ohno, Miho Asahara, Yoshitsugu Yamada, Osamu Yamaguchi, Makoto TOMITA and Koshi Makita	臨床試験管理センター	Elevated levels of angiotensin-2 as a biomarker for respiratory failure after cardiac surgery	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia, accepted at Mar 12, 2014
247	Sugita S, Ogawa M, Shimizu N, Morio T, Ohguro N, Nakai K, Maniyama K, Nagata K, Takeda A, Usui Y, Sonoda K, Takeuchi M, Mochizuki M.	細胞治療センター	Use of a comprehensive polymerase chain reaction system for diagnosis of ocular infectious diseases.	Ophthalmology, 120:1761-8, 2013.
248	Wada T, Muraoka M, Toma T, Inai T, Shigenaga T, Agetatsu K, Haraguchi K, Moriuchi H, Oh-hashi T, Kitoh T, Ohara O, Morio T, Yachie A.	細胞治療センター	Rapid Detection of Intracellular p47phox and p87phox by Flow Cytometry: Useful Screening Tests for Chronic Granulomatous Disease.	J Clin Immunol, 33:857-864, 2013.
249	Kanae C, Nakagawa N, Sato H, Honma K, Mitsuiki M, Ohara O, Kanegane H, Pasic S, Pan-Hammerstrom O, van Zelm MC, Morio T, Inai K, Nonoyama S.	細胞治療センター	Classification of common variable immunodeficiency by quantification of T cell receptor and Ig kappa-deleting recombination excision circles.	J Allerg Clin Immunol, 131:1437-1440, 2013.
250	Matsukura Y, Muneta T, Tsuji K, Koga H, Sekiya I	再生医療研究センター 細胞治療センター	Mesenchymal stem cells in synovial fluid increase after meniscus injury.	Clin Orthop Relat Res, 2014 Mar;472(3):1049.
251	Hataushika D, Muneta T, Horie M, Koga H, Tsuji K, Sekiya I	再生医療研究センター 細胞治療センター	Intraarticular injection of synovial stem cells promotes meniscal regeneration in a rabbit massive meniscal defect model.	J Orthop Res, 2013 Sep;31(9):1354-9.
252	Atsok K, Dorai MN, Bilge O, Sekiya I	再生医療研究センター 細胞治療センター	Synovial stem cells in musculoskeletal regeneration.	J Am Acad Orthop Surg, 2013 Apr;21(4):258-9.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
253	Kato M, Koh H, Manabe A, Saito M, Hasegawa D, Itoyama K, Kinoshita A, Maeda M, Okimoto Y, Kajiwara M, Kaneko T, Sugita K, Kikuchi A, Tsuchida M, Ohara A	輸血部 細胞治療センター	No Impact of high-dose cytarabine and asparaginase as early intensification with intermediate-risk paediatric acute lymphoblastic leukemia: results of randomized trial TCCSG study L99-15.	Br J Haematol 164:376-373, 2014.
254	Kiyokawa N, Iijima K, Tomita O, Miharu M, Hasegawa D, Kobayashi K, Okita H, Kajiwara M, Shimada H, Irukai T, Makimoto A, Fukushima T, Narmoku T, Koh K, Manabe A, Kikuchi A, Sugita K, Fujimoto J, Hayashi Y, Ohara A	輸血部 細胞治療センター	Significance of CD66c expression in childhood acute lymphoblastic leukemia.	Leuk Res 38:42-48, 2014.
255	Fujiwara S, Kimura H, Inadome KI, Arai A, Kodama E, Morio T, Shimizu M, Wakiguchi H	細胞治療センター	Current Studies on Chronic Active Epstein-Barr virus Infection in Japan	Pediatr Int. 2014 Feb 16.[Epub ahead of print]
256	Tachikawa R, Tomii K, Seo R, Nagata K, Otsuka K, Nakagawa A, Otsuka K, Hashimoto H, Watanabe K, Shimizu N.	細胞治療センター	Detection of Herpes Viruses by Multiplex and Real-Time Polymerase Chain Reaction in Bronchoalveolar Lavage Fluid of Patients with Acute Lung Injury or Acute Respiratory Distress Syndrome.	Respiration, 2014;87(4):279-86.
257	Ito S, Higuchi Y, Yagi Y, Nishijima F, Yamato H, Ishii H, Osaka M, Yoshida M.	生命倫理研究センター	Reduction of indoxyl sulfate by AST-120 attenuates monocyte inflammation related to chronic kidney disease.	J Leukoc Biol. 93(8):837-45, 2013
258	Matsue Y, Suzuki M, Nagahori W, Ohno M, Matsumura A, Hashimoto Y.	生命倫理研究センター	Beta-blocker prevent sudden cardiac death in patients with hemodialysis.	Int J Cardiol 2013; 165: 519-522.
259	Matsue Y, Suzuki M, Nagahori W, Ohno M, Matsumura A, Hashimoto A, Yoshida K, Yoshida M.	生命倫理研究センター	Endothelial dysfunction measured by peripheral arterial tonometry predicts prognosis in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Int J Cardiol 2013; 168: 36-40.
260	Matsue Y, Yoshida K, Nagahori W, Ohno M, Suzuki M, Matsumura A, Hashimoto Y, Yoshida M	生命倫理研究センター	Peripheral microvascular dysfunction predicts residual risk in coronary artery disease patients on statin therapy	Atherosclerosis 232: 188-190, 2014
261	K Komazaki Y, Sakashita H, Furuta M, Fujio T, Tamaoka M, Sumi Y, Miyazaki Y, Kojima K, Jin Y, Inase H	呼吸器内科	Feasibility study of adjuvant chemotherapy of S-1 and carboplatin for completely resected non-small cell lung cancer.	Chemotherapy 59: 35-41, 2013.
262	K Komazaki Y, Miyazaki Y, Fujio T, Sakashita H, Tsuchiya K, Tamaoka M, Sumi Y, Manayama Y, Nanki T, Inase H	呼吸器内科	Serodiagnosis of Mycobacterium avium complex pulmonary disease in rheumatoid arthritis.	Respiration DOI 10.1159/000354701, 2013.
263	Itoh M, Kata H, Suganami T, Konuma K, Marumoto Y, Terai S, Sakugawa H, Kanai S, Hamaguchi M, Fukuiishi T, Aoe S, Akiyoshi K, Konohara Y, Takeya M, Sakaida L, Ogawa Y.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Hepatic crown-like structure: a unique histological feature in non-alcoholic steatohepatitis in mice and humans.	PLoS One, 2013;8(12):e82163.
264	Takahashi M, Kamei Y, Ehara T, Yuan X, Suganami T, Takai-Igarashi T, Hatada L, Ogawa Y.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Analysis of DNA methylation change induced by Dnm3b in mouse hepatocytes.	Biochem Biophys Res Commun, 2013;434(4):873-8.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
265	Takizawa F, Mizutani S, Ogawa Y, Sawada H.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Glucose-independent persistence of PAI-1 gene expression and H3K4 tri-methylation in type 1 diabetic mouse endothelium: implication in metabolic memory.	Biochem Biophys Res Commun. 2013;433(1):66-72.
266	Inasaki Y, Suganami T, Hachiya R, Shirakawa I, Kim-Sajo M, Tanaka M, Hamaguchi M, Takai-Igarashi T, Nakai M, Miyamoto Y, Ogawa Y.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Activating transcription factor 4 links metabolic stress to interleukin-6 expression in macrophages.	Diabetes. 2014;63(1):152-61.
267	1. Kurosu T, Nagao T, Wu H, Oshikawa G, Miura O	血液内科	: Inhibition of the PI3K/Akt/GSK3 pathway downstream of BCR/ABL, Jak2-V617F, or FLT3-ITD downregulates DNA damage-induced G1k1 activation as well as G2/M arrest and prominently enhances induction of apoptosis.	PLoS One 8(11):e78478, 2013.
268	2. Nakama Y, Watanabe K, Koyama T, Miura O, Fukuda T	血液内科	: CD137 is induced by the CD40 signal on chronic lymphocytic leukemia B cells and transduces the survival signal via NF- κ B activation.	PLoS One 8(5):e64425, 2013.
269	3. Ichikawa A, Arakawa F, Kiyasu J, Sato K, Miyoshi H, Niino D, Kimura Y, Takeuchi M, Yoshida M, Ishibashi Y, Nakashima S, Sugita Y, Miura O, Ohshima K.	血液内科	: Methotrexate/iatrogenic lymphoproliferative disorders in rheumatoid arthritis: histology, Epstein-Barr virus, and clonality are important predictors of disease progression and regression.	European J of Haematol 91(1):20-8, 2013
270	4. Nagao T, Kurosu T, Umezawa Y, Nogami A, Oshikawa G, Theide S, Yamamoto M, Miura O	血液内科	: Proliferation and survival signaling from both Jak2-V617F and Lyn involving GSK3 and mTOR/p70S6K/4EBP1 in PVTL-1 cell line newly established from acute myeloid leukemia transformed from polycythemia vera.	PLoS One 9(1):e84746, 2014.
271	Hachiya H, Yamauchi Y, Iesaka Y, Yagishita A, Sasaki T, Higuchi K, Kawabata M, Sugiyama K, Tanaka Y, Kusa S, Nakamura H, Miyazaki S, Taniguchi H, Isobe M, Hiroo K	循環器内科	: Discrete prepotential as an indicator of successful ablation in patients with coronary cusp ventricular arrhythmia.	Circ Arrhythm Electrophysiol 6(5): 888-894, 2013
272	Hayashi T, Naito S, Kumagai K, Ohshima S, Hachiya H, Hiroo K, Isobe M	循環器内科	: Ventricular tachycardia associated with a giant right atrial diverticulum.	J Am Coll Cardiol 62: 2341, 2013
273	Hayashi T, Kumagai K, Naito S, Goto K, Kaseno K, Ohshima S, Hachiya H, Hiroo K, Isobe M	循環器内科	: Preprocedural therapeutic international normalized ratio influence on bleeding complications in atrial fibrillation ablation with continued anticoagulation with warfarin.	Circ J 77(2): 338-344, 2013
274	Hikita H, Shigeta T, Kojima K, Otsuka Y, Hishikari K, Kawaguchi N, Nakashima E, Sugiyama T, Akiyama D, Kamishii T, Kimura S, Takahashi Y, Kuwahara T, Sato A, Takahashi A, Isobe M	循環器内科	: Lipoprotein(a) is an important factor to determine coronary artery plaque morphology in patients with acute myocardial infarction.	Coron Artery Dis 24(5): 381-385, 2013
275	Hikita H, Kuroda S, Otsuka Y, Kawaguchi N, Nakashima E, Sugiyama T, Akiyama D, Kamishii T, Kimura S, Takahashi Y, Kuwahara T, Sato A, Takahashi A, Isobe M	循環器内科	: Impact of statin use before the onset of acute myocardial infarction on coronary plaque morphology of the culprit lesion.	Angiology 64(5): 375-378, 2013
276	Dara K, Hita J, Hiroo K, Isobe M	循環器内科	: Atrial tachycardia originating from the hepatic segment of inferior vena cava in interruption of inferior vena cava withazygos continuation.	J Interv Card Electrophysiol 36: 261-266, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
277	Ishihara T, Haraguchi Q, Tezuka D, Kamiishi T, Inagaki H, Isobe M	循環器内科	Diagnosis and assessment of Takayasu arteritis by multiple biomarkers.	Circ J 77(2): 477-483, 2013
278	Kawabata M, Yokoyama Y, Sasano T, Hachiya H, Tanaka Y, Yegishita A, Sugiyama K, Nakamura T, Suzuki M, Isobe M, Hirao K	循環器内科	Bleeding events and activated partial thromboplastin time with dabigatran in clinical practice.	J Cardiol 62(2): 121-128, 2013
279	Kawata H, Morita H, Yamada Y, Noda T, Satomi K, Aiba T, Isobe M, Nagase S, Nakamura K, Kusano KF, Ito H, Kamakura S, Shimizu W	循環器内科	Prognostic significance of early repolarization in inferolateral leads in Brugada patients with documented ventricular fibrillation: A novel risk factor for Brugada syndrome with ventricular fibrillation.	Heart Rhythm 10(6): 1161-1165, 2013
280	Kimura S, Inagaki H, Haraguchi Q, Sugiyama T, Miyazaki T, Hatano Y, Yoshikawa S, Ashikaga T, Isobe M	循環器内科	Relationships of elevated systemic pentraxin-3 levels with high-risk coronary plaque components and impaired myocardial perfusion after percutaneous coronary intervention in patients with ST-elevation acute myocardial infarction.	Circ J 78(1): 159-169, 2013
281	Masuda S, Yamauchi Y, Tera S, Okada H, Obeyeshe T, Hirao K	循環器内科	Small reentrant atrial tachycardia adjacent to left aortic sinus of valsalva.	Circ J 77(12): 3054-3055, 2013
282	Miyazaki S, Kobori A, Hociini M, Shar AJ, Taniguchi H, Kusa S, Uchiyama T, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Hasegawa M, Takahashi A, Iseaka Y	循環器内科	Clinical Utility of Adenosine-Infusion test at Repeat Atrial Fibrillation Ablation procedure.	Heart Rhythm 10(5): 629-635, 2013
283	Miyazaki S, Uchiyama T, Komatsu Y, Taniguchi H, Kusa S, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Iseaka Y	循環器内科	Long-term Complications of Implantable Defibrillator Therapy in Brugada Syndrome.	Am J Cardiol 111(10): 1448-1451, 2013
284	Miyazaki S, Taniguchi H, Komatsu Y, Uchiyama T, Kusa S, Nakamura H, Hachiya H, Isobe M, Hirao K, Iseaka Y	循環器内科	Sequential bilateral linear ablation approach for persistent atrial fibrillation.	Heart Rhythm 10(3): 339-346, 2013
285	Murai T, Lee T, Yonetsu T, Iwai T, Takagi T, Hishikari K, Masuda R, Iseaka Y, Isobe M, Kaluta T	循環器内科	Variability of Index of Microcirculatory Resistance and its Relationship with Fractional Flow Reserve in Patients with Intermediate Coronary Artery Lesions.	Circ J 77(7): 1769-1777, 2013
286	Nakamura T, Hachiya H, Tanaka Y, Yegishita A, Sugiyama K, Suzuki M, Kawabata M, Sasano T, Hirao K, Isobe M	循環器内科	Distribution of the origin of adenosine triphosphate-sensitive atrial tachycardias with the earliest activation recorded in the His bundle catheter: Are they limited to the immediate vicinity of the His bundle?	Circ J 77(3): 626-631, 2013
287	Terao O, Yoshifuji H, Kimura A, Matsumura T, Ohmura K, Takahashi M, Shimizu M, Kawaguchi T, Chen Z, Naruse TK, Sato-Disube A, Ebana Y, Masjima Y, Kinoshita H, Murakami K, Kawabata D, Wada Y, Naito I, Tazaki J, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Otsawa S, Komuro I, Nozaki R, Yamada R, Tabara Y, Isobe M, Mimori T, Matsuda F	循環器内科	Two susceptibility loci to Takayasu arteritis reveal a synergistic role of the IL12B and HLA-B regions in a Japanese population.	Am J Hum Genet 93(2): 289-297, 2013
288	Takahashi K, Kaluta T, Yonetsu T, Lee T, Koura K, Hishikari K, Murai T, Iseaka Y, Isobe M	循環器内科	In vivo detection of lipid-rich plaque by using a 40-MHz intravascular ultrasound: a comparison with optical coherence tomography findings.	Cardiovasc Interv Ther 28: 333-343, 2013

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
289	Tozuka D, Haseguchi G, Inagaki H, Ito M	循環器内科	: Progression of thrombogenesis in large coronary aneurysms during anticoagulant therapy in a Buerger's disease patient.	BMJ Case Reports 2013; doi: 10. 2013-009945
290	Yagishita A, Hachiya H, Kawabata M, Nakamura T, Sugiyama K, Tanaka Y, Sasano T, Ito M, Hiroo K	循環器内科	: Amiodarone-Induced Thyrotoxicosis Late after Amiodarone Withdrawal.	Circ J 77(12): 2898-2903, 2013
291	Ushizawa H, Fozzwell AR, Bice S, Matsui T, Ueki Y, Tosaka N, Shoko T, Aboshi J, Otomo Y.	救急災害医学分野	: Needs for disaster medicine: lessons from the field of the Great East Japan Earthquake.	Western Pacific Surveillance and Response Journal. 4(1):51-55, 2013
292	Morishita K, Aboshi J, Kobayashi T, Yokoyama Y, Mikami S, Kumagai J, Onizawa K, Otomo Y.	救急災害医学分野	: Group VIB Ca2+-independent phospholipase A2F is associated with acute lung injury following trauma and hemorrhagic shock.	J Trauma Acute Care Surg. 75: 767-774, 2013
293	Gando S, Saitoh D, Ishikura H, Ueyama M, Otomo Y, Oda S, Kushimoto S, Tanoh K, Mayumi T, Ikeda T, Toshiaki Da, Eguchi Y, Okamoto K, Ogura H, Koseki K, Sakamoto Y, Takayama Y, Shimai K, Takasu O, Inoue Y, Meshiko K, Tsubota T, Endo S.	救急災害医学分野	: A randomized, controlled, multicenter trial of the effects of antithrombin on disseminated intravascular coagulation in patients with sepsis.	Critical Care 2013, 17:R297 doi:10.1186/cc13183
294	Hondo K, Shiraiishi A, Fujie S, Saitoh D, Otomo Y	救急災害医学分野	: In-hospital trauma mortality has decreased in Japan possibly due to trauma education.	J Am Coll Surg. 217(5):850-857, Nov, 2013
295	Akira Endo, Atsushi Shiraiishi, Junichi Aboshi, Yoshiro Hayashi, and Yasuhiro Otomo	救急災害医学分野	: A case of purpura fulminans caused by Hemophilus influenzae complicated by reversible cardiomyopathy.	Journal of Intensive Care In press.
296	Chang PC, Turker L, Leshire JC, Masroor S, Nguyen BL, Tao W, Rubart M, Chen PS, Chen Z, Ai T.	救急災害医学分野	Heterogeneous Upregulation of Apamin-Sensitive Potassium Currents in Failing Human Ventricles.	J Am Heart Assoc 2013; 2:e004713
297	Hsieh YG, Chang PC, Lee YS, Weiss JN, Chen Z, Ai T, Lin SF, Chen PS.	救急災害医学分野	Inhibition of small conductance Ca-activated K+ channels flattens the action potential duration restitution and hinders the maintenance of ventricular fibrillation in failing rabbit ventricles.	Circ Arrhythmia Electrophysiol 6:410-8, 2013
298	Turker L, Chang PC, Chen Z, Sofina Y, Chen PC, Ai T.	救急災害医学分野	Amiodarone inhibits small conductance Ca2+-activated K+ (SK2) channel expressed in HEK-293 cells.	PLoS ONE 2013;8:e70450
299	Li, Xi Y, Wu G, Ai T, Cheng N, Kalisnik JM, Sun J, Abbasi S, Yang D, Fan C, Yuan X, Wang S, Elayda M, Gregoric ID, Kantharia BK, Lin SF.	救急災害医学分野	Cheng J. Ionic mechanisms underlying the effects of vasoactive intestinal polypeptide on canine atrial myocardium.	Circ Arrhythm Electrophysiol 6:978-83, 2013
300	Maniyama, M, Ai T, Chua SK, Park IHW, Lee YS, Shen MJ, Chang PC, Lin SF, Chen PS.	救急災害医学分野	Hypokalemia Promotes Late Phase 3 Early Afterdepolarization and Recurrent Ventricular Fibrillation During Isoproterenol Infusion in Langendorff Perfused Rabbit Ventricles.	Heart Rhythm 2013, In press

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
301	Turker I, AJ T.	救急災害医学分野	Editorial Commentary: "Cervical sympathetic denervation: the least resort?"	Heart Rhythm 2013. In press.
302	Katayama, Yoichi; Hifumi, Toru; Inoue, Junichi; Koido, Yuichi	救急災害医学分野	A case of Takotsubo cardiomyopathy induced by accidental hypothermia and diabetic ketoacidosis.	BMJ Case Reports . p1-3. Apr2013
303	Hifumi T, Kiriu N, Kato H, Inoue J, Koido Y	救急災害医学分野	Survival after prolonged resuscitation from cardiac arrest due to diabetic ketoacidosis using extracorporeal life support.	Am J Emerg Med 31(5):892.e1-2, 2013
304	Fujimoto T, Kawahara K, Yokozeki H	皮膚科	Epidemiological study and considerations of primary focal hyperhidrosis in Japan: From questionnaire analysis.	J Dermatol. 2013 40(11):886-890
305	Takahara Y, Satoh T, Nishizawa A, Saeki K, Nakamura M, Masuzawa M, Kaneda Y, Katayama I, Yokozeki H	皮膚科	Anti-tumor effects of inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene on angiosarcoma.	Clin Immunol. 2013 Oct;149(1):1-10.
306	Tanaka K, Mori H, Okazaki M, Nishizawa A, Yokozeki H	皮膚科	Long-term treatment outcome after only popliteal lymph node dissection for nodal metastasis in malignant melanoma of the head: the only "interval node" dissection can be an adequate surgical treatment.	Case Rep Oncol Med. 2013;2012:259326.
307	Saeki K, Satoh T, Yokozeki H	皮膚科	$\alpha(1,3)$ Fucosyltransferases IV and VII are essential for the initial recruitment of eosinophils in chronic allergic inflammation.	J Invest Dermatol. 2013 Sep;133(9):2161-9.
308	Kataoka N, Satoh T, Hirai A, Saeki K, Yokozeki H; Indomethacin inhibits eosinophil migration to prostaglandin D2	皮膚科	therapeutic potential of CRT22 desensitization for eosinophilic pustular folliculitis.	Immunology. 2013 Sep;140(1):78-86.
309	Inoue R, Sohara E, Rai T, Satoh T, Yokozeki H, Sasaki S, Uchiida S	皮膚科	Immunolocalization and translocation of aquaporin-5 water channel in sweat glands.	J Dermatol Sci. 2013 Apr;70(1):28-33.
310	Hashimoto T, Satoh T, Funaya A, Kataoka N, Yokozeki H	皮膚科	Kimura's disease with prurigo lesions treated with systemic indomethacin. J Eur Acad Dermatol Venereol.	DOI: 10.1111/jdv.12339. 2013
311	Higuchi T, Satoh T, Yokozeki H.	皮膚科	Using CD40 ligand expression to detect antigen-specific T cells in patients with drug eruptions.	Acta Derm Venereol. 2014 Jan;94(1):86-7.
312	Villarreal VA, Okuyama N, Tsuji G, Linton JT, Katz SL	皮膚科	CXCR3-Mediated Skin Homing of Autoreactive CD8 T Cells Is a Key Determinant in Murine Graft-Versus-Host Disease.	J Invest Dermatol. 2014 Jan 3.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
313	Okuyama N, Furumoto Y, Villarreal VA, Linton JT, Tsai WL, Outermost J, Ghoreschi K, Gadina M, O'Shea JJ, Katz SL	皮膚科	Reversal of CD8 T-Cell-Mediated Mucocutaneous Graft-Versus-Host-Like Disease by the JAK Inhibitor Tofacitinib.	J Invest Dermatol, 2013 Nov 8.

1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

合計 313件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
1	AMORE Study Group	脳神経外科	無症候性もやもや病の予後と治療法の確立をめざした多施設共同研究-AMORE研究について-	脳卒中の外科 41:235-239, 2013
2	百野雄一 根本 繁 三木一彦 山本徳二 壽夫田一貴 芳村雅彦	血管内治療科	色素血管母斑症に合併した内頸動脈瘤体部巨大動脈瘤の一例	Journal of Neuroendovascular Therapy Vol.7 No.3 July 2013 172-178
3	13. 小柳達 卓哉, 吉井 俊貴, 廣川 大, 榎本 光裕, 川端 茂徳, 大川 淳	整形外科	脊髄変性後遺症患者における表面筋電図を用いた腰背筋疲労評価と脊髄失状面アライメント	整形外科-災害外科 2013年06月号(56巻 07号) 831-837
4	14. 廣川大, 榎本 光裕, 高澤 晋司, 猪瀬 弘之, 吉井 俊貴, 加藤 剛, 川端 茂徳, 大川 淳	整形外科	腰椎椎体骨折後偏関節に対する椎体形成術後の腰背筋活動評価-表面筋電図を用いた検討	別冊整形外科, 8332-38, 2013.4
5	18. 串田 淑久, 神野 哲也, 古賀 大介, 小谷野 岳, 高田 ちさと, 麻生 義男	整形外科	:THA症例における静脈血栓症予防のための抗凝薬の比較検討	.Hip Joint(0389-3834)39巻 Page988-991(2013.08)
6	19. 谷口 直史, 神野 哲也, 古賀 大介	整形外科	:人工股関節全置換術におけるトラスネキサム酸術前投与有効性の検討	.Hip Joint(0389-3834)39巻 Page841-844(2013.08)
7	野口佳裕, 伊藤卓, 川島慶之, 西尾綾子, 本田圭司, 喜多村健	耳鼻咽喉科	前庭水管拡大症を伴うSLC26A4, ATP6V1B1, SDC1変異例の聴平衡所見の検討	Equilibrium Research 72:97-106, 2013.
8	川島慶之, 喜多村健	耳鼻咽喉科	内耳有毛細胞の機械的シグナル伝達に必要不可欠な遺伝子TMC1, およびTMC2	Otology Japan 23:137-143, 2013.
9	西尾綾子, 角卓郎, 山田雅人, 桑波田悠子	耳鼻咽喉科	精神疾患を合併した耳鼻咽喉科患者の治療経路	日本耳鼻咽喉科学会会報 116:97-102, 2013.
10	田嶋彰久, 本田圭司, 盛田知子, 畑中聖生	耳鼻咽喉科	視力障害により発症したWegeener肉芽腫症の一例	耳鼻咽喉 106: 985-990, 2013.
11	吉本亮一, 野口佳裕, 岩崎栄見, 喜多村健	耳鼻咽喉科	埋め込み型骨導補聴器術後皮膚炎症反応に対する再手術例の検討	Otology Japan 23:834-840, 2013.
12	本田圭司, 野口佳裕, 加藤智史, 奥野秀次, 喜多村健	耳鼻咽喉科	顕微鏡的解析により診断された耳小骨奇形を合併したミトコンドリア3243変異例	Otology Japan 23. 229-232, 2013.

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
13	朝山直子, 高橋正時, 野口佳裕, 喜多村健	耳鼻咽喉科	熱傷による外傷性鼓膜穿孔例.	耳鼻臨床 106: 1077-1082, 2013.
14	岸根有実, 竹田貴英, 藤田知子, 川島慶之	耳鼻咽喉科	非反回下喉頭神経症例の三次元CT頸部血管造影像.	耳鼻臨床 85:378-380, 2013.
15	立石優美子, 高橋正時, 喜多村健.	耳鼻咽喉科	Bazoid膿瘍を形成した隠蔽性乳様突起炎の1例.	Otology Japan 23:210-215, 2013.
16	野口佳裕, 朝山直子, 高橋正時, 喜多村 健	耳鼻咽喉科	経皮鼓膜の急性感音聴覚症例の検討.	Audiology Japan, 57:63-70, 2014
17	野村文敬, 杉本太郎, 岸本誠司	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	上顎骨に発生した繊維性骨異型成症手術におけるナビゲーションシステムの応用.	耳鼻55(5):331-332,2013
18	杉本太郎, 岸本誠司, 川田研郎, 有泉隆介, 得丸貴夫, 清川祐介, 野村文敬	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	ELPSに関する手術支援機器についての考察.	耳鼻55(5):359-374,2013
19	角田篤信, 岸本誠司	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	聴器悪性腫瘍に対する外科治療.	Otology Japan22(2):845-848,2013
20	川田研郎, 岡田卓也, 杉本太郎, 藤原尚志, 斎藤賢将, 藤原進人, 了徳寺太郎, 太田俊介, 宮脇豊, Sawngari J, 星野明弘, 東海林裕, 中島康亮, 荻谷洋一, 永井憲, 清川祐介, 野村文敬, 角卓郎, 得丸貴夫, 岸本誠司, 河野辰幸	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	上部消化管経鼻内視鏡による中咽頭反転法の有用性.	日本気管食道科学会会報64(4):265-270,2013
21	角田篤信, 岸本誠司	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	顔面底手術後の顔面神経麻痺の取り扱いについて.	Facial N Res Jp 33:198-199,2013
22	矢野智之, 西崎純, 田中麗太郎, 末真伸子, 角田篤信, 岸本誠司	形成外科 耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	顔面底再建のための新しい欠損分類の有用性の検討—顔面底再建症例127例における検討.	耳鼻55(4):430-434,2013
23	杉本太郎, 岸本誠司, 川田研郎, 角卓郎, 得丸貴夫, 清川祐介, 野村文敬, 岡田卓也, 河野辰幸.	耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科	下咽頭深部に存在する下咽頭癌の診断と治療 —「バルサルバ」法と彎曲型喉頭鏡の有用性—.	日気食会報64(2):153, 2013.
24	池田衣里, 大谷良江, 大畑めぐみ, 河田明夫, 横田浩史.	麻酔科 麻酔科	難治性帯状疱疹後神経痛に対して抗凝固療法中断下に高周波熱凝固を行った1症例.	日本ペインクリニック学会雑誌 2013; 20: 98-101

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
25	木戸浩司, 内田善治郎, 横田浩史	麻酔科	ロクロニウムのはたけ作用濃度を促進に於てセチルコリン受容体拮抗体が高値であることが判明した1症例	麻酔 2013; 62:445-448.
26	星元麻衣子, 伊藤裕之, 内田善治郎, 横田浩史	麻酔科	レスベラトロールのセボフルラン麻酔前投与は、幼若なマウス脳へのアポトーシスを抑制できない。	麻酔 2013; 62:1184-7.
27	中川剛士, 佐藤篤彦, 森 弘樹, 榎村法子, 永原 誠, 杉原健一	形成・再建外科学(形成・美容外科) 乳腺外科	全身化学療法施行後、組織拡張器挿入により二次再建を施行したT4bN3c乳癌の1例	癌と化学療法40: 2354-2356, 2013
28	宇佐美聡, 岡崎 睦, 田中颯太郎, 榎村法子, 本間 勉, 大久保ありさ	形成・再建外科学(形成・美容外科)	Angular branchを基とした眉甲骨介取後の眉間動植物腫瘍	形成外科 57; 181-188, 2014
29	宇佐美聡, 矢野裕之, 田中颯太郎, 森 弘樹, 岡崎 睦	形成・再建外科学(形成・美容外科)	顎面底骨折を合併した鼻骨骨折の経験	日本形成外科学会誌 34; 40-48, 2014
30	大久保淳, 中村敏子, 宮本聡子, 瀬島晋史, 倉島直樹	血液浄化療法部	血液交換(Plasma Exchange:PE)における置換液アルブミン(Alb)濃度について。	日本血液浄化技術学会誌21(2):199-201, 2013
31	宮本聡子, 大久保淳, 中村敏子, 倉島直樹	血液浄化療法部	アルブミン溶液を用いた単純血液交換療法。	日本アフェレシス学会雑誌32(3):213-217, 2013
32	星野ちさと, 吉岡大介, 神野哲也, 麻生義則, 小谷野岳, 森田定雄, 宗田大, 大川淳	リハビリテーション医学 整形外科	術中筋電位モニタリングで大脳神経損傷を認知した前方進入T1Aの1例。	Hip Joint 38, 811-815, 2013.
33	芝山正治	高気圧治療部	レジャーダイバーの過去10年間における減圧障害治療の推移。	駒沢女子大学研究紀要, 2013.12.20, 印刷中
34	中村智祐, 関矢一郎, 宗田大, 小林英司	スポーツ医学診療センター	深層関節系幹細胞による軟骨再生治療:ミニマモデルでの検討。	Clin Calcium, 2013, 23(12):1741-9.
35	松本和成, 荒川暁弘, 小池浩司, 中村哲也, 花岡英紀, 本間真人, 吉澤弘久	臨床試験管理センター	大学病院間の共同IRB等の体制 ー大学病院臨床試験ライアンスにおける検討ー	臨床薬理, 2013 03;44(3):207-215.
36	中村智祐, 関矢一郎, 宗田大, 小林英司	再生医療研究センター 細胞治療センター	深層関節系幹細胞による軟骨再生治療:ミニマモデルでの検討。	クリニカルカルシウム 2013;23(12):49-57

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	所属部門	題名	雑誌名
37	遠藤 彰, 加地正人, 榎本真也, 村田希古, 登坂直規, 相澤洋一, 大友康裕	救急災害医学分野	:足関節から後腹膜に広がる広範な創傷型腸穿孔感染症に対し、患肢保存し救命した1例	日本救急医学雑誌 24(9):799-804, 2013
38	吉川俊輔, 八木雅幸, 本藤薫一, 庄吉知久	救急災害医学分野	:特発性後腹膜血腫の1例	日本救命医療学会雑誌 23: 43-47, 2013
39	井上 潤一	救急災害医学分野	:東日本大震災における災害派遣医療チーム(DMAT)	国立病院看護研究学会誌 9(1): 53-55, 2013
40	井上 潤一	救急災害医学分野	:東日本大震災の検証からみえてきた今後の方向性—消防と医療の連携	救急医学 37(1): 49-53, 2013-01
41	大嶋 雄一郎, 玉田 康彦, 横関 博雄, 前田 俊夫, 遠藤 輝, 千田 朋子, 長岐 為一郎	皮膚科	:原発性腋窩多汗症患者に対するA型ボツリヌス毒素製剤の治療評価	西日本皮膚科(0386-9784)75巻4号 Page357-364(2013.08)(原著論文)
42	鈴木 環天, 岸山 奈緒子, 宮崎 安洋, 横関 博雄	皮膚科	:【体幹の皮膚病-炎症性】<臨床部>多汗を主訴としたRoss症候群とSjogren症候群、橋本病の合併例	Source皮膚病診療(0387-7531)35巻5号 Page477-480(2013.05)(原著論文/症例報告/特集)
43	宗次 太吉, 藤本 智子, 井上 梨紗子, 高山 かおる, 佐藤 貴浩, 横関 博雄	皮膚科	:東京医科大学皮膚科で経験した特発性後天性全身性無汗症の臨床的検討.	発汗学(1340-4423)20巻1号 Page49-52(2013.04)(原著論文)
44	加藤 恒平, 岸山 吉弘, 藤本 智子, 佐藤 貴浩, 横関 博雄	皮膚科	:形質細胞増多症におけるIgG4の検討.	皮膚科の臨床(0018-1404)55巻2号 Page211-215(2013.02)(原著論文/症例報告)
45	藤本 智子, 井上 梨紗子, 横関 博雄, 伊東 慶子, 大嶋 雄一郎, 柳下 武士, 玉田 康彦	皮膚科	:原発性手皸多汗症に対する二重首模下での強化アルミニウム外用剤の有効性の検討.	日本皮膚科学会雑誌(0021-499X)123巻3号 Page281-289(2013.03)(原著論文)

合計 45件

- 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 審査の手順、書類の提出方法等について記載	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 書類の記入方法等についての記載	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 研究倫理の潮流、研究倫理審査諸手続きにあたっての注意点、指針の改正に伴う注意点、など (上記 4 回の研修会に参加できない場合は、随時 e-learning で受講が可能)	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- 血液内科専門医・大学院コース（東京医科歯科大学医学部附属病院および関連病院にて医員として血液内科臨床に携わり、血液学会専門医を取得、大学院生として造血や造血器腫瘍発症の分子機序について分子生物学的手法を用いて研究し、医学博士の取得を目指す。）
- 血液内科専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院および関連病院にて医員として血液内科臨床に携わり、臨床経験をつむことで血液専門医および、がん治療認定医取得をめざす。）
- 腎臓内科専門医・大学院コース（卒後2年間の初期研修終了後、大学病院及び関連病院にて総合内科医・腎臓内科医としての後期専門研修を開始し、他科から信頼される総合内科医・腎臓内科医としての基礎的臨床能力を養成する。また内シャント造設術や腎生検などの診療実技についても習熟する。同時に臨床における未解決問題について自覚を持ち、専門研修を通じて発見した課題などについて、大学院に入学し研究を行う。）
- 腎臓内科専門医コース（卒後2年間の初期研修終了後、大学病院及び関連病院にて総合内科医・腎臓内科医としての後期専門研修を開始し、他科から信頼される総合内科医・腎臓内科医としての基礎的臨床能力を養成する。また内シャント造設術や腎生検などの診療実技についても習熟する。さらに大学病院と関連病院が緊密に連携・協力することによって、若手医師が総合内科医療から専門性の高い腎臓内科医療までの経験を積むことができる。質の高い専門性を有する医師キャリア形成システムが構築されており、まさしく優秀な総合内科医・腎臓内科医となることができる。）
- 糖尿病・内分泌・代謝内科専門医コース（大学病院及び関連教育施設、指導医の下でレジデント・医員として糖尿病、各種内分泌疾患、高血圧、脂質異常症、肥満症などの診療に従事する。内科認定医（卒後3年）の取得の後、さらに総合内科専門医（3年）、内分泌代謝科専門医（3年）、糖尿病専門医（3年）、高血圧専門医（3年）、肥満症専門医（3年）、甲状腺学会認定専門医（5年）の各専門医受験資格の取得をめざす。関連研修施設はいずれも内科、内分泌・代謝科、糖尿病科の各専門医の育成を目的とした学会認定教育施設が中心で、複数の病院をローテートする。内科・内分泌代謝科・糖尿病・高血圧の各専門医資格を持つ指導医の下で臨床能力を高めることができる。）
- 糖尿病・内分泌・代謝内科専門医・大学院コース（大学院または社会人大学院に入学し、研究指導者の下で主に臨床・基礎的研究に携わる。また教育関連病院に勤務している場合でも臨床を継続しながら大学院（社会人）に入学することも可能で、途中、大学院（一般）や専門研修への変更も可能。いずれも原則的には4年間で単位を修得及び研究論文を提出、医学博士取得を目指す。また院生の期間は専門医に必要な期間としても認められる。研究テーマは、内分泌・代謝、高血圧、糖尿病、肥満領域の病態生理、診断、治療に関する幅広い臨床・基礎研究課題の中から指導者と相談して選択する。）
- 神経内科専門医コース（卒後2年間の初期研修終了後、神経内科専門医取得を目標とした後期研修システムを開始する。神経放射線学を専門に研究している教室で研修を行い、都内や周辺地域の病院での研修も経験し、さらに当科で行っている臨床神経学、神経生理学、神経病理学の専任研修システムと併せることにより、神経内科専門に求められる知識・経験を十分なものとする。後期研修システムに関しては、様々な目的を持った医師を対象とした代表的な3つのプランを用意しているが、海外留学など希望に対応したフレキシブルなコース設定が可能である。また本学救命救急センターや、関連病院（連携病院）に関しては、希望により選択することが可能である。）
- 神経内科専門医・大学院コース（卒後2年間の初期研修終了後、神経内科専門医取得を目標とした後期研修システムを開始する。神経放射線学を専門に研究している教室で研修を行い、都内や周辺地域の病院での研修も経験し、さらに当科で行っている臨床神経学、神経生理学、神経病理学の専任研修システムと併せることにより、神経内科専門に求められる知識・経験を十分なものとする。後期研修システムに関しては、様々な目的を持った医師を対象とした代表的な3つのプランを用意しているが、海外留学など希望に対応したフレキシブルなコース設定が可能である。ま

た本学救命救急センターや、関連病院（連携病院）に関しては、希望により選択することが可能である。）

○神経内科専門医・社会人大学院コース（卒後2年間の初期研修終了後、神経内科専門医取得を目標とした後期研修システムを開始する。神経放射線学を専門に研究している教室で研修を行い、都内や周辺地域の病院での研修も経験し、さらに当科で行っている臨床神経学、神経生理学、神経病理学の専任研修システムと併せることにより、神経内科専門に求められる知識・経験を充分なものとする。後期研修システムに関しては、様々な目的を持った医師を対象とした代表的な3つのプランを用意しているが、海外留学など希望に対応したフレキシブルなコース設定が可能である。また本学救命救急センターや、関連病院（連携病院）に関しては、希望により選択することが可能である。）

○老年病内科学コース（総合内科として、複数の疾患を持つ高齢者の診療を通して、高齢者特有の病態、診察法（高齢者総合的機能評価：CGA）、治療法を学びます。さらに転倒・骨折、褥瘡、排尿障害、嚥下障害などの老年症候群への対応や、低栄養や過栄養に対する栄養アセスメント、インスリン注射を含む服薬指導、認知症や高齢者うつ病への対策、終末期医療、福祉・介護サービスの利用などに対応するためにご家族や他科の医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・介護サービス提供者などと協力するチーム医療の中心となって働くための能力を身につけます。疾患としては高齢者の生活習慣病の総合的コントロール、動脈硬化性疾患の診療（特に末梢動脈疾患の診療と血管再生療法などの先進医療）、漢方などに重点を置いており、老年病専門医のほか、糖尿病専門医・老年精神医学会専門医・漢方専門医の取得ができます。これらを通して高齢医学の幅広い知識と高度の専門性を兼ね備えた医師の育成を目指します。）

○消化器専門医・大学院コース（東京医科歯科大学医学部附属病院消化器内科は炎症性腸疾患、肝疾患、小腸内視鏡、消化器癌化学療法を診療の柱とし、多彩な関連病院と連携している。関連病院は地域中核病院が多く、緊密に連携・協力することによって、高頻度に見られる疾患のみならず、若手医師が炎症性腸疾患、慢性肝炎から肝癌治療、小腸内視鏡の専門治療と経験を積むことができる。大学院にて先進的研究に従事することで、質の高い専門性を有するとともに先進医療の発展に貢献できる医師が養成される。）

○消化器専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院は炎症性腸疾患、肝疾患、小腸内視鏡、癌化学療法を診療の柱とし、多彩な関連病院と連携している。関連病院は地域中核病院が多く、緊密に連携・協力することによって、高頻度に見られる疾患のみならず、若手医師が炎症性腸疾患の専門治療、慢性肝炎から肝癌治療、小腸内視鏡の経験を積むことができる。医師キャリア形成システムの構築を通して、質の高い専門性を有するとともに地域医療に貢献できる医師が養成される。）

○循環器内科専門医コース（多様な臨床現場で専門研修を行うコースです。）

○循環器内科専門医・大学院コース（専門研修を通じて課題を発見し研究へ進展するコースです。）

○呼吸器内科専門医コース（医師3年目の後期臨床研修は、呼吸器内科として研修の初年度として考えている。当科では科学的な視点を持ちながら患者の苦しみに共感し臨床のできる医師を数多く輩出することが我々の教室の使命と考え、外来および病棟にて①間質性肺炎（特発性肺線維症、過敏性肺炎など）、②肺癌、③気管支喘息・COPD、④呼吸器感染症の4つを主軸に研修が可能である。特に間質性肺炎の診断（画像、病理、臨床をふまえた診断）及び治療は、全国でもトップレベルにあると考えられ、有意義な研修ができる。連携病院とともに7-8年を目安にそれぞれの専門医が取れるようなコースを設定している。）

○呼吸器内科専門医・大学院生コース（基本的には4年間の後期臨床研修を終えた医師が大学院入学の対象となるが、希望があれば早期の大学院入学も可能である。当科では科学的な視点を持ちながらも臨床のできる医師を輩出することが教室の使命と考えており、大学院も社会人大学院生を中心としており、臨床の診療もある程度維持しながら研究を行っている。①間質性肺炎（過敏性肺炎を含む）、②肺癌、③気管支喘息・COPD、④呼吸器感染症と、大きく分けて4つの班で独自のプロジェクトの研究を行っている。特に間質性肺炎に関する研究は全国でもトップレベルにあると考えられ、有意義な研究ができる。連携病院の研修を含めて8-9年を目安に呼吸器専門医および医学博士が取れるようなコースを設定している。）

○膠原病・リウマチ内科Clinical Track 1（東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科では、内科専

門医・リウマチ専門医受験資格取得、学位取得、または短期的な知識・技術習得など、様々な目的をもった医師を対象とした後期研修プログラムを編成し、参加者を募集している。全国でも有数の膠原病・リウマチ診療機関ゆえの豊富な症例数と、豊富な指導医、そして膠原病・リウマチ専門医育成のGlobal standardに基づいた後期研修プログラムにより、知識・技術ともに世界的水準を満たす膠原病臨床医を育成する。また学術的キャリアを希望する医師には、当科における多彩な研究への参加を通し、膠原病・免疫学分野に広く貢献できるPhysician-Scientistを育成する。このように当科では、全国の膠原病・リウマチ後期研修プログラムの中でも、非常にユニークな後期研修の機会を提供している。)

○膠原病・リウマチ内科Clinical Track 2 (東京医科歯科大学膠原病・リウマチ内科では、内科専門医・リウマチ専門医受験資格取得、学位取得、または短期的な知識・技術習得など、様々な目的をもった医師を対象とした後期研修プログラムを編成し、参加者を募集している。全国でも有数の膠原病・リウマチ診療機関ゆえの豊富な症例数と、豊富な指導医、そして膠原病・リウマチ専門医育成のGlobal standardに基づいた後期研修プログラムにより、知識・技術ともに世界的水準を満たす膠原病臨床医を育成する。また学術的キャリアを希望する医師には、当科における多彩な研究への参加を通し、膠原病・免疫学分野に広く貢献できるPhysician-Scientistを育成する。このように当科では、全国の膠原病・リウマチ後期研修プログラムの中でも、非常にユニークな後期研修の機会を提供している。)

○消化器・一般外科後期研修コース。(2年間の初期研修修了者を対象とし、本学附属病院外科および外科の関連病院において研修を行う。一般外科の幅広い知識・技術とともに消化管外科・肝胆膵外科・血管外科・乳腺外科の専門的な知識と技術を習得する。日本では外科医が消化器癌および乳癌の治療において中心的な役割を担っており、癌治療については手術治療だけでなく化学療法や緩和医療も含めた専門的な知識および技術も習得する。外科専門医取得の資格要件となる手術症例をマスターするだけでなく、様々な症例を経験し、幅広い外科知識と技術を習得する。今後、現行の外科専門医制度に代わって新外科専門医制度が始まるとされており、新制度に対応する体制を整えている。大学に後期研修責任者(研修メンター)を設置し、各研修医に対する1年ごとの達成度調査により研修内容の評価を行い、充実した研修計画を送ることができるように運用する。)

○心臓血管外科専門医コース(心臓血管外科専門医は、日本外科学会専門医取得後にさらに専門の修練を積んで試験に合格することで取得できるサブスペシャリティの専門医資格です。このため、当科のトレーニングプログラムは、通常、後期研修としての形式をとらず、卒後初期研修修了後、1年2-3カ月程度の一般外科研修を関連施設で集中的に行い、できる限り早期に日本外科学会専門医資格を取得した後、各コースにわかれて心臓血管外科専門医資格の取得を目指します。東京医科歯科大学心臓血管外科は、成人心大血管疾患を診療の柱として診療活動を行ってきましたが、平成26年度から小児心臓外科を再開しました。また、関連病院においては、成人心臓大血管とともに末梢血管疾患も多数扱っており、小児心臓疾患の診療も行っている施設もあるため、新専門医制度へ移行する際も大学と関連病院において十分修練が可能な体制となっております。また、関連病院ごとにそれぞれの特徴があるため、複数の関連施設で修練を積むことで若手医師が専門性の高い修練を幅広く積むことができるように配慮しております。)

○広域連携心臓血管外科専門医コース(卒後初期研修修了後、日本外科学会専門医資格を取得できるよう、1年から2年の一般外科研修を行います。その後各コースにわかれ、それぞれの専門医資格の取得を第一の目標とします。東京医科歯科大学医学部附属病院は成人心疾患を診療の柱とし、多彩な関連病院と連携しています。秋田大学、島根大学を含め関連病院が緊密に連携・協力することによって、若手医師が都会・地方・僻地における心臓血管外科の経験を積むことができ、医師キャリア形成システムの構築を通して、質の高い専門性を有するとともに地域医療に貢献できる医師が養成されます。)

○呼吸器外科専門医コース(呼吸器外科医は主に原発性肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・悪性胸膜中皮腫・気胸など肺・気管支・縦隔・胸壁疾患などに対する診断・治療のスペシャリストであり、一般外科の知識・技量を習得した後、呼吸器外科専門医を目指すことになる。初期研修修了後、卒後3年目に1年間の一般外科研修を行い、日本外科学会専門医を取得できるだけの修練・経験を行う。その後、各コースにわかれるが、基本は呼吸器外科医の第一目標である呼吸器外科

専門医を取得できるよう育成する。)

○呼吸器外科専門医大学院コース（呼吸器外科医は主に原発性肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・悪性胸膜中皮腫・気胸など肺・気管支・縦隔・胸壁疾患などに対する診断・治療のスペシャリストであり、一般外科の知識・技量を習得した後、呼吸器外科専門医を目指すことになる。東京医科歯科大学医学部附属病院はこのようなスペシャリスト育成のためにも、完全胸腔鏡下手術などの低侵襲手術から高度な技術を必要とする拡大手術など豊富な症例を経験することができる。そして経験豊富な呼吸器外科専門医による育成を東京医科歯科大学関連病院・そのほか協力関係にあるhigh volume centerの連携により多彩な呼吸器外科の経験を積むことにより呼吸器外科医という専門性の高い知識・技量を得る。さらに、専門医を目指しながら臨床を経験していく過程で様々な疑問に遭遇するが、それらを大学院にて呼吸器外科領域の研究テーマとし学位を取得することも可能である。)

○広域連携呼吸器外科専門医コース（呼吸器外科医は主に原発性肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・悪性胸膜中皮腫・気胸など肺・気管支・縦隔・胸壁疾患などに対する診断・治療のスペシャリストであり、一般外科の知識・技量を習得した後、呼吸器外科専門医を目指すことになる。また都市・地方という医療事情の異なる多彩な臨床経験により、地域中核病院にても医療に貢献できる医師を養成できる。)

○泌尿器科専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院は泌尿器科腫瘍、排尿障害を診療の柱とし、がんセンター等の機能を有した多彩な関連病院と連携している。若手医師が泌尿器科医療の経験を積むことができ、医師キャリア形成システムの構築を通して、質の高い専門性を有するとともに地域医療に貢献できる医師が養成される。)

○広域連携泌尿器科専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院は泌尿器科腫瘍、排尿障害を診療の柱とし、地域がんセンター等の機能を有した多彩な関連病院と連携している。秋田大学、島根大学を含め関連病院が緊密に連携・協力することによって、若手医師が都会・他地域における泌尿器科医療の経験を積むことができ、医師キャリア形成システムの構築を通して、質の高い専門性を有するとともに地域医療に貢献できる医師が養成される。)

○眼科専門医コース（すべてのコースが日本眼科学会で規定した専門医の要項を満たすことができる施設である。経験豊富な指導者のもとで、適切な指導を受けることができる。それぞれの施設は大学と連携を緊密にしており、難治疾患なども適切に対処できている。また、大学の専門外来に参加する機会があり、それぞれの専門性を高めていくことができる。秋田大学・島根大学において網膜疾患、緑内障疾患について研修することが出来る。)

○眼科専門医・大学院コース（すべてのコースが日本眼科学会で規定した専門医の要項を満たすことができる施設である。経験豊富な指導者のもとで、適切な指導を受けることができる。それぞれの施設は大学と連携を緊密にしており、難治疾患なども適切に対処できている。また、大学の専門外来に参加する機会があり、それぞれの専門性を高めていくことができる。また、このコースのあとに大学に戻り大学院生、または大学あるいは関連病院で社会人大学院として学位取得も可能。秋田大学・島根大学において網膜疾患、緑内障疾患について研修することが出来る。)

○皮膚科専門医コース（東京医科歯科大学皮膚科における皮膚科研修は、皮膚アレルギー性疾患の診断、治療を中心に、フットケアや多汗症治療、下肢循環不全や膠原病の診断、治療、さらには皮膚悪性腫瘍の診断、治療と、幅広い分野で可能な体制を整えている。さらには、各関連病院の協力により、あらゆる皮膚疾患に対応可能な皮膚科専門医を育成可能と考える。臨床を重視した専門医コースであり、皮膚科専門医を取得し、その後さらに上級の専門医を取得することを目標にする。コースの途中から、大学院へ入学し（社会人大学院を含む）、学位をとり、研究の道を選択することも可能である。)

○耳鼻咽喉科・頭頸部外科コース（全国の大学の中で、耳鼻咽喉科学講座と頭頸部外科学講座のふたつの大学院講座ならびに臨床科を持つ、唯一の教育病院として、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域全体の研修が可能なのが最大の特徴である。特記される項目は、耳科学におけるめまい・難聴症例の生理学ならびに分子生物学的研究に基づいた診断・治療、全国で最多の症例である頭蓋底病変・小児頭頸部悪性腫瘍の診断・治療、最先端の内視鏡技術の治療への応用、三次元立体モデルを用いた手術シミュレーションの研究と臨床応用である。コース受講対象者の熟練度に応じて、症例の診断・治療を担当し、関連するテーマについて基礎・臨床医学の両者の観点からの研

鑽を目指す。)

○精神科専門医コース（本コース（精神科後期臨床研修）においては、前期臨床研修との連続性をもたせるために、身体合併症などの身体的疾患に対する医療や救急医療と関連性も重要視しながら、精神科の一般的な臨床研修を行い、精神保健指定医や学会専門医の取得を目標としたプログラムとなっている。このため、本コース内の研修施設をそれぞれ、6ヶ月ないし1-2年間の研修を行い、3～4年間でこのプログラム全体を研修するシステムとなっている。）

○精神科大学院コース（本コース（精神科後期臨床研修）においては、大学院あるいは社会人大学院に進学し、原則4年間で学位を取得することが主な目的である。ただし、前期臨床研修との連続性をもたせるために、身体合併症などの身体的疾患に対する医療や救急医療と関連性も重要視しながら、精神科の一般的な臨床研修を行い、精神保健指定医や学会専門医の取得を目標としたプログラムとのコーディネートも可能とする柔軟性のあるものとなっている。）

○小児科専門医・専門分野別専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院小児科およびそのネットワーク施設の最大の特徴は、①数多くの地域小児医療基幹施設との連携による充実した小児一般臨床の研修の場の提供、②7つの診療グループ（血液・腫瘍・免疫、循環器、神経、腎臓、内分泌、新生児、アレルギー）による幅広い臓器別専門医療の充実、③大学における最先端の基礎研究の3つを柱とし、小児科全般にわたる臨床の基礎から、専門医療、さらに基礎研究領域まで幅広く修得できる体制を持つ事である。さらには愛媛大学、島根大学ならびにその関連病院と連携し、各大学で特色のある先端医療や地域医療に従事することによって、幅広く質の高い専門性を有する小児科専門医育成が可能である。従って、小児科専門医はもちろんのこと、後期研修終了後には、各診療グループに所属することで各臓器別専門医を取得することが可能であり、また教室としても臓器別専門医取得を重視しているところである。なおローテート先の病院の決定は、年1回行われる人事に関するアンケートで各個人からの希望を募り、それを医局の人事決定諮問機関であるキャリアパス委員会で審議し決定しなるべく公平性と透明性を保つようになっている。）

○小児科専門医・大学院コース（東京医科歯科大学医学部附属病院小児科では、大学病院における臓器別グループローテートによる研修、各関連施設における小児一般臨床の研修などを行った後に、より専門領域の知見を高めるために、大学院に進学することができる。この場合、なるべく早期に小児科専門医取得に必要な研修を修了するように配慮する一方、大学院進学は小児科臨床の基礎を習得してから入学するように指導している。研究を進める上で、臨床に根ざした問題意識がその発展には大変重要であると考えからである。発生発達病態学教室生命研究所では、DNA損傷修復や先天性免疫不全症の診断や病態機構の解明では世界トップレベルの業績を挙げており、さらには造血幹細胞移植や細胞免疫療法などの先端的治療法の開発など幅広い成果を上げている。また、学内の他の教室と共同して特発性肺動脈性肺高血圧症発症機構の解明、腎機能障害進行機序の解析、内分泌疾患の分子機構の解明など、様々な形での研究を行う体制が整っている。大学院に進学しても、臓器別専門の研修を併せて行うことは可能であり、原則学位(PhD)所得と臓器別専門医双方の所得が可能である。）

○臨床検査専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院検査部において、検体検査（血液、生化学、免疫、一般、細菌）と生理機能検査（心電図、超音波、呼吸機能、神経生理、脳波）の全般的な検査技術を習得するとともに、各自が希望する専門分野の検査技術の向上を目指す。特定の関連病院検査部への医師派遣はしていない。）

○広域連携臨床検査専門医コース（東京医科歯科大学医学部附属病院検査部において、検体検査（血液、生化学、免疫、一般、細菌）と生理機能検査（心電図、超音波、呼吸機能、神経生理、脳波）の全般的な検査技術を習得するとともに、各自が希望する専門分野の検査技術の向上を目指す。特定の関連病院検査部への医師派遣はしていない。広域連携臨床検査専門医コースでは秋田大学、島根大学を含めた関連施設と緊密に連携・協力することによって、若手医師が異なった施設や環境で検査診療を行なうことで、臨床検査専門医になるための経験を積み、検査医として診療科医師の診療支援をする能力を向上させる。）

○臨床検査専門医大学院コース（東京医科歯科大学医学部附属病院検査部において、検体検査（血液、生化学、免疫、一般、細菌）と生理機能検査（心電図、超音波、呼吸機能、神経生理、脳波）の全般的な検査技術を習得するとともに、各自が希望する専門分野の検査技術の向上を目指す。特定の関連病院検査部への医師派遣はしていない。臨床検査専門医大学院コースでは、専門

医取得とともに、臨床検査医学の研究による学位取得も目指す。)

○形成外科専門医コース (多様な臨床現場で専門研修を行うコースです。専門医コース 日本形成外科学会専門医 修了要件: 形成外科学会専門医取得)

○形成外科専門医・大学院コース (専門研修を通じて課題を発見し研究へ進展するコースです。形成外科専門医・大学院コース 日本形成外科学会専門医・医学博士 修了要件: 形成外科学会専門医取得および学位取得)

○整形外科専門医コース (後期研修開始より、原則として1年ごとに大学及び協力関連施設をローテーションすることによって、幅広い整形外科の診療技術・知識を修得し、バランスのとれた整形外科専門医を育成し、その後続くsubspecialty修得の礎を築くことを目標とする。日本整形外科学会認定の整形外科専門医を取得して本コースは修了となるが、修了者はほぼ全員、引き続きsubspecialtyを習得すべく、当科での専門研修へ進んでいる。従って本コースにおける整形外科専門医取得は最終目標ではなく、あくまでsubspecialty確立までの一過程ととらえるべきである。)

○整形外科専門医・大学院コース (後期研修開始より、原則として1年ごとに大学及び協力関連施設をローテーションすることによって、幅広い整形外科の診療技術・知識を修得し、バランスのとれた整形外科専門医を育成し、その後続くsubspecialty修得の礎を築くことを目標とする。日本整形外科学会認定の整形外科専門医を取得して本コースは修了となるが、修了者はほぼ全員、引き続きsubspecialtyを習得すべく、当科での専門研修へ進んでいる。従って本コースにおける整形外科専門医取得は最終目標ではなく、あくまでsubspecialty確立までの一過程ととらえるべきである。)

○産婦人科専門医コース (東京医科歯科大学医学部附属病院周産・女性診療科 (産婦人科) は、周産期・生殖内分泌・婦人科腫瘍・女性ヘルスケアを診療の柱とし、総合・地域周産期センター、がん診療連携拠点病院等の機能を有した多彩な教育関連病院と連携している。教育関連病院と緊密に連携・協力することによって、若手医師が各専門分野をバランス良く研修することのできるキャリア形成システムが構築されており、このシステムを通じて質の高い専門性を有しかつ地域医療に貢献できる医師が養成される。専門医・大学院コースでは、専門性を高めるためにさらに大学院での基礎・臨床研究を行うことにより、医学博士の学位を取得することができる。)

○産婦人科専門医・大学院コース (東京医科歯科大学医学部附属病院周産・女性診療科 (産婦人科) は、周産期・生殖内分泌・婦人科腫瘍・女性ヘルスケアを診療の柱とし、総合・地域周産期センター、がん診療連携拠点病院等の機能を有した多彩な教育関連病院と連携している。教育関連病院と緊密に連携・協力することによって、若手医師が各専門分野をバランス良く研修することのできるキャリア形成システムが構築されており、このシステムを通じて質の高い専門性を有しかつ地域医療に貢献できる医師が養成される。専門医・大学院コースでは、専門性を高めるためにさらに大学院での基礎・臨床研究を行うことにより、医学博士の学位を取得することができる。)

○放射線科専門医コース (画像診断・IVR・放射線治療 (一部施設に限定) 全般に関して、各施設の特長から、研修者の希望を極力反映できるよう、研修コース内容を個別に設定する。放射線診断専門医・放射線治療専門医の取得を修了要件とする。)

○放射線科専門医・大学院コース (画像診断・IVR・放射線治療 (一部施設に限定) 全般に関して、各施設の特長から、研修者の希望を極力反映できるよう、研修コース内容を個別に設定する。また、大学院に入学し、研究へ進展する。学位と放射線診断専門医・放射線治療専門医の取得を修了要件とする。)

○脳神経機能外科専門医コース (3年目の後期研修より本格的な脳神経外科臨床に関わる。脳神経外科学会が認定する脳神経外科専門医試験の受験資格は卒後7年目からであり、それまでは、大学および各関連施設で臨床医としての研修を積む。大学院に進んで基礎研究をする道も選択可能であるが、可能な限り7年目での専門医取得を目指す。脳神経外科専門医取得をもって本コースの修了要件とする。)

○脳神経機能外科専門医大学院コース (3年目の後期研修より本格的な脳神経外科臨床に関わる。脳神経外科学会が認定する脳神経外科専門医試験の受験資格は卒後7年目からであり、それまでは大学および各関連施設で臨床医としての研修を積む。大学院に進んで基礎研究をする道も選択可

能であるが、可能な限り7年目での専門医取得を目指す。社会人大学院生となり、臨床研修を積みながら、研究を平行して行うことも可能である。在籍中に学位取得を目標とし、実際その目標は達せられている。脳神経外科専門医取得および学位取得をもって本コースの修了要件とする。)

○血管内治療科専門医コース（後期研修システムは様々な目的を持った医師を対象とした柔軟性の高いプランを用意している。日本脳神経血管内治療学会が認定する専門医試験の受験資格は、基本診療科（脳神経外科学会、医学放射線学会、救急医学会、内科学会）専門医取得後であり、それまでは、大学および関連施設で基本診療領域の臨床医としての研修を積む。研修中に大学院に進んで基礎研究を行う道も選択可能である。基本診療科専門医、脳神経血管内治療専門医を取得して本コースを修了する。)

○血管内治療科専門医・大学院コース（後期研修システムは様々な目的を持った医師を対象とした柔軟性の高いプランを用意している。日本脳神経血管内治療学会が認定する専門医試験の受験資格は、基本診療科（脳神経外科学会、医学放射線学会、救急医学会、内科学会）専門医取得後であり、それまでは、大学および関連施設で基本診療領域の臨床医として研修する。研修期間中に大学院へ進み基礎研究を行う。研修中の学位取得を目標とする。基本診療科専門医、脳神経血管内治療専門医を取得して本コースを修了する。)

○外傷医・外傷外科医養成コース（救急医として必要な全ての診療能力を有している上に、外傷および外科救急疾患の救急対応では、外科医として執刀し、適切な手術を実施できる能力を有するAcute care surgeonを養成する。救急科専門医および日本外科学会専門医を取得できる。JATECの普及により、外傷緊急手術を適切に実施できる外傷外科医のニーズが急速に拡大している。学内・学外での一般外科・血管外科の修練ができるとともに、東京医科歯科大学救命救急センターにおいて豊富なスタッフ陣の指導の下に、外傷手術のみならず、急性腹症、血管緊急症の緊急手術の修練を積むことが出来る。これは現在、世界的にそのニーズが認識されてきているAcute care surgeonの考え方と合致する。外科をサブスペシャリティーとしたい救急医志望者に最適なコースである。当救命救急センターで2011年に日本外科学会National Clinical Databaseに登録した症例数は281件であった。また脳神経外科/整形外科をサブスペシャリティーとしたい救急医志望者にも、同様にコースを提供できる。)

○総合診療・ER救急専門医コース（救急医として必要な全ての診療能力を有している上に、外傷および外科救急疾患の救急対応では、外科医として執刀し、適切な手術を実施できる能力を有するAcute care surgeonを養成する。救急科専門医および日本外科学会専門医を取得できる。JATECの普及により、外傷緊急手術を適切に実施できる外傷外科医のニーズが急速に拡大している。学内・学外での一般外科・血管外科の修練ができるとともに、東京医科歯科大学救命救急センターにおいて豊富なスタッフ陣の指導の下に、外傷手術のみならず、急性腹症、血管緊急症の緊急手術の修練を積むことが出来る。これは現在、世界的にそのニーズが認識されてきているAcute care surgeonの考え方と合致する。外科をサブスペシャリティーとしたい救急医志望者に最適なコースである。当救命救急センターで2011年に日本外科学会National Clinical Databaseに登録した症例数は281件であった。また脳神経外科/整形外科をサブスペシャリティーとしたい救急医志望者にも、同様にコースを提供できる。)

○麻酔科専門医コース（研修開始後3年以内に経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築し、4年目には、集中治療などのサブスペシャリティーに関する研修を選択したり大学院入学も選択できるように配慮します。)

○病理専門医・大学院コース（病理学教室では人体病理学講座、包括病理学講座、診断病理学講座（附属病院病理部）が密接に協力しながら診療・研究を行っており、後期研修はいずれかの講座に大学院生として所属します。1,2年目(卒後3,4年目)は東京医科歯科大学医学部附属病院および協力施設において診断学の研修を中心に行うと同時に、病因や病態にも目を向けて問題提起を行い、研究技術の修得も含めて問題解決の能力を養います。3,4年目では新人の指導、および研究活動を中心に行い、4年間での博士課程の修了・学位の取得を目指します。学位の取得によって後期研修が修了となり、本学や他大学病理学教室、病院病理部、研究所、海外留学などの道へ進まれます。この時点でほとんどの方が病理専門医試験の受験に必要な研修内容（経験資格）も満たしており、5年目（2017年からの新研修制度では4年目）での専門医取得が可能となります。)

2 研修の実績

研修医の人数	149人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 修	血液内科	診療科長	32年	
上阪 等	膠原病・リウマチ内科	診療科長	26年	
小川 佳宏	糖尿病・内分泌・代謝内科	診療科長	20年	
内田 信一	腎臓内科	診療科長	22年	
磯部 光章	循環器内科	診療科長	30年	
下門 顕太郎	老年病内科	診療科長	24年	
渡邊 守	消化器内科	診療科長	27年	
森尾 友宏	小児科	診療科長	23年	
西川 徹	精神科	診療科長	20年	
井上 芳徳	血管外科	診療科長	31年	
河野 辰幸	食道外科	診療科長	37年	
小嶋 一幸	胃外科	診療科長	27年	
植竹 宏之	大腸・肛門外科	診療科長	24年	
中川 剛士	乳腺外科	診療科長	17年	
田邊 稔	肝胆膵外科	診療科長	29年	
前原 健寿	脳神経外科	診療科長	29年	
根本 繁	血管内治療科	診療科長	33年	
大川 淳	整形外科	診療科長	32年	
横関 博雄	皮膚科	診療科長	27年	
木原 和徳	泌尿器科	診療科長	37年	
大野 京子	眼科	診療科長	27年	
角田 篤信	耳鼻咽喉科	診療科長	24年	
角 卓郎	頭頸部外科	診療科長	17年	
久保田 俊郎	周産・女性診療科	診療科長	37年	
吉村 亮一	放射線治療科	診療科長	19年	
岸野 充浩	放射線診断科・治療科	診療科長	17年	
槇田 浩史	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	診療科長	32年	
横田 隆徳	神経内科	診療科長	25年	
荒井 裕国	心臓血管外科	診療科長	32年	
大久保 憲一	呼吸器外科	診療科長	23年	
稲瀬 直彦	呼吸器内科	診療科長	27年	
岡崎 睦	形成・美容外科	診療科長	24年	
東條 尚子	検査部	診療科長	32年	
江石 義信	病理部	診療科長	29年	
大友 康裕	救命救急センター	診療科長	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 高度な医療に関し、専門領域（がん化学療法・感染管理・皮膚排泄ケア看護・救急看護・集中ケア・緩和ケア）に特化した研修（基礎Ⅰ・基礎Ⅱ・アドバンス）を行い、指導・教育できる人材育成をめざすことを目的とする・研修の期間 平成25年6月10日（月）～平成26年2月27日（木）・実施回数 61回・研修の参加人数 48名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 病院として組織的な取組の推進を目的とする・研修の期間 平成25年7月9日（火）・実施回数 1回・研修の参加人数 429名 <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 個人情報保護に関する教育を目的とする・研修の期間 平成26年3月17日（月）・実施回数 1回・研修の参加人数 419名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. (現状)
管理責任者氏名	病院長 木原 和徳
管理担当者氏名	(総務課長) 本多 伸次 (管理課長) 海老根 俊浩 (医事課長) 工藤 晃 (医療支援課長) 亘 治彦

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴管理室 総務課 各診療科	[入院カルテ] 入院中は当該病棟で管理し退院後は病歴管理室で一括管理している。 [外来カルテ] 病歴管理室で一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課
	高度の医療の提供の実績	医療支援課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理対策室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理対策室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理対策室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携支援センター患者相談室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
	第一条の十一 第一項各号及び第九條の二十三 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	安全管理対策室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	安全管理対策室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	安全管理対策室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	安全管理対策室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	安全管理対策室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	(事務部長) 吉原 澄吉
閲覧担当者氏名	(総務課長) 本多 伸次
閲覧の求めに応じる場所	病院特別会議室
閲覧の手続の概要	
閲覧の希望する者は、閲覧責任者の許可を得て閲覧することができる。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インフォームドコンセントを徹底した患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する。○医療における基本の徹底と質の向上を図る。○上記の目的を実施するため、次の機構を組織する。 <p>(1) 安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。</p> <p>(2) リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。</p> <p>(3) 安全管理対策室…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する適宜マニュアルの追加並びに指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 2 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○膨張する医療トラブル～その全体像と裁判例の紹介の紹介～○当院の医薬品インシデント：最近の傾向と対策	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○インシデント・アクシデント報告の内容分析○リスクマネージャー会議でのワーキンググループ	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (3) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 事故・インシデント等の情報収集、分析、改善。</p> <p>(2) 安全管理対策の立案・調整・周知・評価。</p> <p>(3) 職員への教育研修の企画、実施・マニュアルの作成。</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>○職員に対する研修に関する基本方針</p> <p>(1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。</p> <p>(2) 職員研修は、就職時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年2回以上開催する。</p> <p>(3) 研修の開催結果を記録・保存する。</p> <p>○感染症の発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>MRSA等の感染を防止するため、「院内感染現況報告」を週1回程度作成し、感染制御部にて確認・検討を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。また、検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。</p> <p>○院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>異常発生時は、その状況および患者への対応等を病院長に報告する。感染制御部にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに、状況に応じ委員会を開催する。改善策を実施するために感染制御部・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および研修等を行う。</p> <p>○定期的(週1回)な院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行う。</p> <p>○医療現場においての感染防止対策に関する取組みの評価を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年16回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○病院全職員を対象とした院内感染及び感染症等に関する研修の実施</p> <p>(1) 医療現場で考える多剤耐性菌</p> <p>(2) 当院のアンチバイオグラム</p> <p>(3) 基本的な感染対策について</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導</p> <p>(2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供</p> <p>(3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める</p> <p>(4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 3 回
・ 研修の主な内容： ○当院の医薬品インシデント：最近の傾向と対策	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (①・無) ・ 業務の主な内容： ○医薬品の採用・購入 ○医薬品の管理（麻薬等の管理方法等） ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い ○他施設（病院等、薬局等）との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにある PMDA 医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法○酸素療法○人工呼吸器の安全管理 等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (④・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (④・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 認定期間 (2012年6月15日～2017年4月14日)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 本院では、パンフレットやホームページにより、病院の理念、目標、案内、各診療科等の治療内容及び統計データについて触れ、より多くの方々に情報発信を行っている。 また、広報誌オアシス及び市民公開講座を定期的に作成、開催するなどして、本院の果たす役割を伝えている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 NSTにおいては内科系診療科医師、外科系診療科医師が組織の構成員となることが内規により定められており、また、減量治療センターにおいては内科系診療科医師、精神科医師、胃外科医師が定期的に術前検討会などを行い、治療方針について話し合われている。	